

## 1. 敷地周辺海域の地質・地質構造

### 2. 敷地前面海域の断層活動性評価

- (1) F-III断層, F-IV断層及びF-V断層
- (2)  $F_K$ -1断層
- (3) K-4撓曲, K-6撓曲及びK-7撓曲
- (4) F-I断層
- (5) F-II断層
- (6) F-VI断層
- (7) K-5撓曲
- (8) F-①断層及びF-②断層

### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価

- (1) 鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層
- (2) 大田沖断層
- (3) F57断層
- (4) K-1撓曲, K-2撓曲及び $F_{KO}$ 断層
- (5) 隠岐北西方の断層
- (6) 見島付近の断層
- (7) 見島北方沖の断層
- (8) 地蔵崎北東沖の断層

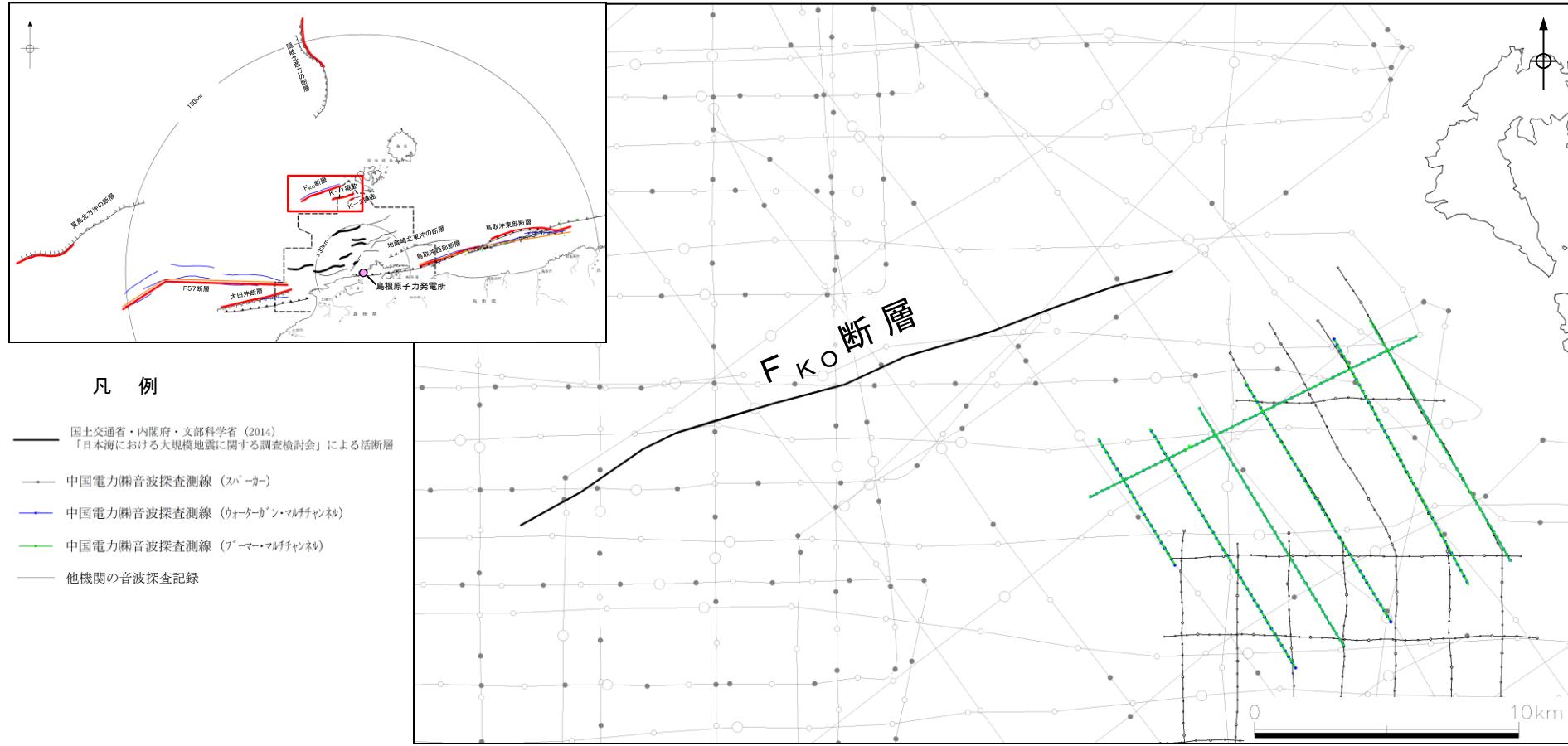
### 4. 敷地前面海域の地質層序

### 5. 敷地周辺海域の地質層序

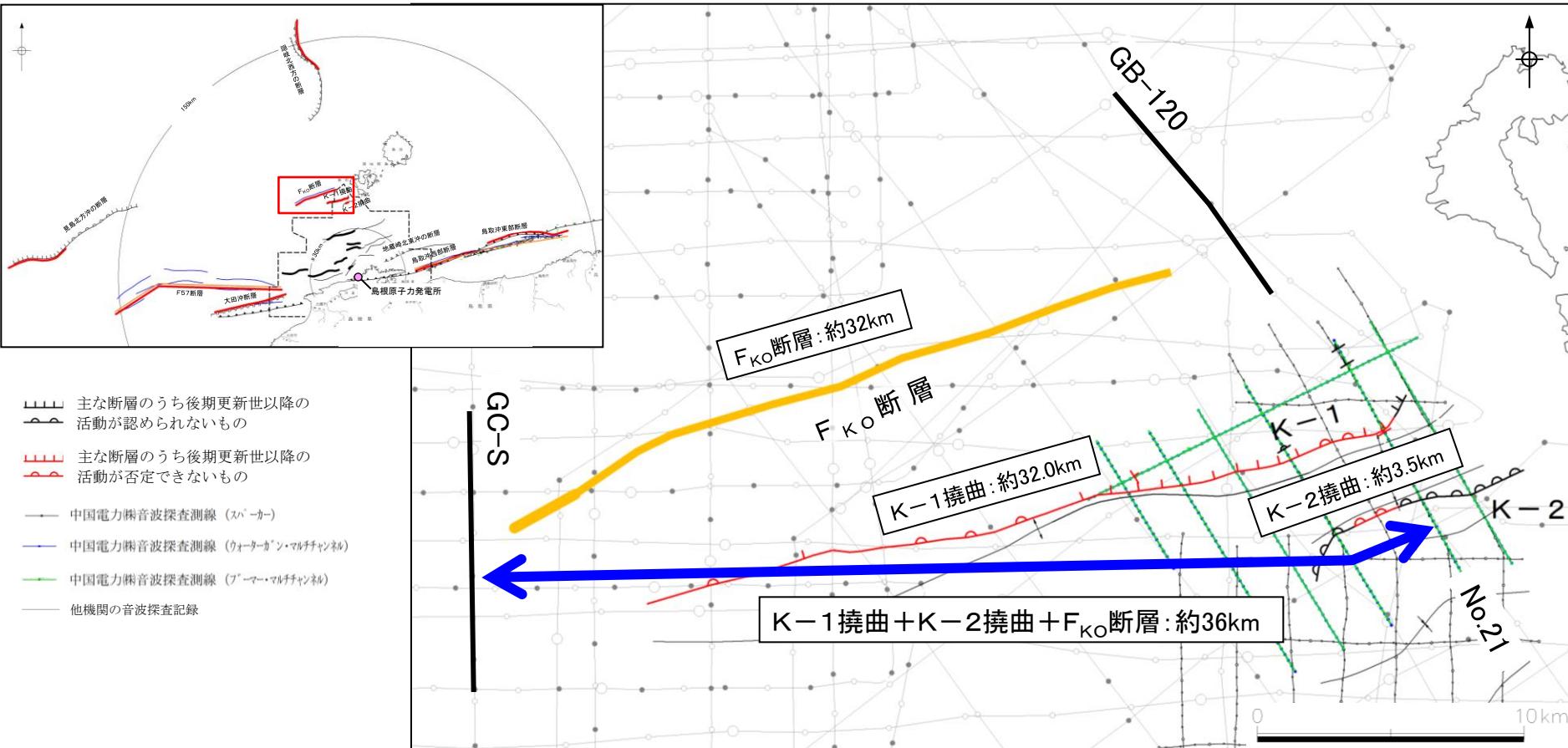
- (1) 鳥取沖
- (2) 大田沖
- (3) その他海域

### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (4) K-1撓曲, K-2撓曲及び $F_{KO}$ 断層

## K-1撓曲, K-2撓曲及び $F_{KO}$ 断層周辺における調査の概要



- ・国土交通省・内閣府・文部科学省(2014)で、隠岐諸島の南西沖に約27kmの断層(断層番号なし、以下「 $F_{KO}$ 断層」という。)が示された。
- ・ $F_{KO}$ 断層は、国土交通省・内閣府・文部科学省(2014)の評価に基づき震源として考慮する活断層として取り扱うが、断層端部評価に当たっては、地質調査所の音波探査記録及び当社の音波探査記録により検討した。

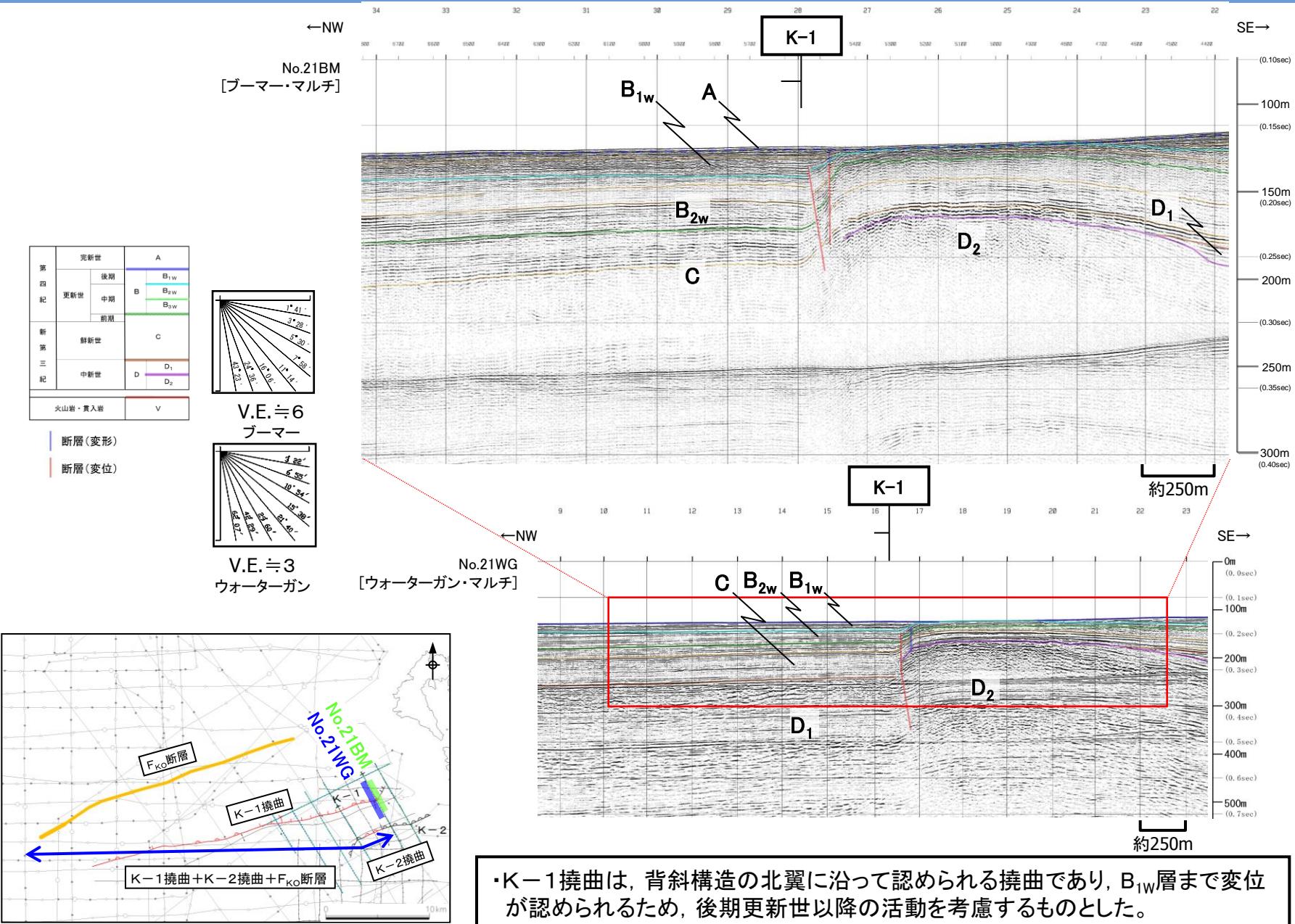
K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層の評価結果

・K-1撓曲及びK-2撓曲は、敷地前面海域北部に位置する2条の複背斜構造の北縁を形成する、東北東－西南西方向の走向、北落ちの断層であり、地質構造上の類似性が認められ、撓曲間の距離が近いことから、連動するものとして評価した。

・F<sub>KO</sub>断層は、断層主部では国土交通省・内閣府・文部科学省(2014)の評価に基づき震源として考慮する活断層として取り扱い、後期更新世以降の断層活動が認められないGB-120測線からGC-S測線までを考慮し、最大約32.0kmを評価した。

・K-1撓曲及びK-2撓曲は北落ちの撓曲であることから南傾斜の断層面が想定され、一方、F<sub>KO</sub>断層は音波探査記録から断層面はほぼ90°の傾斜であるため、両断層は地下深部で会合しないと考えられることから、連動の可能性は低いと考えられるが、K-1撓曲に隣接して国土交通省・内閣府・文部科学省(2014)にF<sub>KO</sub>断層が記載されていることを踏まえ、K-1撓曲、K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層の連動を考慮した場合の最大約36kmを評価長さとした。

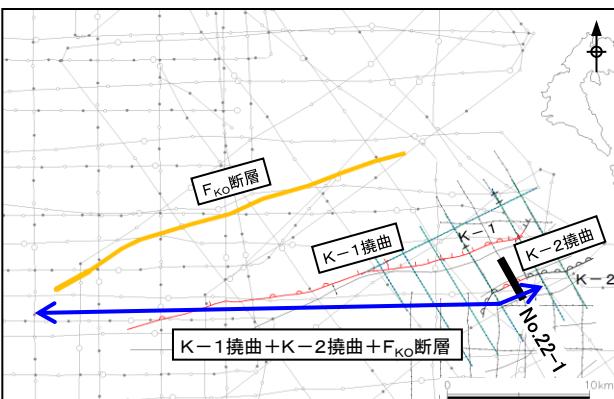
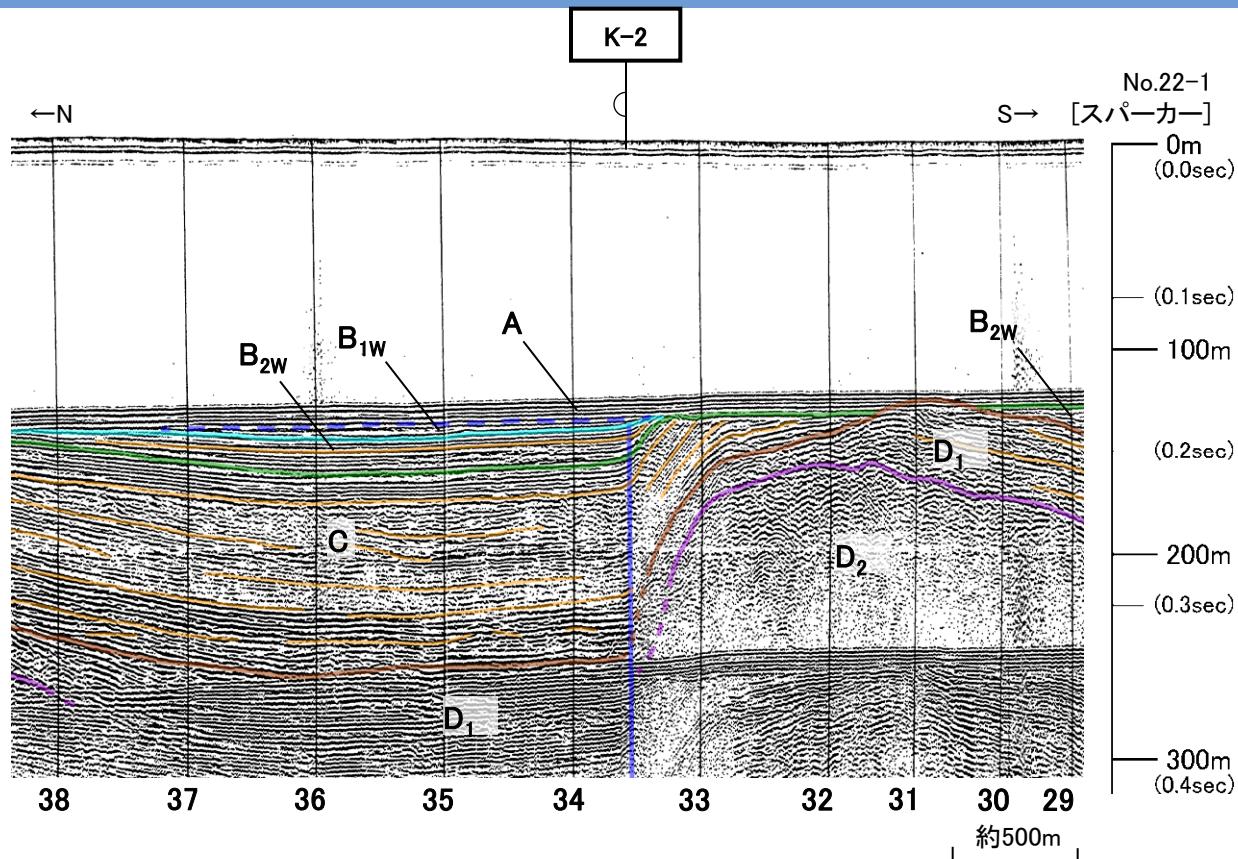
### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (4) K-1撓曲, K-2撓曲及び $F_{KO}$ 断層 K-1撓曲の代表測線(音波探査解析図)



3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (4) K-1 挾曲, K-2 挾曲及び  $F_{KO}$  断層  
**K-2 挾曲の代表測線(音波探査解析図)**

第95回審査会合  
 資料3-2 P20 加筆・修正

96

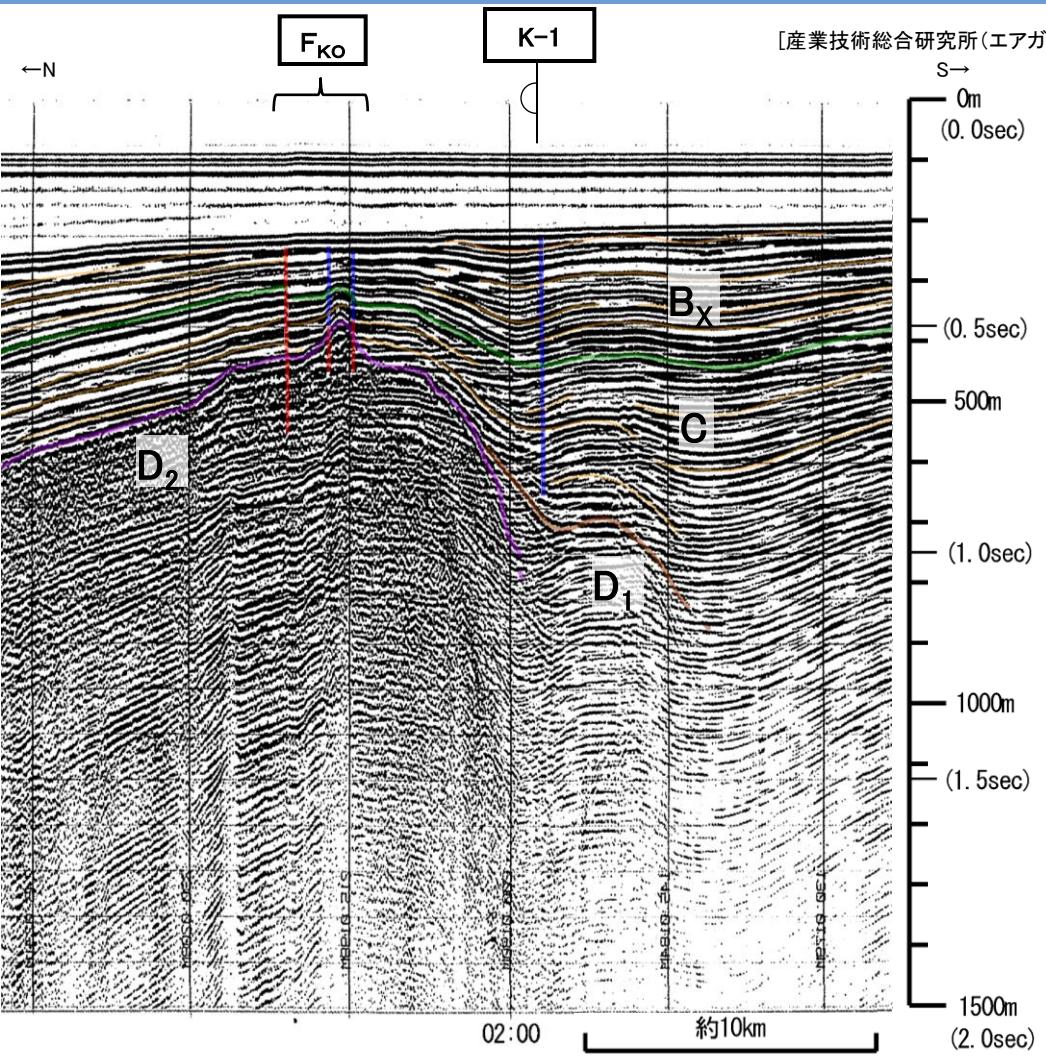
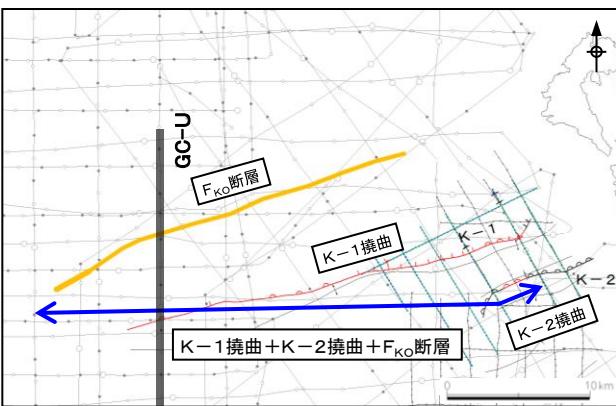
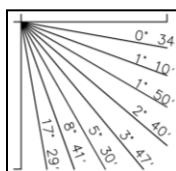


・K-2 挾曲は背斜構造の北翼に沿って認められる挟曲であり、B<sub>2W</sub>層までに変形が認められ、B<sub>1W</sub>層は層理が不明瞭であるため、後期更新世以降の活動を考慮するものとした。

3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (4) K-1 挾曲, K-2 挾曲及び  $F_{KO}$  断層  
 $F_{KO}$  断層の代表測線(音波探査解析図)

第297回審査会合  
 資料3 P58 加筆・修正

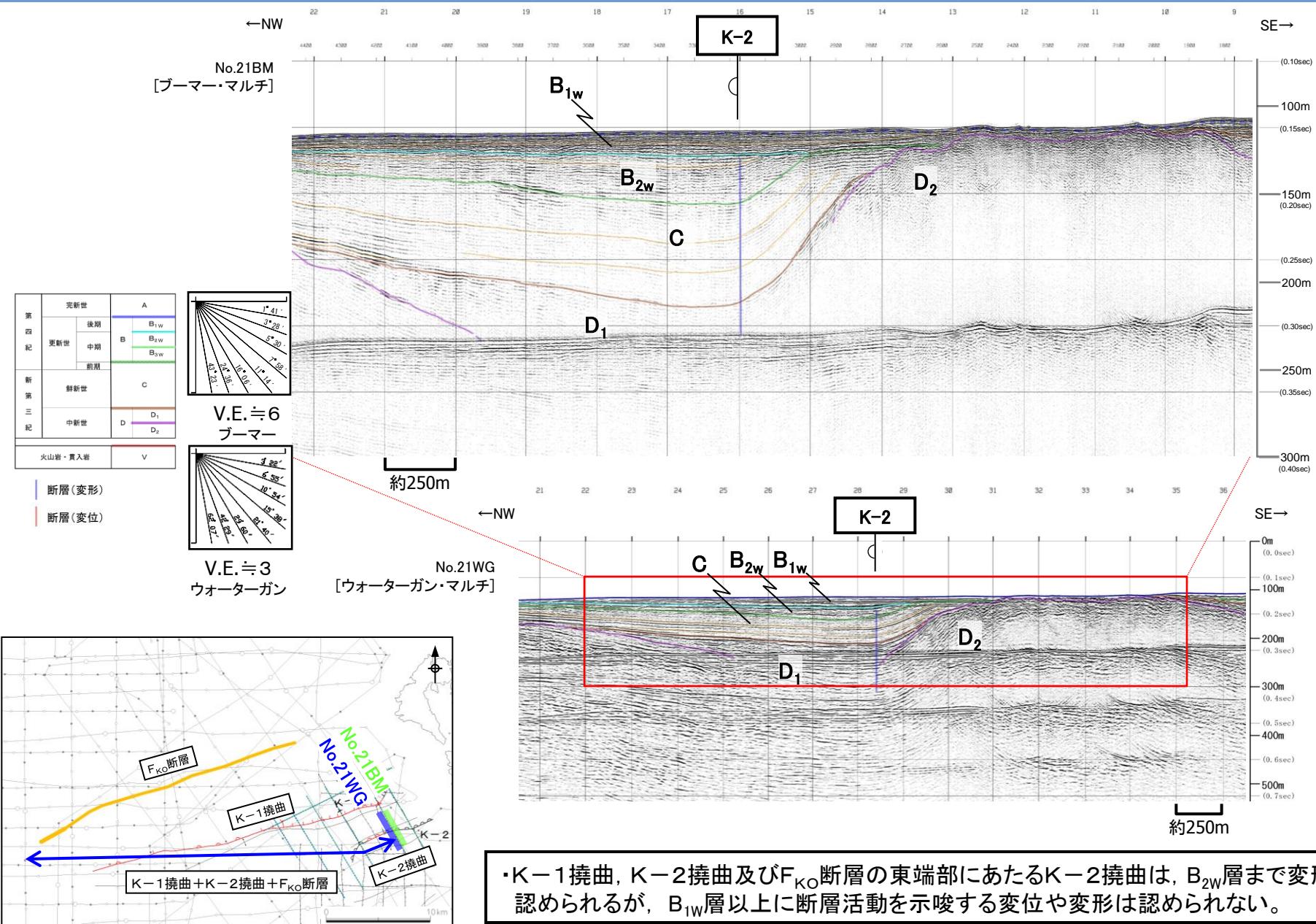
97

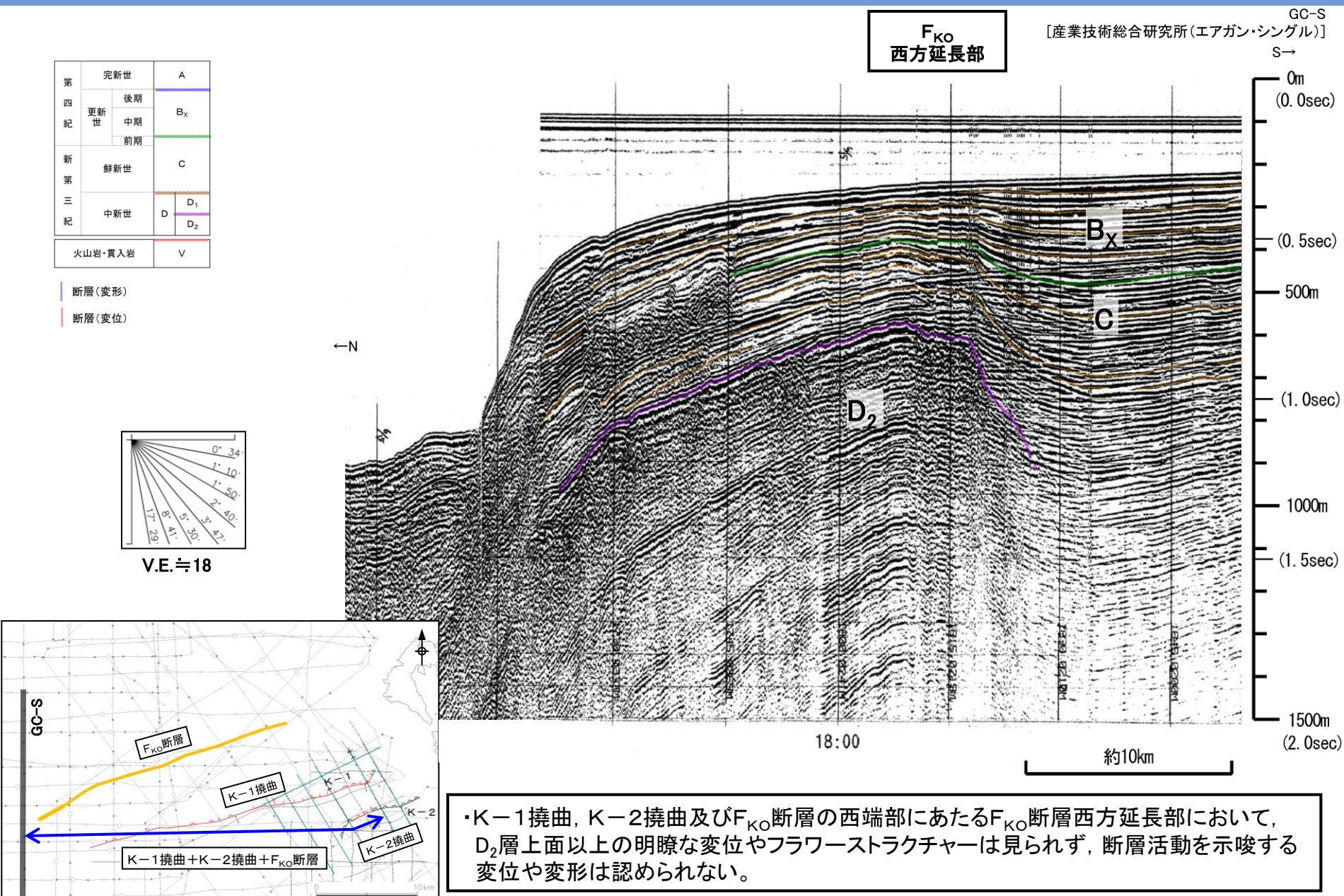


•  $F_{KO}$  断層は、D<sub>2</sub>層の高まりの頂部に位置し、D<sub>2</sub>層上面以上に明瞭な変位や変形が認められ、正のフラワーストラクチャーを示す。

### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (4) K-1撓曲, K-2撓曲及び $F_{KO}$ 断層

## K-1撓曲, K-2撓曲及び $F_{KO}$ 断層の東端(音波探査解析図)



K-1 挾曲, K-2 挾曲及び  $F_{KO}$  断層の西端(音波探査解析図)

## 1. 敷地周辺海域の地質・地質構造

### 2. 敷地前面海域の断層活動性評価

- (1) F-III断層, F-IV断層及びF-V断層
- (2) FK-1断層
- (3) K-4撓曲, K-6撓曲及びK-7撓曲
- (4) F-I断層
- (5) F-II断層
- (6) F-VI断層
- (7) K-5撓曲
- (8) F-①断層及びF-②断層

### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価

- (1) 鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層
- (2) 大田沖断層
- (3) F57断層
- (4) K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層
- (5) 隠岐北西方の断層
- (6) 見島付近の断層
- (7) 見島北方沖の断層
- (8) 地蔵崎北東沖の断層

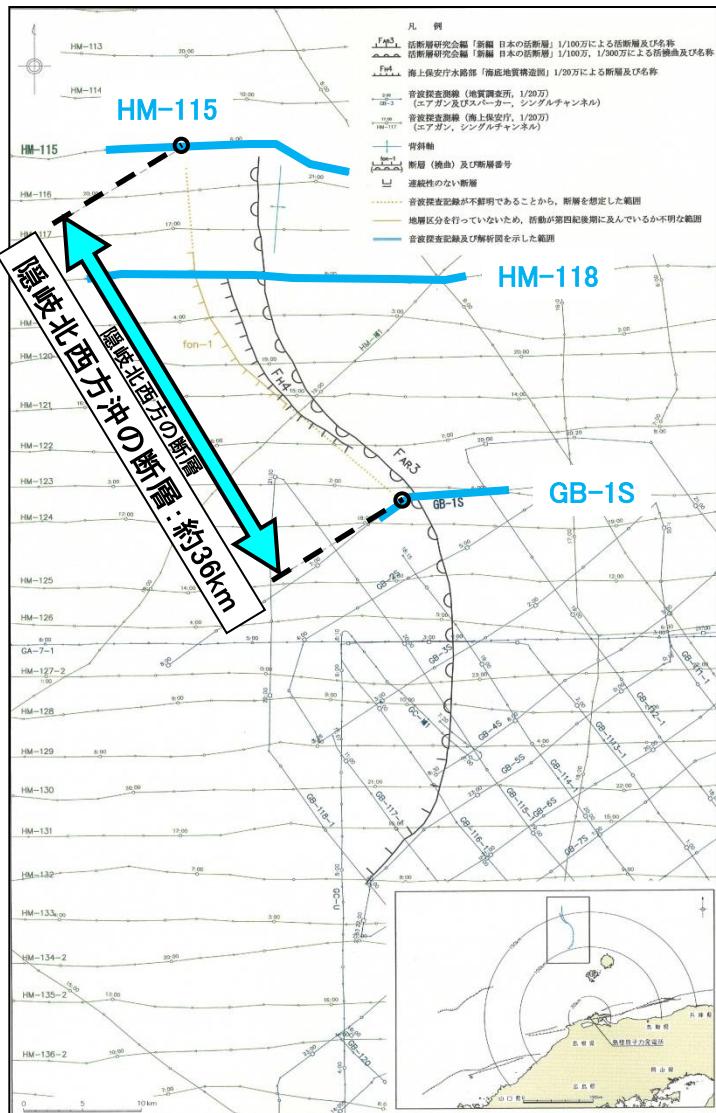
### 4. 敷地前面海域の地質層序

### 5. 敷地周辺海域の地質層序

- (1) 鳥取沖
- (2) 大田沖
- (3) その他海域

## 隠岐北西方の断層の評価

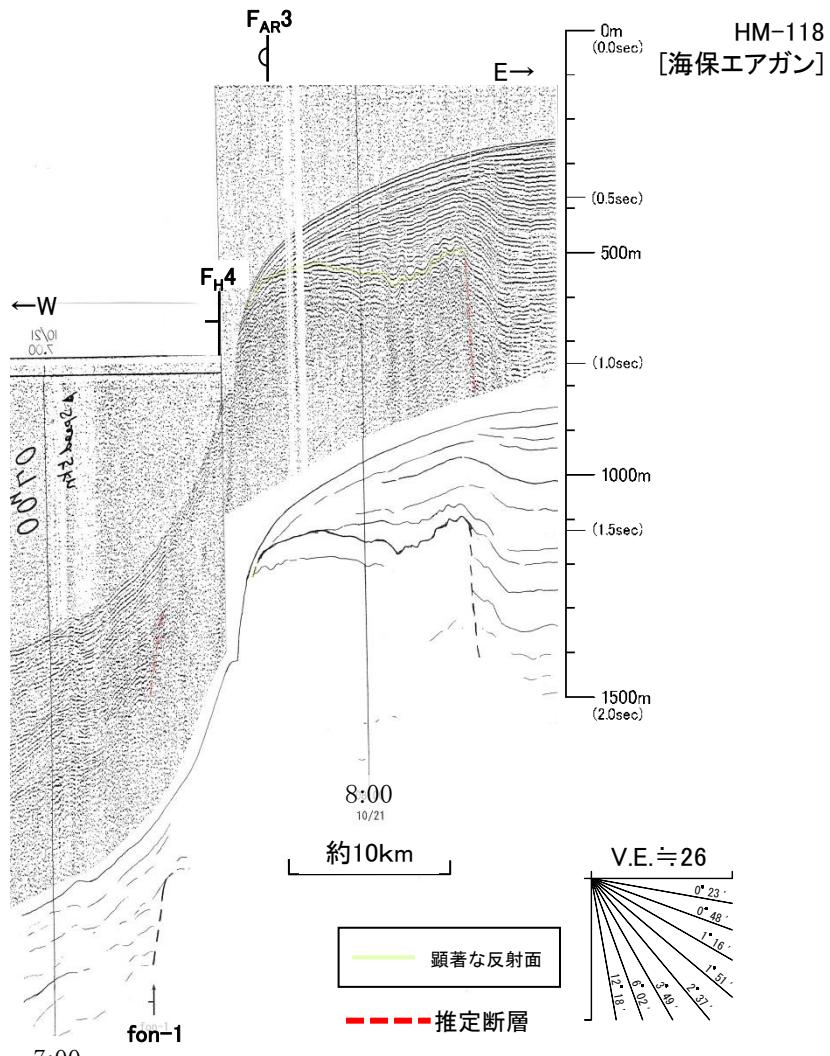
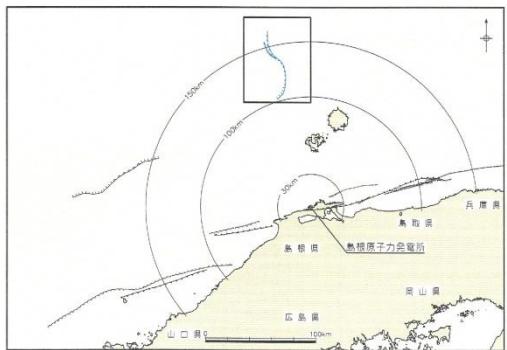
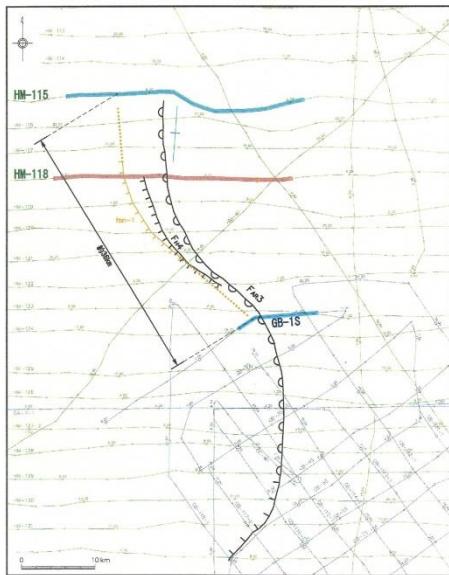
隠岐北西方の断層の位置図



活断層研究会編(1991)<sup>(34)</sup>等で隠岐北西方の大陸斜面に示された断層(以下「隠岐北西方の断層」という。)について、海上保安庁水路部(1980)<sup>(35)</sup>等の音波探査記録に基づいて、分布性状及び活動性を検討した。

- ・隠岐北西方の断層については、海上保安庁水路部等の音波探査記録によれば、文献で示されている断層の中央部及び南部においては断層が認められない。
- ・北部においては海上保安庁水路部の音波探査記録によれば、約36km区間で一部に不明瞭な部分があり、活動が後期更新世以降に及んでいる可能性のある断層も認められるが、敷地からの距離を考慮すると、敷地に与える影響は小さいと評価した。

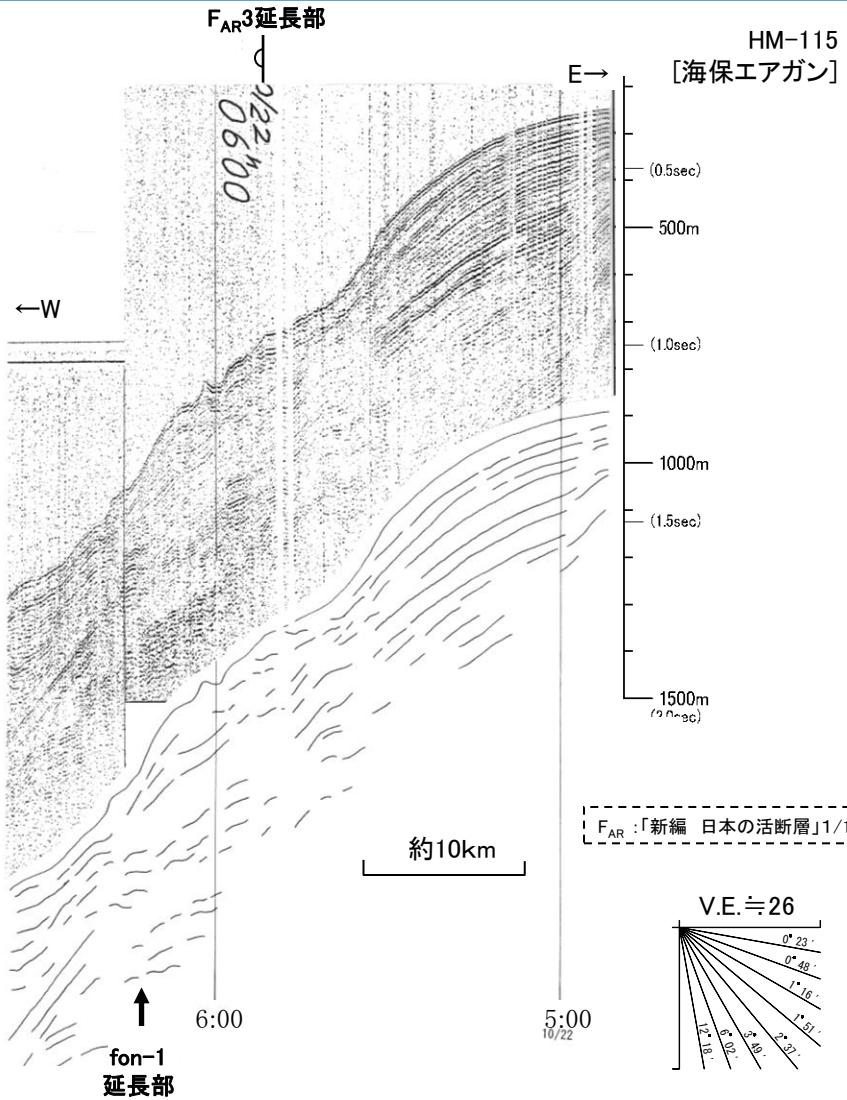
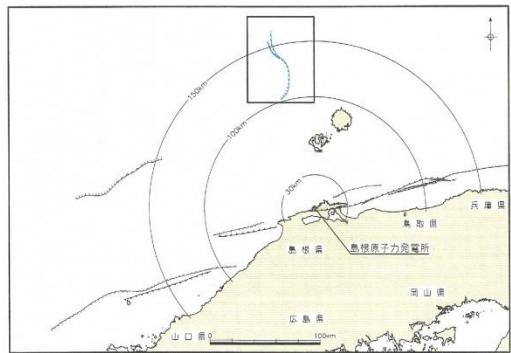
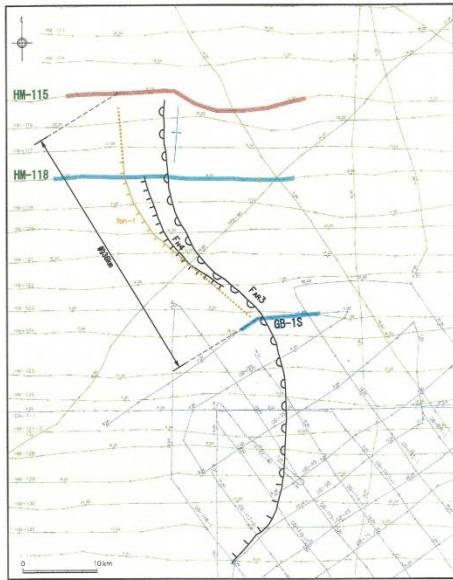
## 隠岐北西方の断層の代表測線(音波探査解析図)



$F_{AR}$  :「新編 日本の活断層」1/100万, 1/300万による活撓曲  
 $F_H$  :海上保安庁水路部「海底地質構造図」1/20万による断層

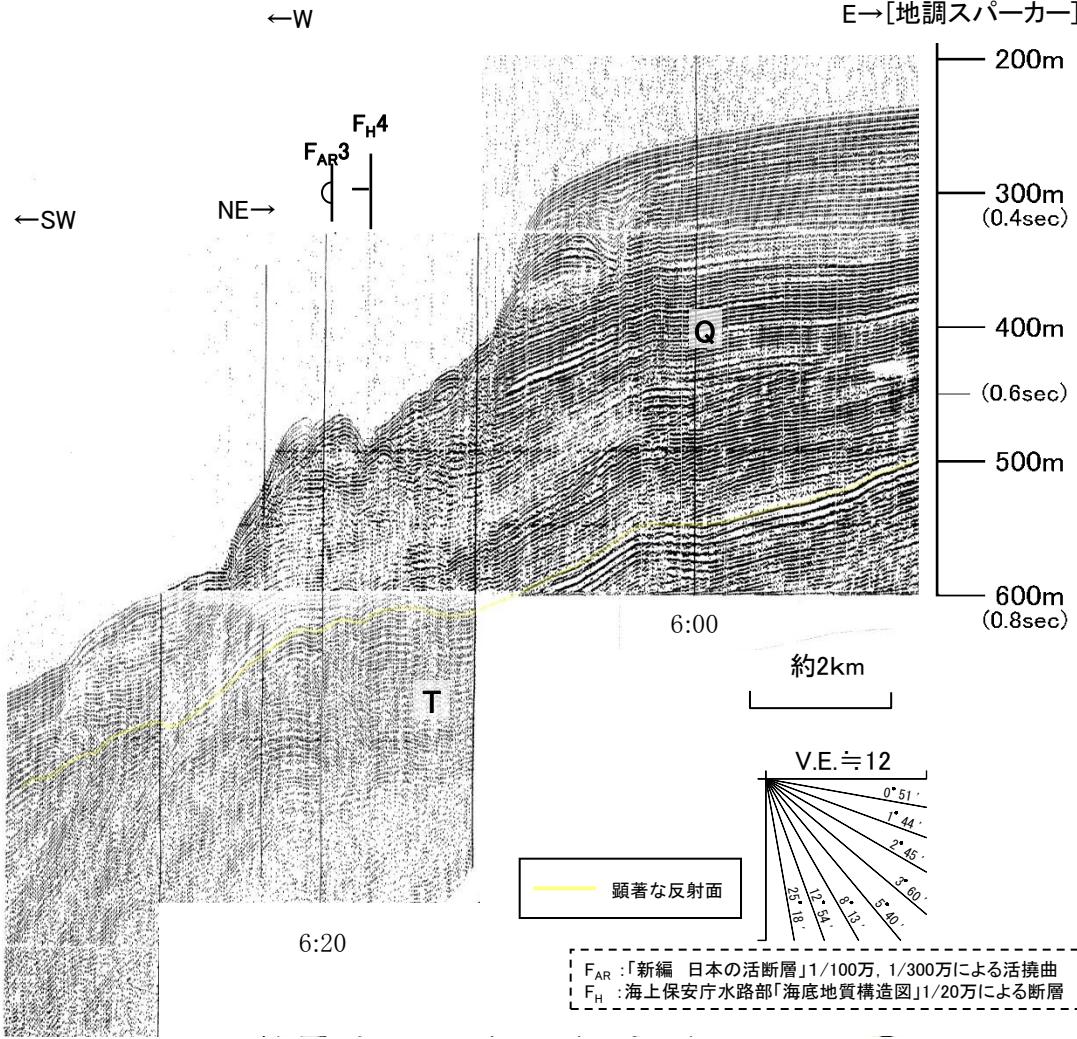
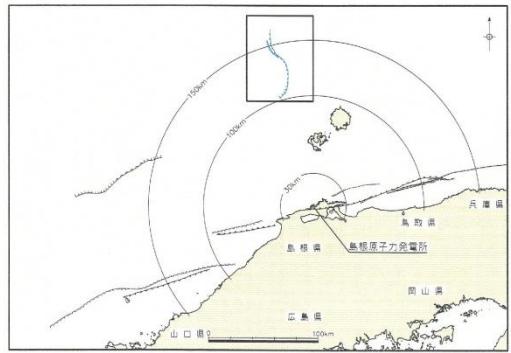
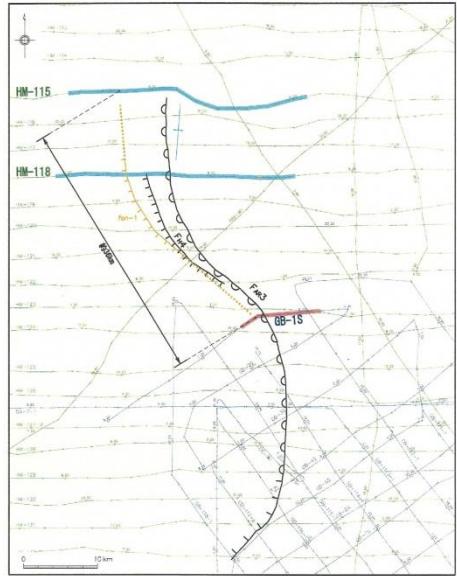
- 文献断層(撓曲)位置周辺には、海底下深部までに変位を与えるfon-1断層が認められる。
- fon-1断層は、海底下浅部には変位や変形を与えていない。

## 隠岐北西方の断層の北端(音波探査解析図)



文献断層(摺曲)延長部周辺において、海底下深部に変位や変形は認められない。

## 隠岐北西方の断層の南端(音波探査解析図)



文献断層位置周辺には、T層(中新統～下部更新統)の上部に変位や変形は認められない。

## 1. 敷地周辺海域の地質・地質構造

### 2. 敷地前面海域の断層活動性評価

- (1) F-III断層, F-IV断層及びF-V断層
- (2) FK-1断層
- (3) K-4撓曲, K-6撓曲及びK-7撓曲
- (4) F-I断層
- (5) F-II断層
- (6) F-VI断層
- (7) K-5撓曲
- (8) F-①断層及びF-②断層

### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価

- (1) 鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層
- (2) 大田沖断層
- (3) F57断層
- (4) K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層
- (5) 隠岐北西方の断層
- (6) 見島付近の断層
- (7) 見島北方沖の断層
- (8) 地蔵崎北東沖の断層

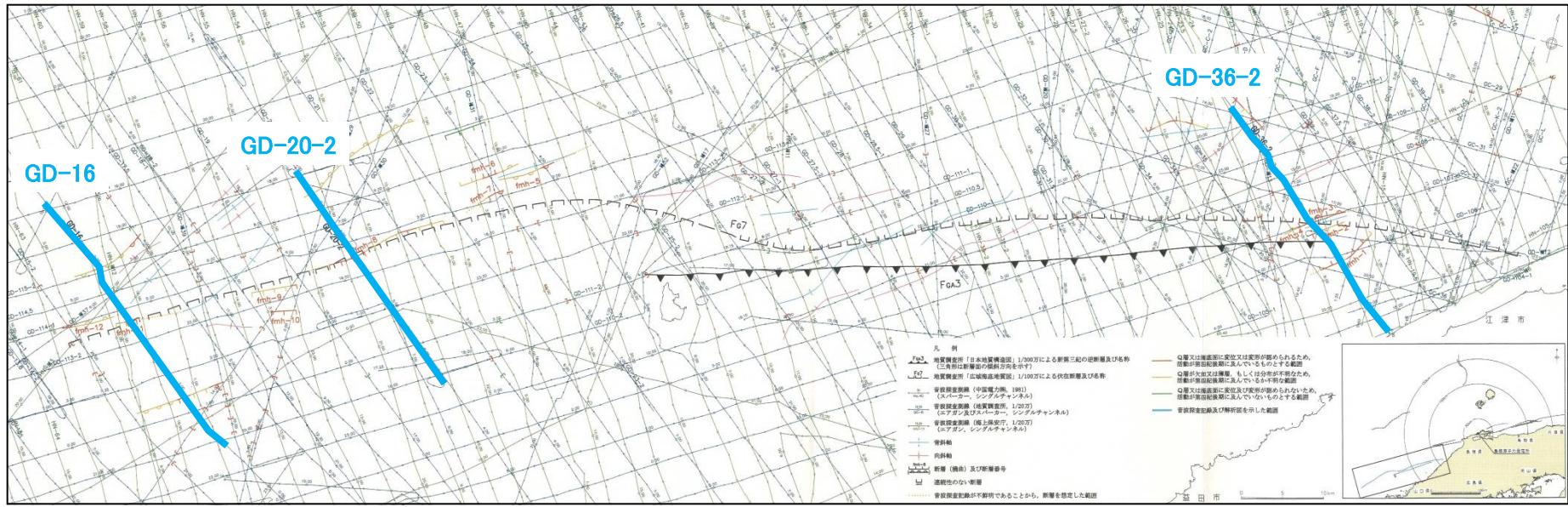
### 4. 敷地前面海域の地質層序

### 5. 敷地周辺海域の地質層序

- (1) 鳥取沖
- (2) 大田沖
- (3) その他海域

# 見島付近の断層の評価

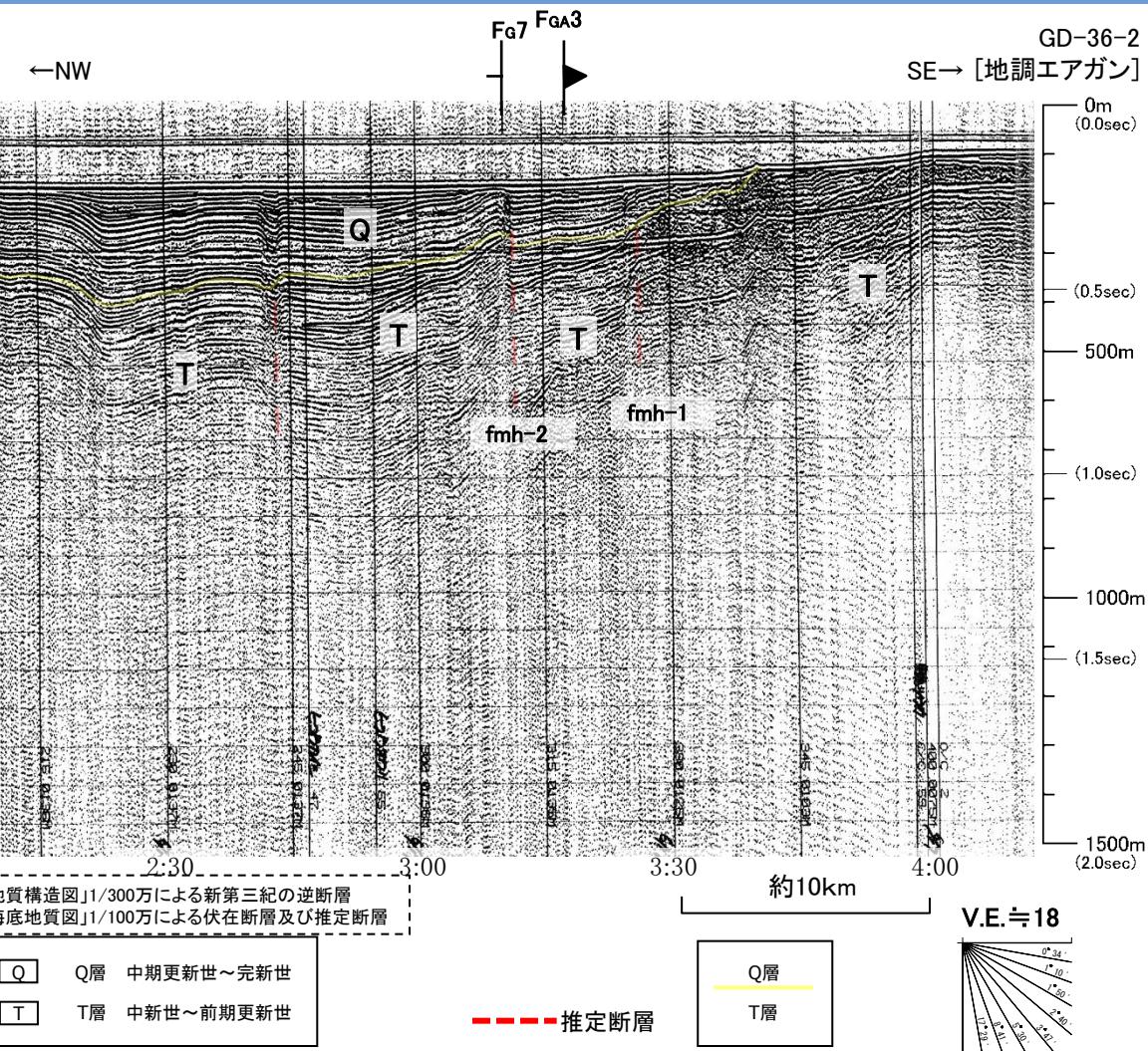
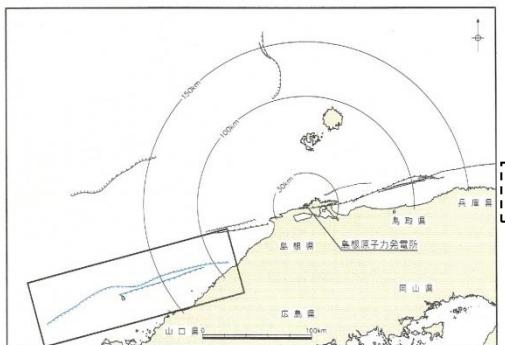
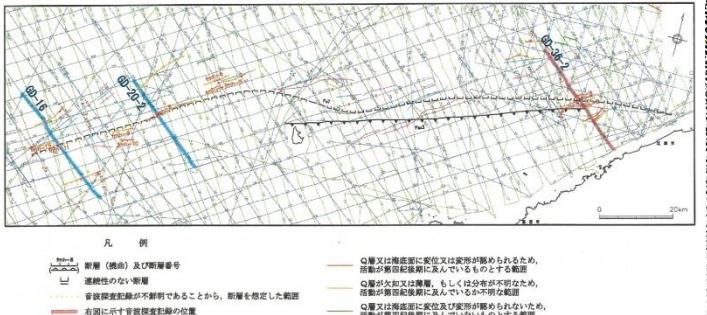
見島付近の断層の位置図



脇田ほか(1992)等で島根県西部から福岡県沿岸の大陸棚に示された断層(以下「見島付近の断層」という。)について、海上保安庁水路部等の音波探査記録に基づいて、分布性状及び活動性を検討した。

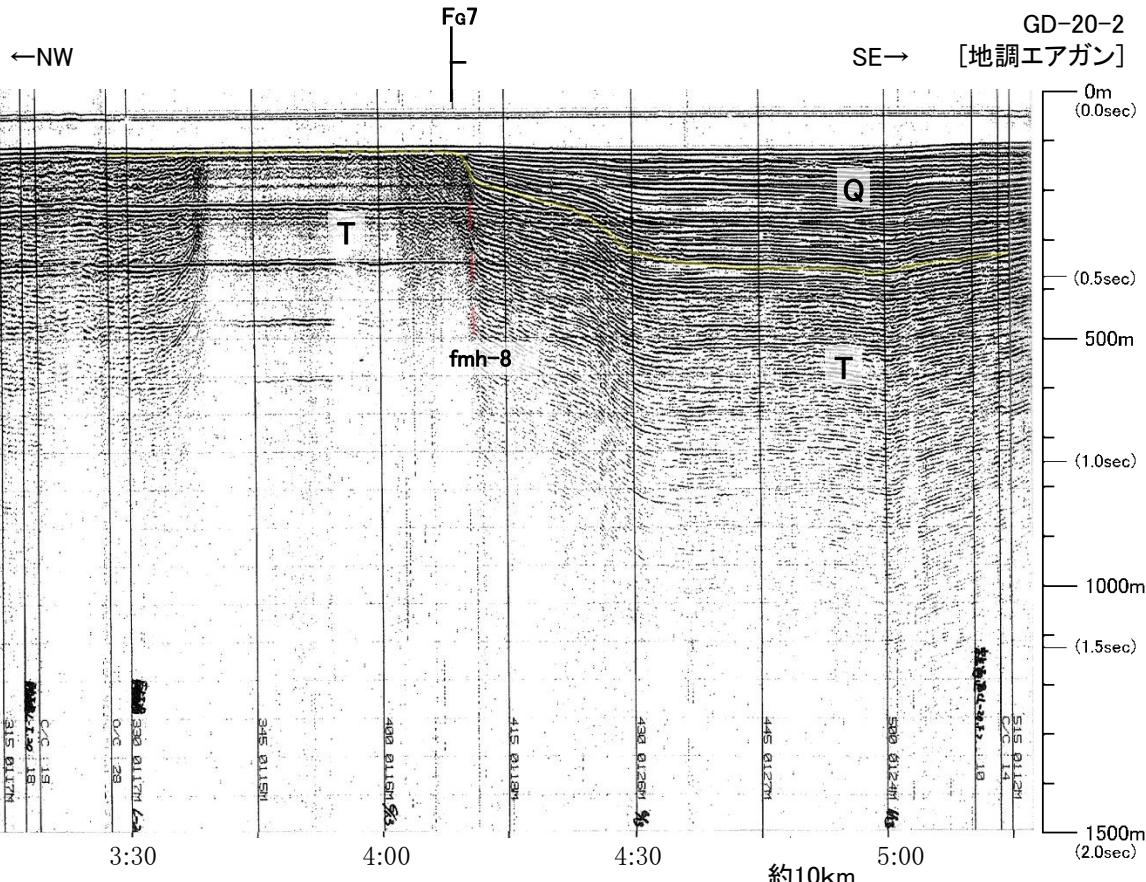
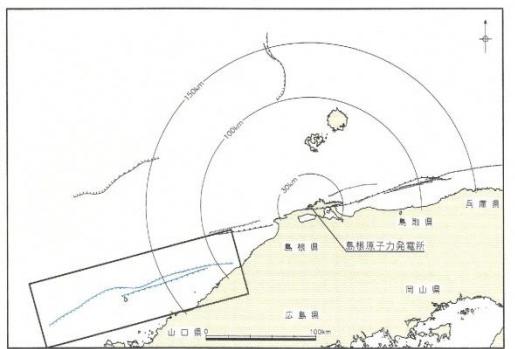
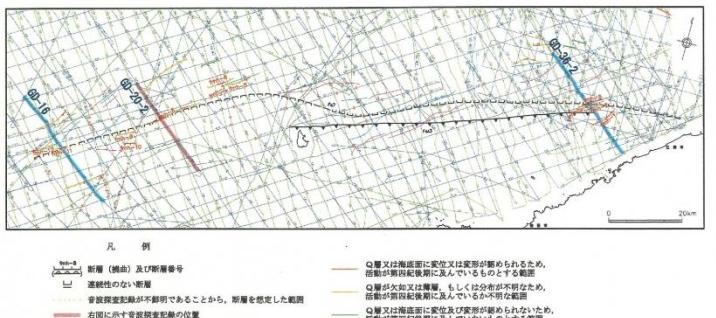
- ・見島付近の断層については、文献で示されている断層の中央部においては、海上保安庁水路部等の音波探査記録によれば、中部更新統以上には連續性のある断層は認められない。
- ・東部及び西部においては中部更新統以上に影響を与える数条の断層が認められるが、いずれも長さが短く、敷地からの距離を考慮すると、敷地に与える影響は小さいと評価した。

## 見島付近の断層の代表測線-1(音波探査解析図)



文献断層位置周辺には、T層(中新統～下部更新統)までに変位を、Q層(中部更新統～完新統)までに変形を与えるfmh-2断層と、T層までに変位を、Q層の下部までに変形を与え、Q層の上部には変位や変形を与えていないfmh-1断層が認められる。

## 見島付近の断層の代表測線-2(音波探査解析図)



F<sub>G</sub> : 地質調査所「広域海底地質図」1/100万による伏在断層及び推定断層

[Q] Q層 中期更新世～完新世

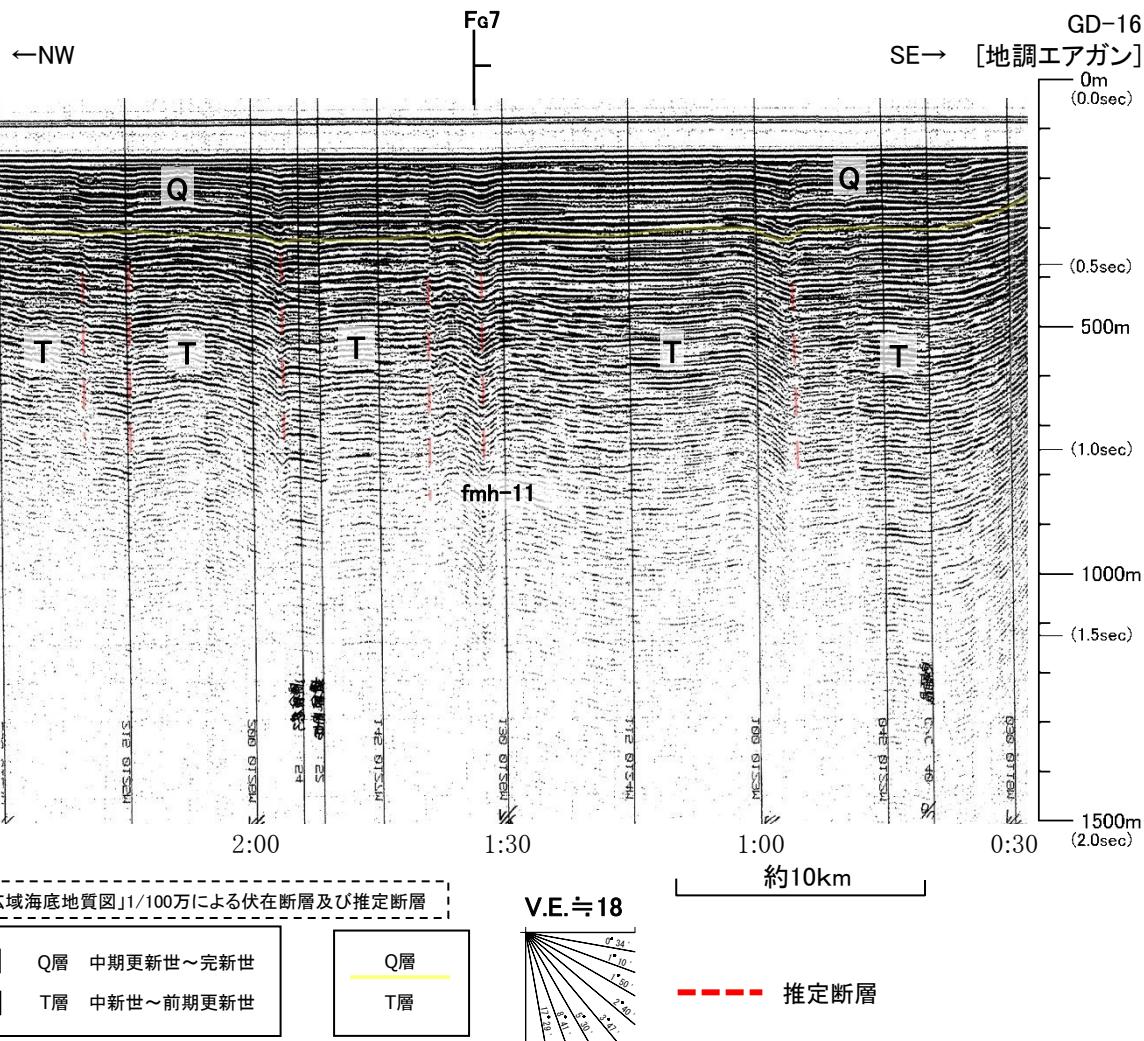
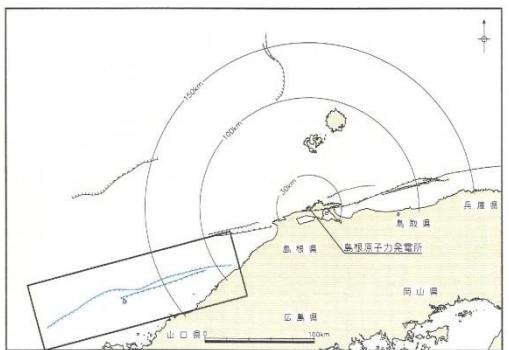
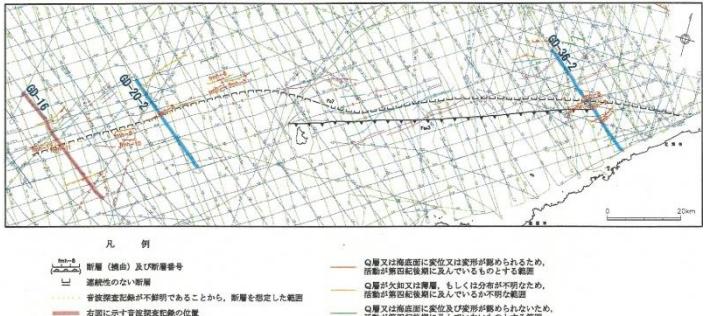
[T] T層 中新世～前期更新世

[Q] Q層

[T] T層

- 文献断層位置周辺には、T層(中新統～下部更新統)までに変位を、Q層(中部更新統～完新統)の下部までに変形を与えるfmh-8断層が認められる。
- fmh-8断層は、Q層の上部には変位や変形を与えていない。

## 見島付近の断層の代表測線-3(音波探査解析図)



- 文献断層位置周辺には、T層(中新統～下部更新統)までに変位を、Q層(中部更新統～完新統)の下部までに変形を与えるfmh-11断層が認められる。
- fmh-11断層は、Q層の上部には変位や変形を与えていない。

## 1. 敷地周辺海域の地質・地質構造

### 2. 敷地前面海域の断層活動性評価

- (1) F-III断層, F-IV断層及びF-V断層
- (2) FK-1断層
- (3) K-4撓曲, K-6撓曲及びK-7撓曲
- (4) F-I断層
- (5) F-II断層
- (6) F-VI断層
- (7) K-5撓曲
- (8) F-①断層及びF-②断層

### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価

- (1) 鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層
- (2) 大田沖断層
- (3) F57断層
- (4) K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層
- (5) 隠岐北西方の断層
- (6) 見島付近の断層
- (7) 見島北方沖の断層
- (8) 地蔵崎北東沖の断層

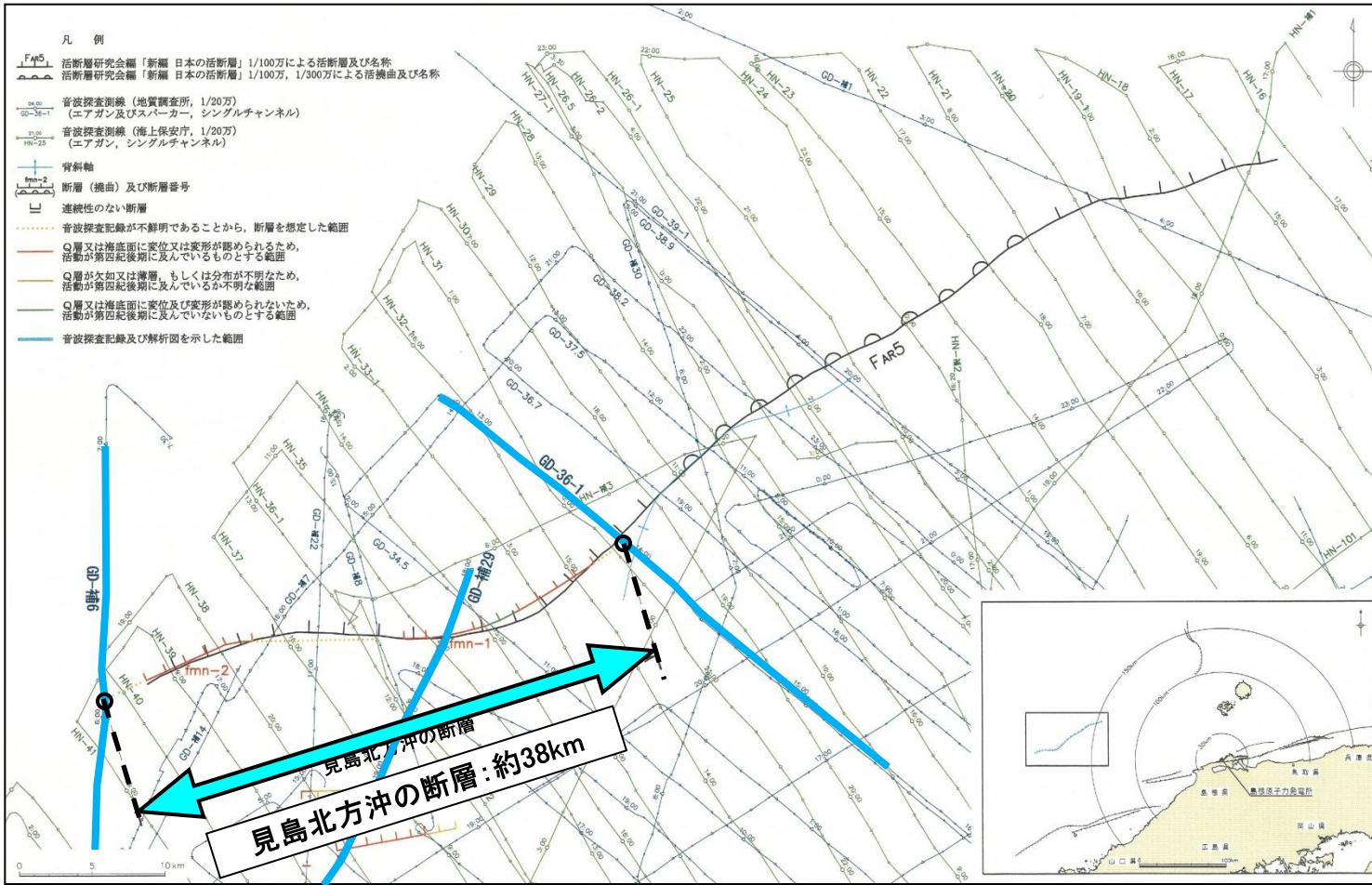
### 4. 敷地前面海域の地質層序

### 5. 敷地周辺海域の地質層序

- (1) 鳥取沖
- (2) 大田沖
- (3) その他海域

## 見島北方沖の断層の評価

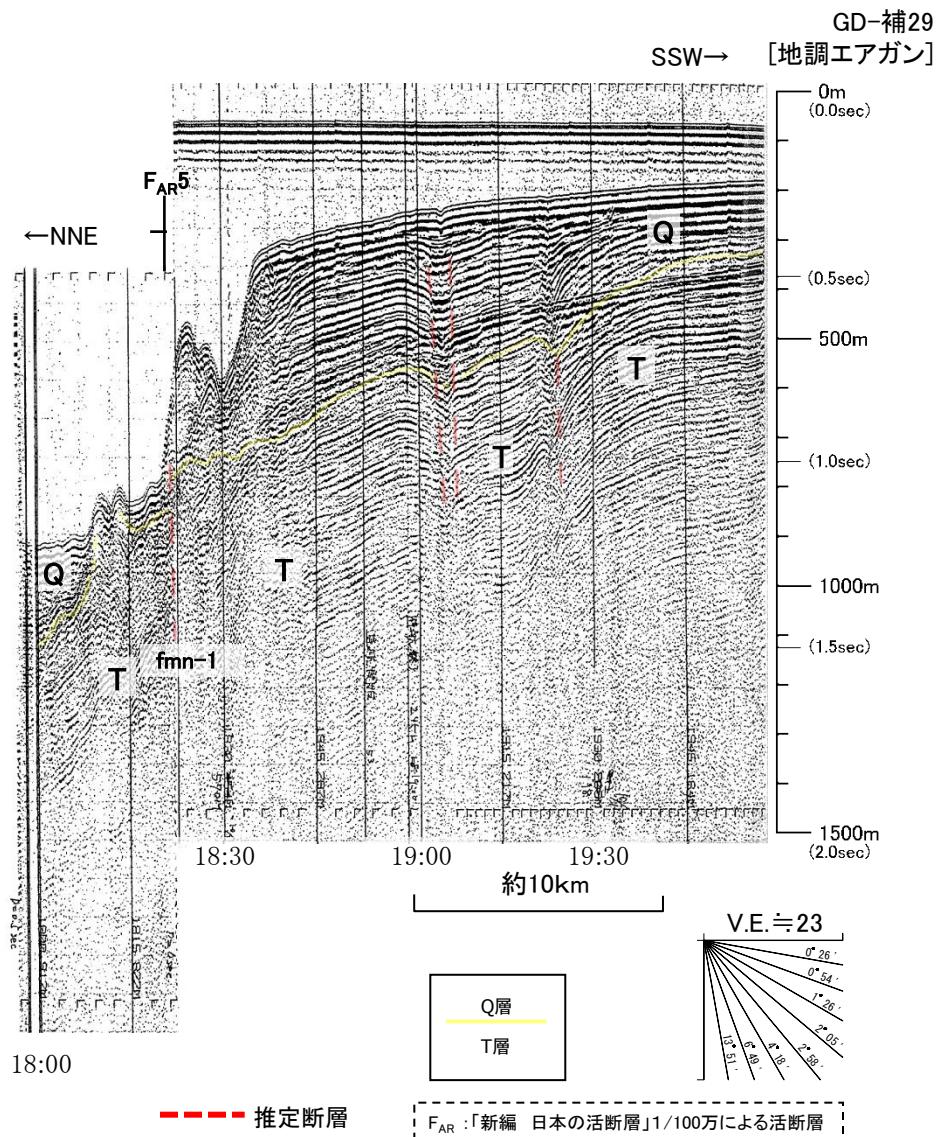
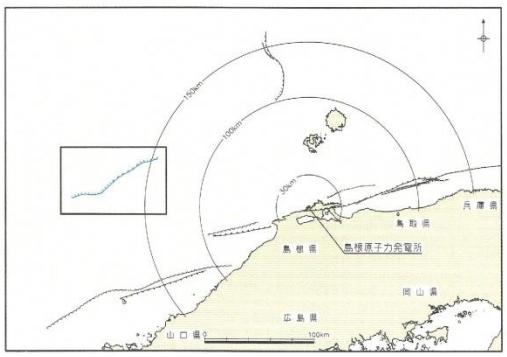
## 見島北方沖の断層の位置図



活断層研究会編(1991)で見島北方沖の大陸斜面に示された断層(以下「見島北方沖の断層」という。)について、海上保安庁水路部等の音波探査記録に基づいて、分布性状及び活動性を検討した。

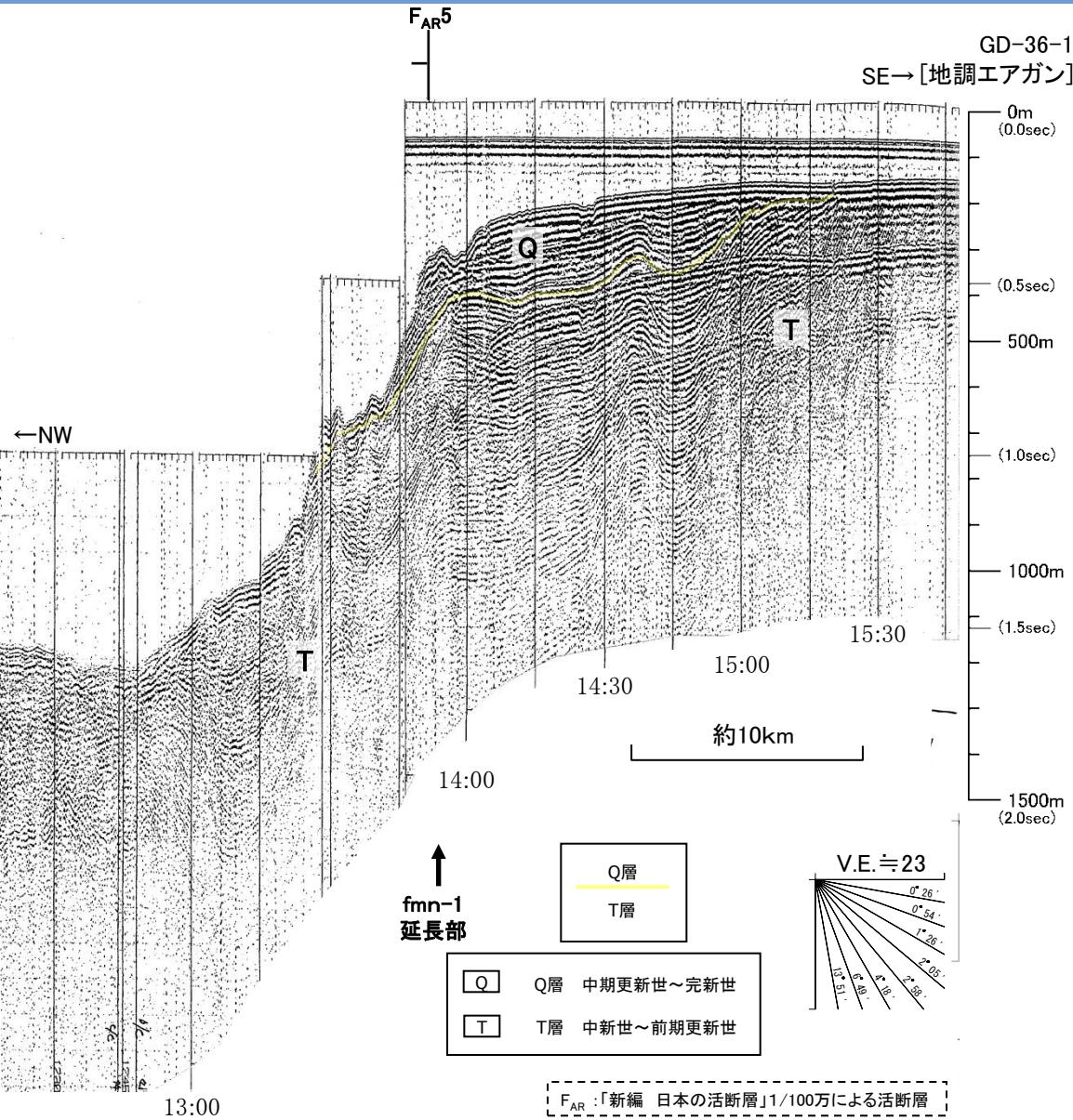
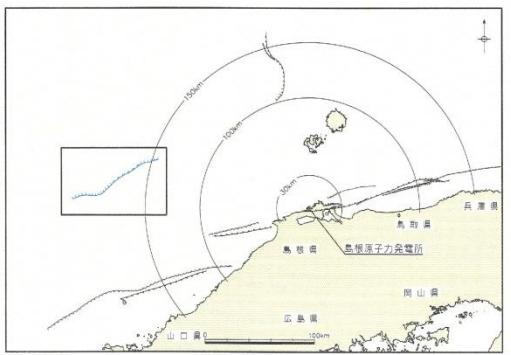
- ・見島北方沖の断層については、海上保安庁水路部等の音波探査記録によれば、文献で示されている断層の東部においては、中部更新統以上に連続性のある断層は認められない。
- ・西部においては、海上保安庁水路部等の音波探査記録によれば、約38km区間で一部に不明瞭な部分もあるが、中部更新統以上に影響を与えていたる断層が認められる。この約38km区間にについて、活動が後期更新世以降に及んでいる可能性があるが、敷地からの距離を考慮すると、敷地に与える影響は小さいと評価した。

## 見島北方沖の断層の代表測線(音波探査解析図)



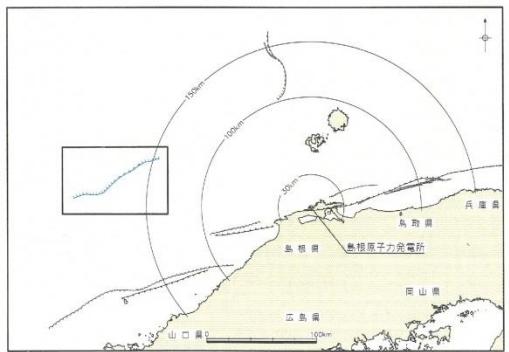
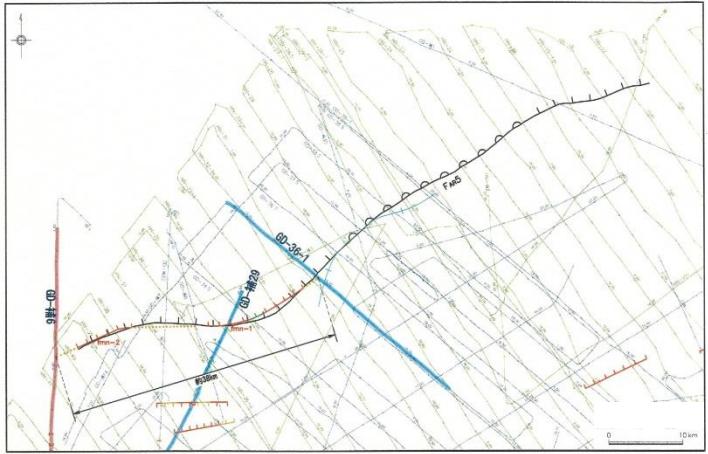
文献断層位置周辺には、Q層(中部更新統～完新統)までに変位を与えるfmn-1断層が認められる。

## 見島北方沖の断層の東端(音波探査解析図)

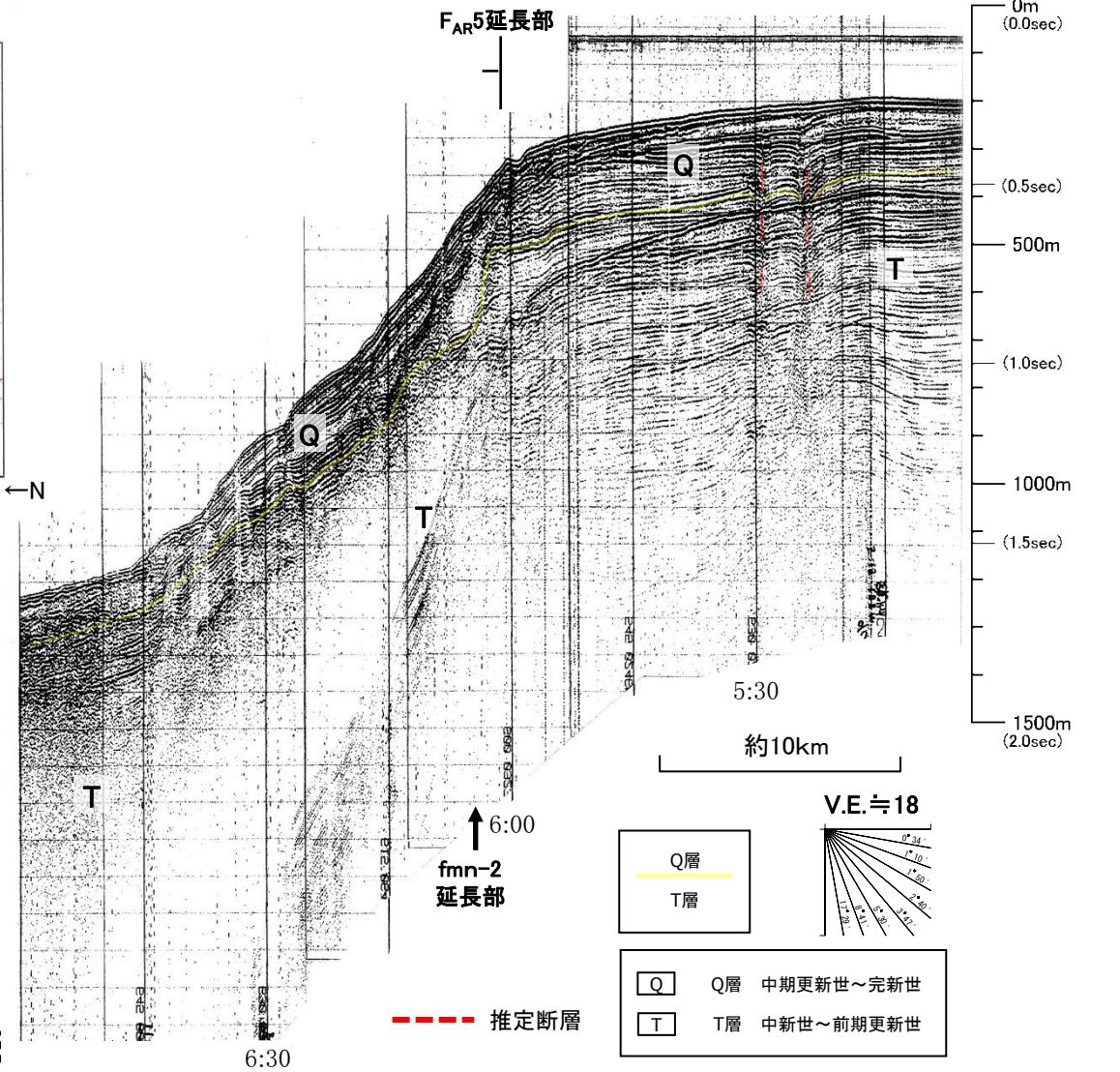


文献断層位置及びfmn-1断層延長部周辺には、T層(中新統～下部更新統)に変位や変形は認められない。

## 見島北方沖の断層の西端(音波探査解析図)



F<sub>AR</sub> :「新編 日本の活断層」1/100万による活断層



文献断層延長部及びfmn-2断層延長部周辺には、T層(中新統～下部更新統)に変位や変形は認められない。

## 1. 敷地周辺海域の地質・地質構造

### 2. 敷地前面海域の断層活動性評価

- (1) F-III断層, F-IV断層及びF-V断層
- (2) FK-1断層
- (3) K-4撓曲, K-6撓曲及びK-7撓曲
- (4) F-I断層
- (5) F-II断層
- (6) F-VI断層
- (7) K-5撓曲
- (8) F-①断層及びF-②断層

### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価

- (1) 鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層
- (2) 大田沖断層
- (3) F57断層
- (4) K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層
- (5) 隠岐北西方の断層
- (6) 見島付近の断層
- (7) 見島北方沖の断層
- (8) 地蔵崎北東沖の断層

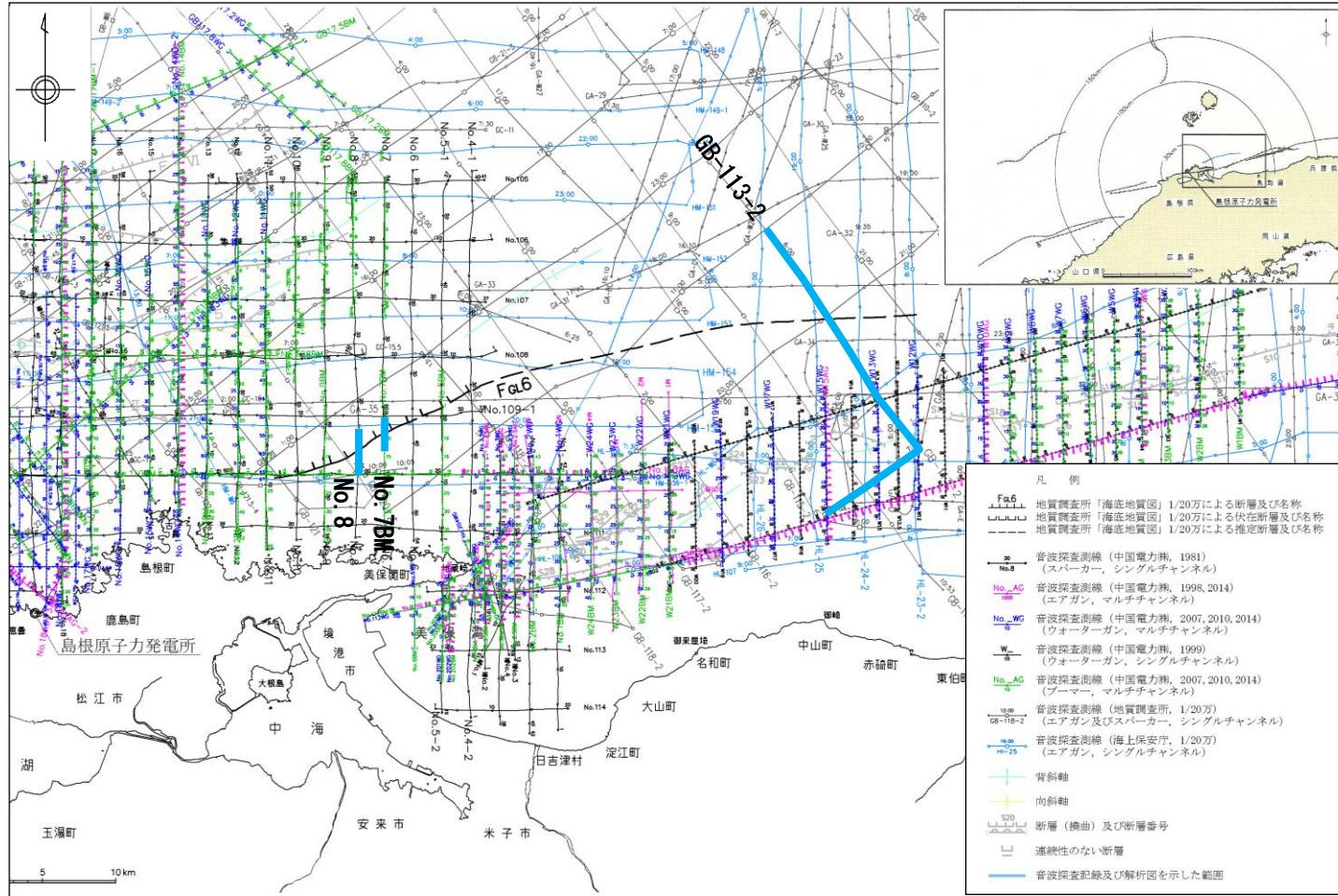
### 4. 敷地前面海域の地質層序

### 5. 敷地周辺海域の地質層序

- (1) 鳥取沖
- (2) 大田沖
- (3) その他海域

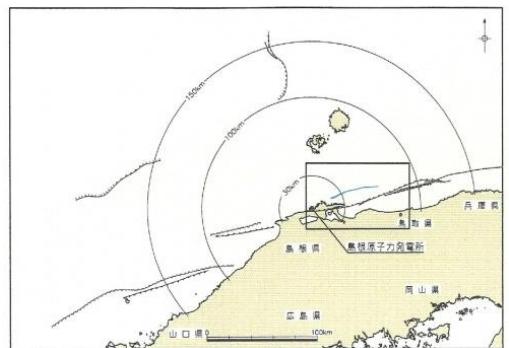
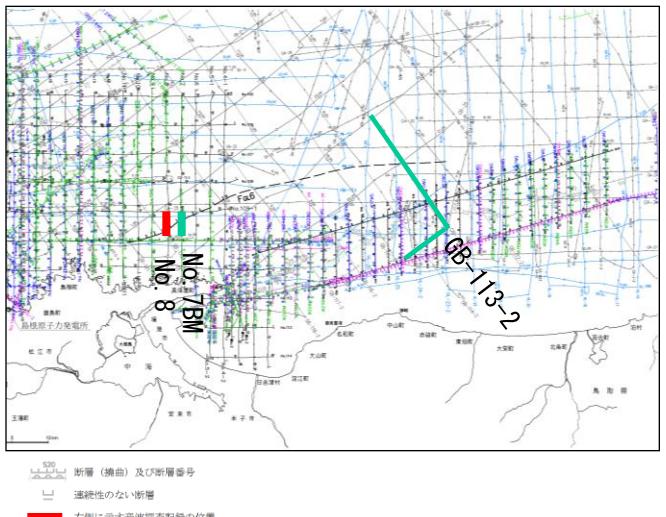
# 地蔵崎北東沖の断層の評価

地蔵崎北東方沖の断層の位置図

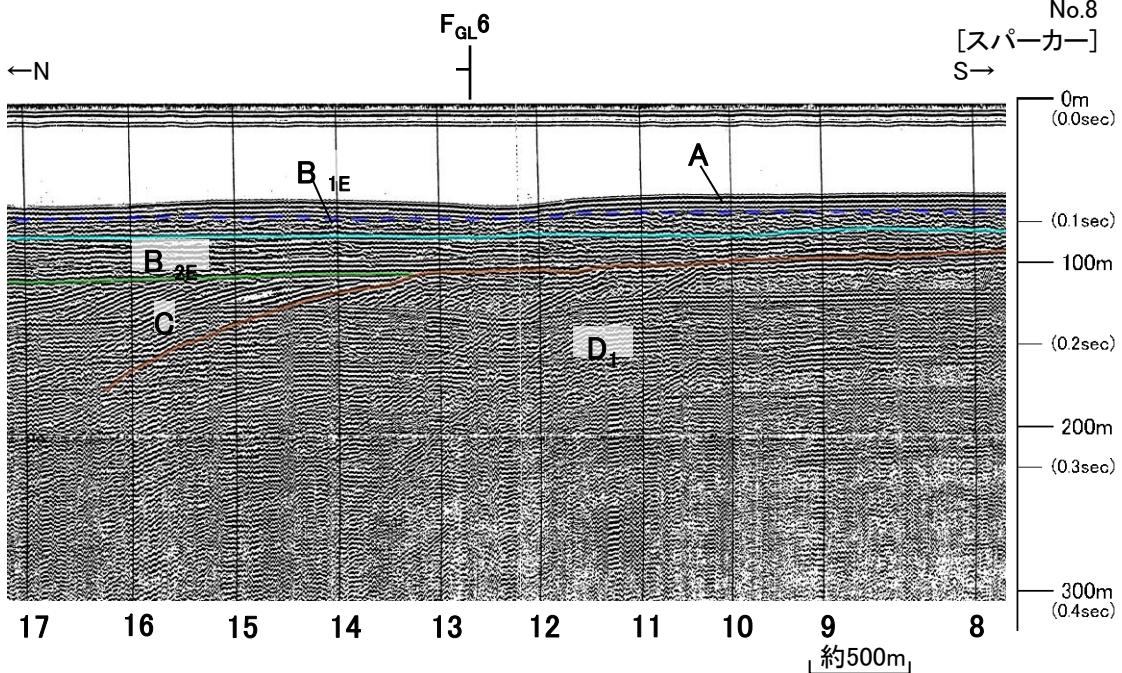


玉木ほか(1982)<sup>(36)</sup>で鳥取県東部から島根半島東部沿岸の大陸棚に示された断層(以下「地蔵崎北東沖の断層」という。)について、当社及び海上保安庁水路部等の音波探査記録に基づいて、分布性状及び活動性を検討した。

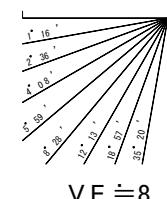
- 地蔵崎北東沖の断層については、当社、海上保安庁水路部等の音波探査記録によれば、文献に示されている断層位置において、中部更新統以上に変位や変形は認められない。
- 地蔵崎北東沖の断層については、少なくとも後期更新世以降の活動は認められない。



F<sub>GL</sub> : 地質調査所「海底地質図」1/20万による断層、伏在断層及び推定断層



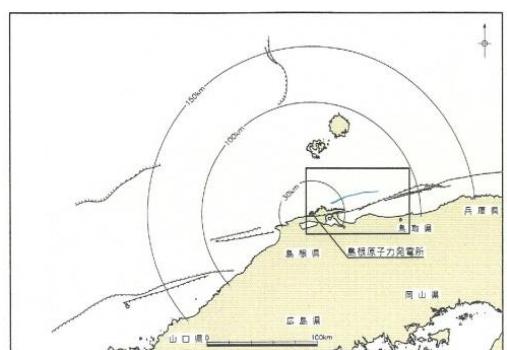
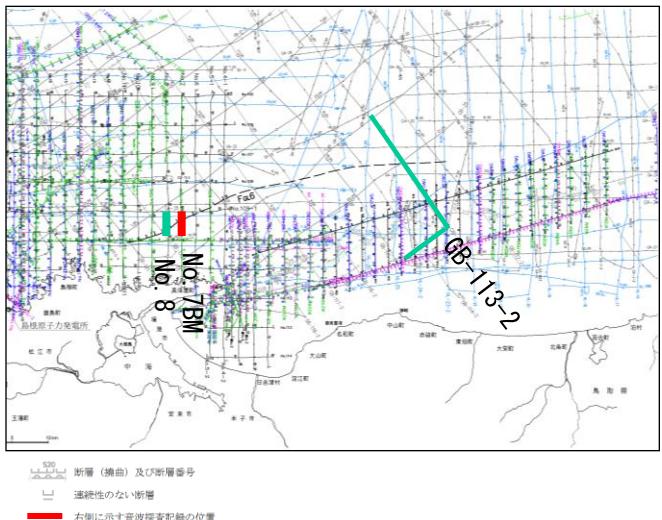
	第四紀		A
	更新世	新第三紀	
後期	B <sub>1E</sub>		
中期	B <sub>2E</sub>		
前期	C		
新第三紀		中新世	
	D	中中新世	D <sub>1</sub>
			D <sub>2</sub>
火山岩・貫入岩	V		



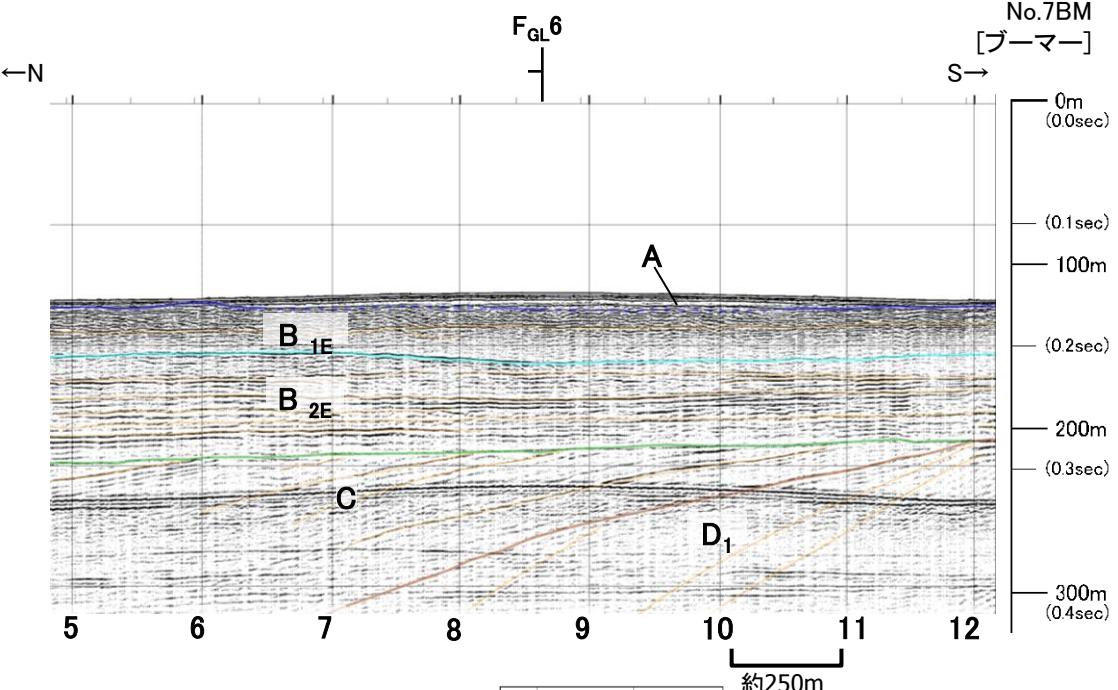
文献断層位置周辺には、D<sub>1</sub>層(中新統)に変位や変形は認められない。

## 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (8) 地蔵崎北東沖の断層

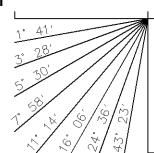
## 地蔵崎北東沖の断層の代表測線-2: 西部(音波探査解析図)



F<sub>GL</sub> : 地質調査所「海底地質図」1/20万による断層、伏在断層及び推定断層



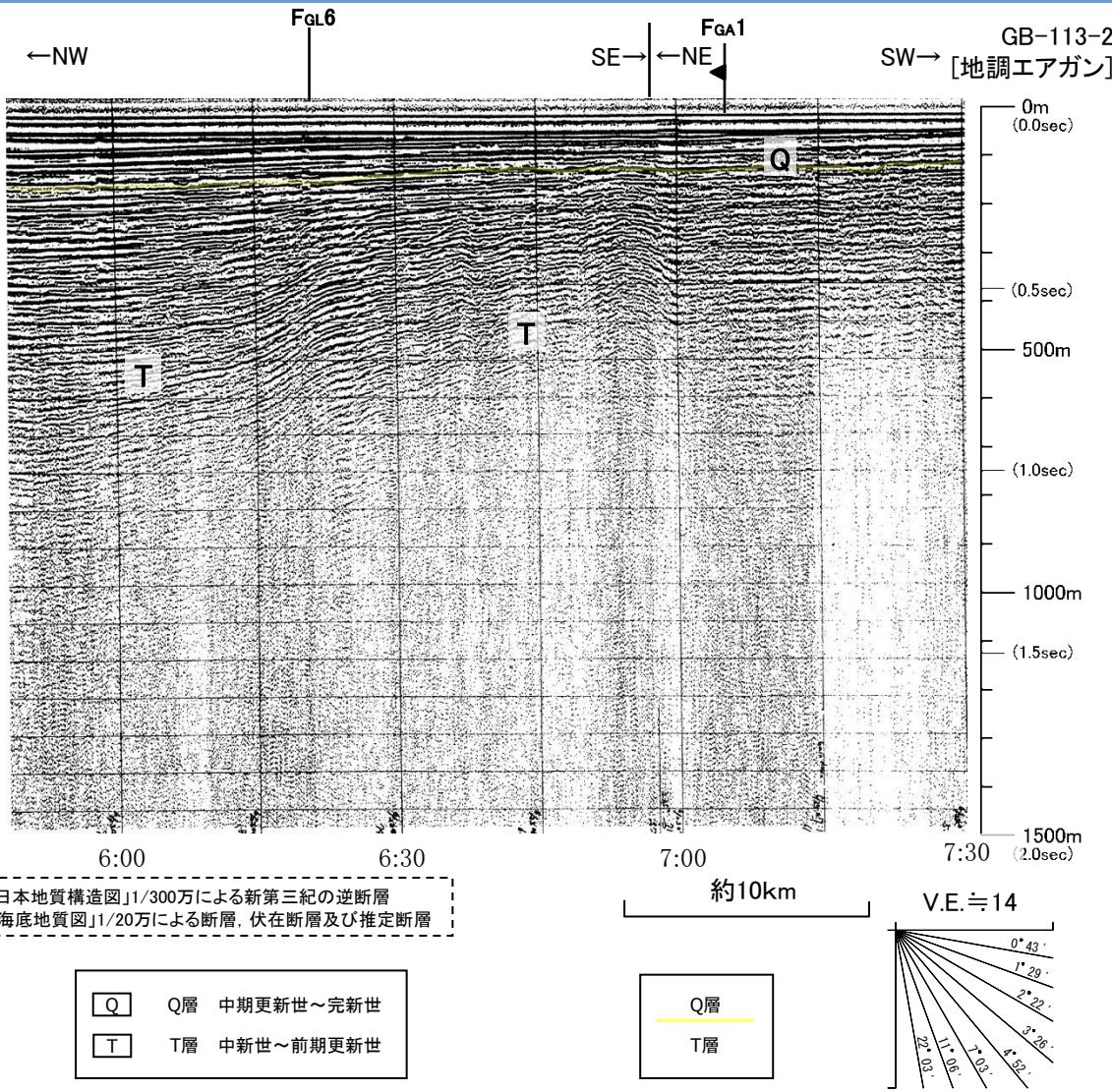
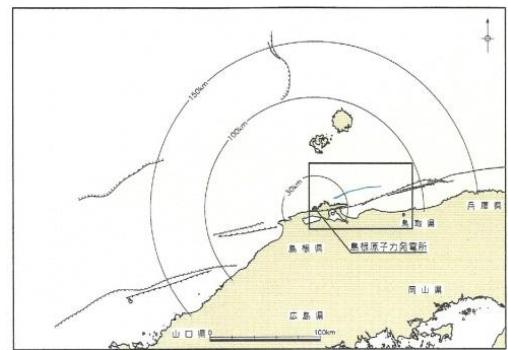
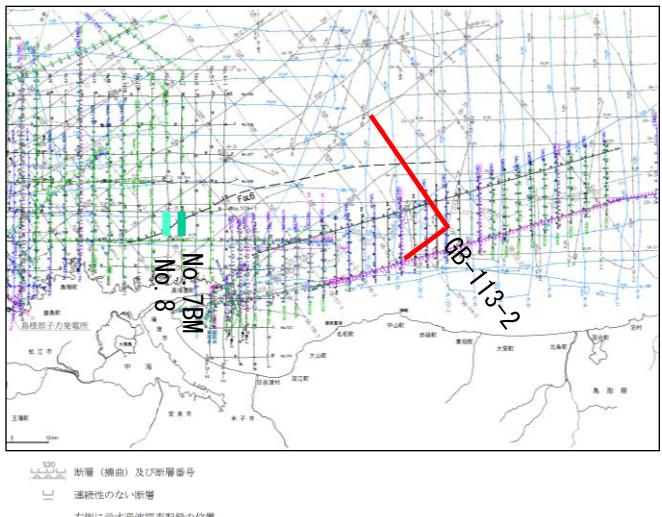
	第四紀		中新世
	更新世	新第三紀	
後期	A	B <sub>1E</sub>	
中期	B <sub>2E</sub>	C	
前期		D <sub>1</sub>	
		D <sub>2</sub>	
		V	
			火山岩・貫入岩



V.E.=6

文献断層位置周辺には、D<sub>1</sub>層(中新統)に変位や変形は認められない。

## 地蔵崎北東沖の断層の代表測線-3: 東部(音波探査解析図)



文献断層位置周辺には、T層(中新統～下部更新統)に変位や変形は認められない。

## 1. 敷地周辺海域の地質・地質構造

### 2. 敷地前面海域の断層活動性評価

(1) F-III断層, F-IV断層及びF-V断層

(2) FK-1断層

(3) K-4撓曲, K-6撓曲及びK-7撓曲

(4) F-I断層

(5) F-II断層

(6) F-VI断層

(7) K-5撓曲

(8) F-①断層及びF-②断層

### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価

(1) 鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層

(2) 大田沖断層

(3) F57断層

(4) K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層

(5) 隠岐北西方の断層

(6) 見島付近の断層

(7) 見島北方沖の断層

(8) 地蔵崎北東沖の断層

## 4. 敷地前面海域の地質層序

## 5. 敷地周辺海域の地質層序

(1) 鳥取沖

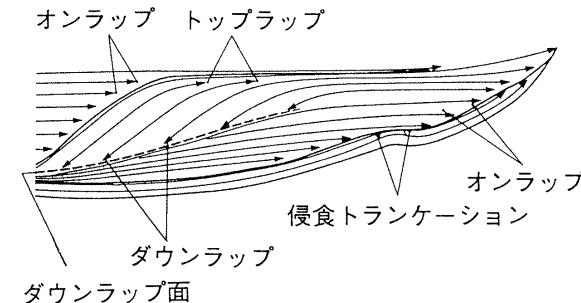
(2) 大田沖

(3) その他海域

# 海底地質(層序区分)

- 海上音波探査で認められる反射面の連続性、下位層との不整合関係、堆積構造及び反射パターンの特徴により、上位からA層、B層、C層及びD層の堆積物または堆積岩と火山岩・貫入岩のV層に区分している。
- B層は敷地前面海域の東部及び北西部に広く分布し、その他の海域では小範囲に分布する。
- B層は層内の不整合面等により、東部海域では上位から $B_{1E}$ 層、 $B_{2E}$ 層に、北西部海域では $B_{1W}$ 層、 $B_{2W}$ 層、 $B_{3W}$ 層に細区分し、他の海域では分布が限られていること等から細区分せず $B_x$ 層とした。
- D層については、層内の不整合面により、上位から $D_1$ 層、 $D_2$ 層に細区分した。

地層名		地層境界及び堆積構造	反射パターンの特徴
A層		下位層上面の浸食面を不整合に覆う。	一般に海底面にほぼ平行な成層パターン、一部で散乱パターン、一部で海底面に斜交するパターンを示す。
東部海域	$B_{1E}$	下位層上面の浸食面を不整合に覆い、下位層上面が起伏面の場合は、部分的にオンラップ状の不整合関係を示す。	連続性に乏しい波状パターン又は一部でプログラデーションパターンを示す。
	$B_{2E}$	下位層上面の浸食面を不整合に覆い、下位層上面が起伏面の場合、部分的にオンラップ状の不整合関係を示す。	ほぼ水平かやや傾斜する成層パターンを示す。
B層	$B_{1W}$	下位層上面をオンラップ状の不整合で覆う。	連続性の良い層理パターンを示し、ほぼ水平かやや傾斜する成層パターンを示す。
	$B_{2W}$	下位層上面を不整合に覆う。 層内的一部に軽微な不整合面が見られるが、 $B_{2W}$ に一括する。	連続性の良い層理パターン又は顕著なプログラデーションパターンを示す。
	$B_{3W}$	下位層上面を不整合に覆う。	ほぼ水平かやや傾斜する成層パターンを示す。
その他	$B_x$	下位層上面を不整合に覆う。	連続性に乏しい波状パターンを示す。
C層		下位層上面の浸食面を不整合に覆い、下位層上面が起伏面の場合は、部分的にオンラップ状の不整合で覆う。	一般に極めて緩やかに褶曲した波状パターン又は連続性に乏しい成層パターンを、一部で成層パターンを示す。
D層	$D_1$	起伏する下位層上面をオンラップ状の不整合で覆う。	褶曲した成層パターンを示す。
	$D_2$	音響基盤	連続性に乏しく褶曲した成層パターン又は無層理パターンを示す。
V層		D層又は一部でC層に貫入し、岩床状又は岩脈状を呈する。	無層理パターンを示す。

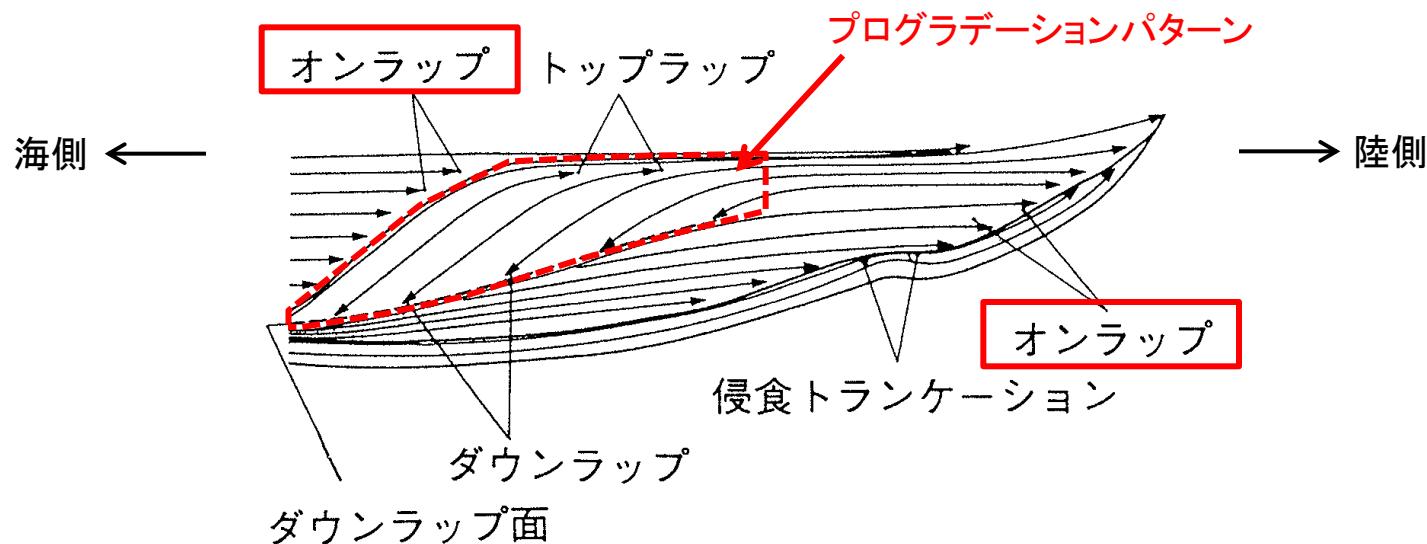


第1図. 震探断面で見られる特徴的な反射面の末端部のパターン (Mitchum et al., 1977)

[酒井ほか(1995)<sup>(37)</sup>から引用]

## 参考：シーケンス層序学に基づく地層区分及び編年

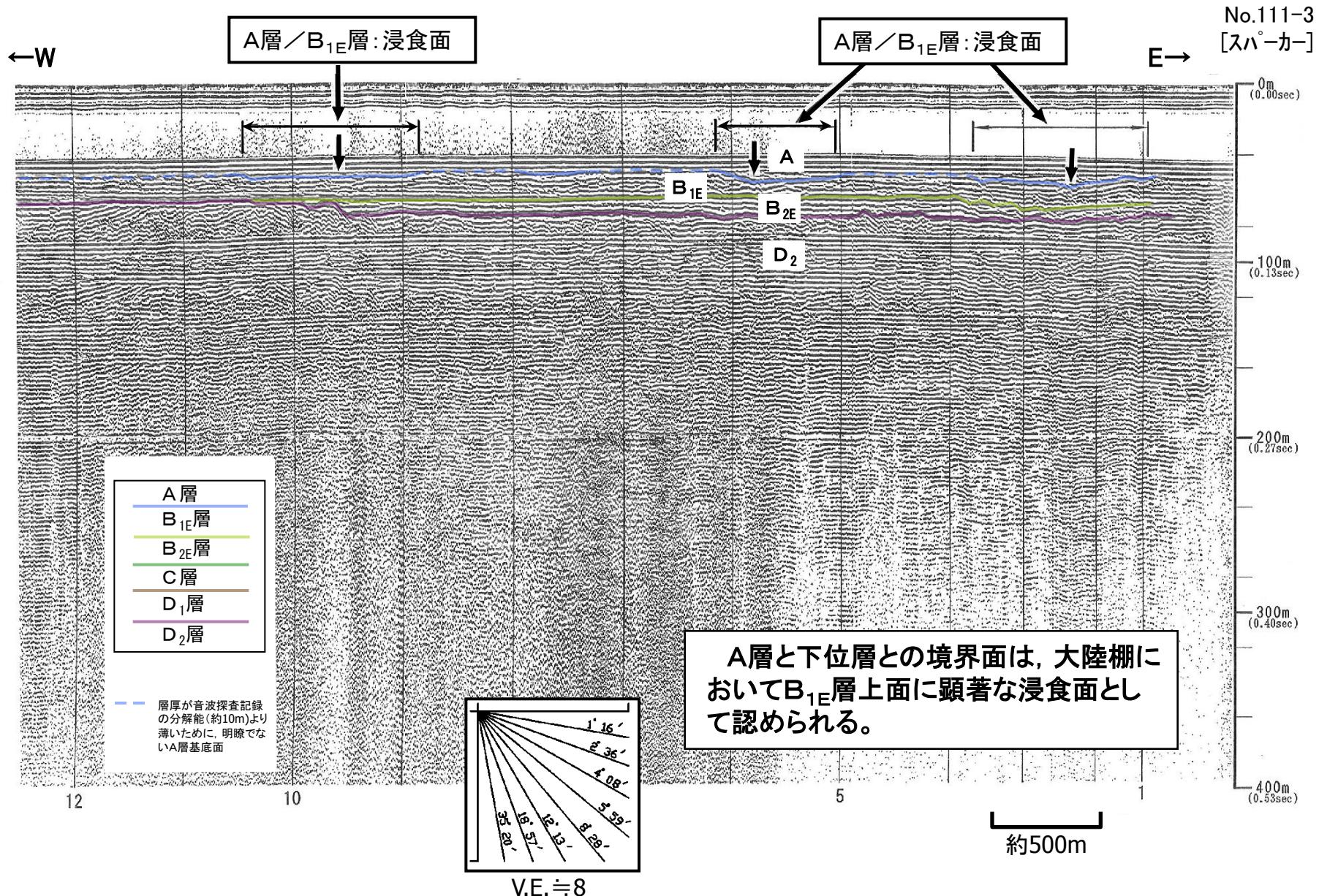
- 音波探査記録断面から反射波の不連続面を抽出し、不連続面により区分された地層ユニットの形態及び位置と海水準変動の関連から地層の形成年代を推定している。
- 例えば、プログラデーションパターンは、海岸線の位置が海側へ移動する海退期に沖合いへ前進しながら堆積された地層の存在を示していると考えられ、オンラップは、海岸線の位置が陸側へ移動する海進期に海底の傾斜を覆うように堆積した地層の存在を示していると考えられる。



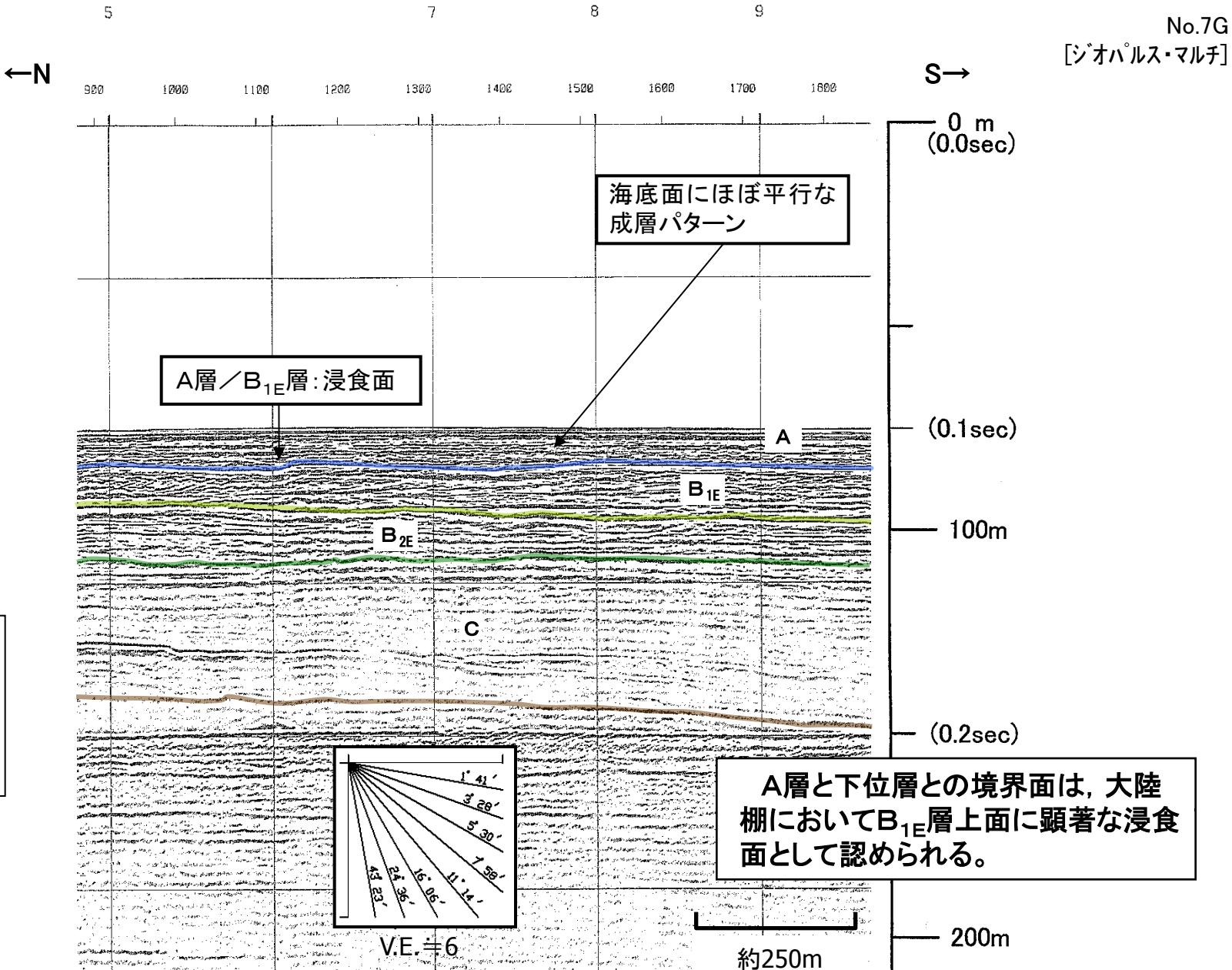
第1図. 震探断面で見られる特徴的な反射面の末端部のパターン (Mitchum et al., 1977)

[酒井ほか(1995)から引用]

## A層と下位層の不整合面(音波探査記録例:その1)



## A層と下位層の不整合面(音波探査記録例:その2)



## A層と下位層の不整合面の分布図

凡　例

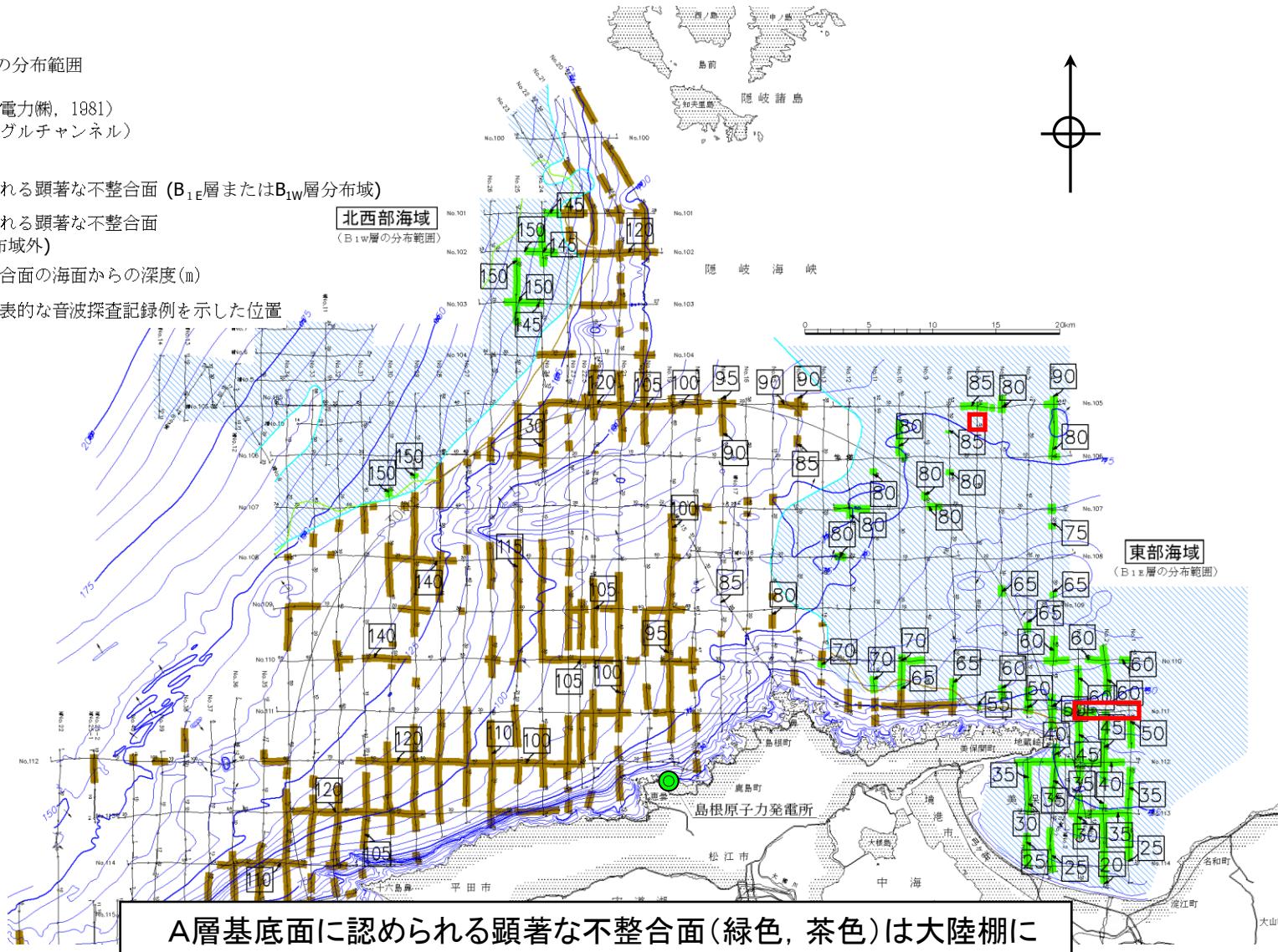
B<sub>1E</sub>層またはB<sub>1W</sub>層の分布範囲音波探査測線（中国電力㈱, 1981）  
(スパークー, シングルチャンネル)

等深線(m)

A層基底面に認められる顕著な不整合面 (B<sub>1E</sub>層またはB<sub>1W</sub>層分布域)A層基底面に認められる顕著な不整合面  
(B<sub>1E</sub>層及びB<sub>1W</sub>層分布域外)

A層と下位層の不整合面の海面からの深度(m)

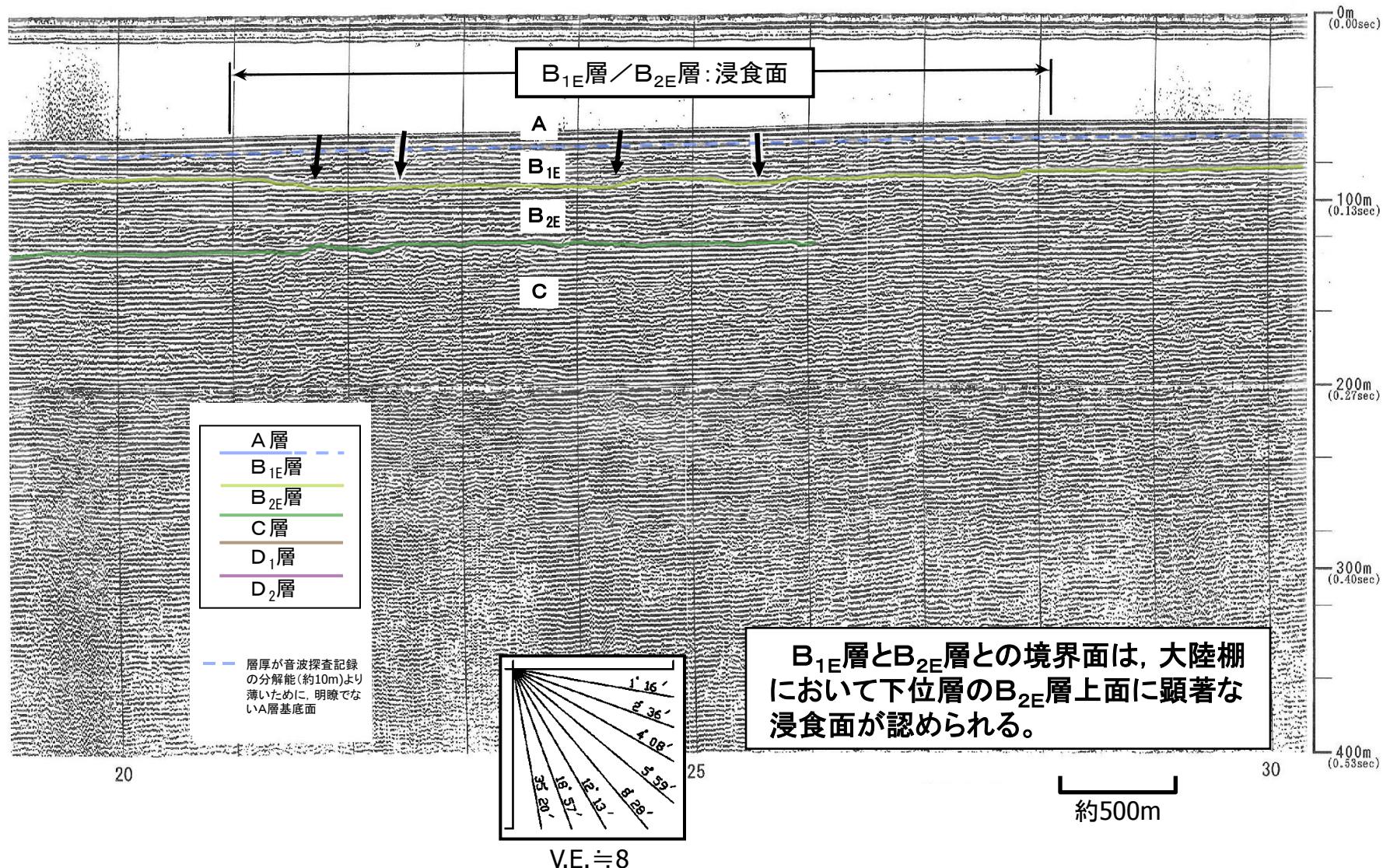
顕著な不整合面の代表的な音波探査記録例を示した位置

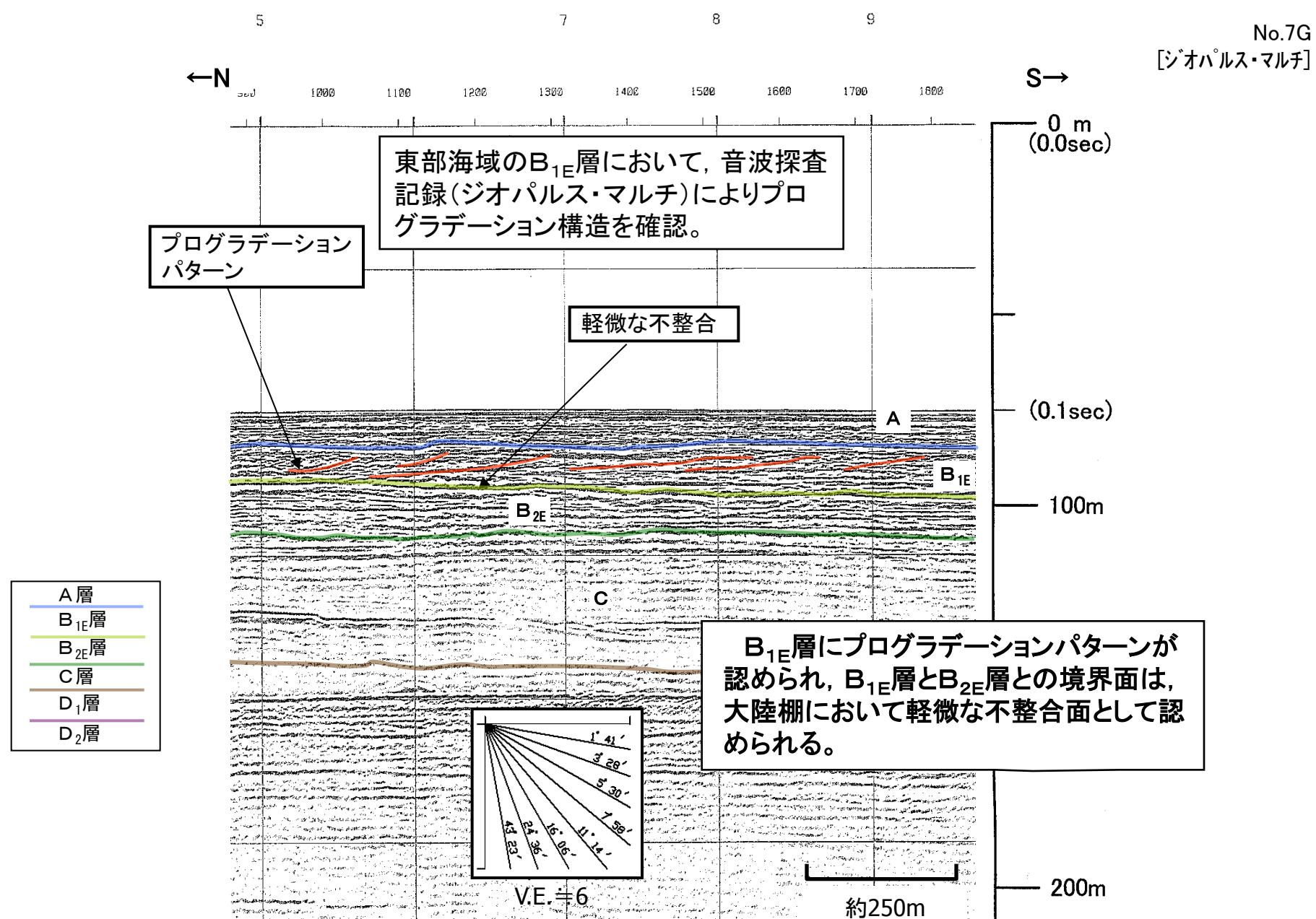


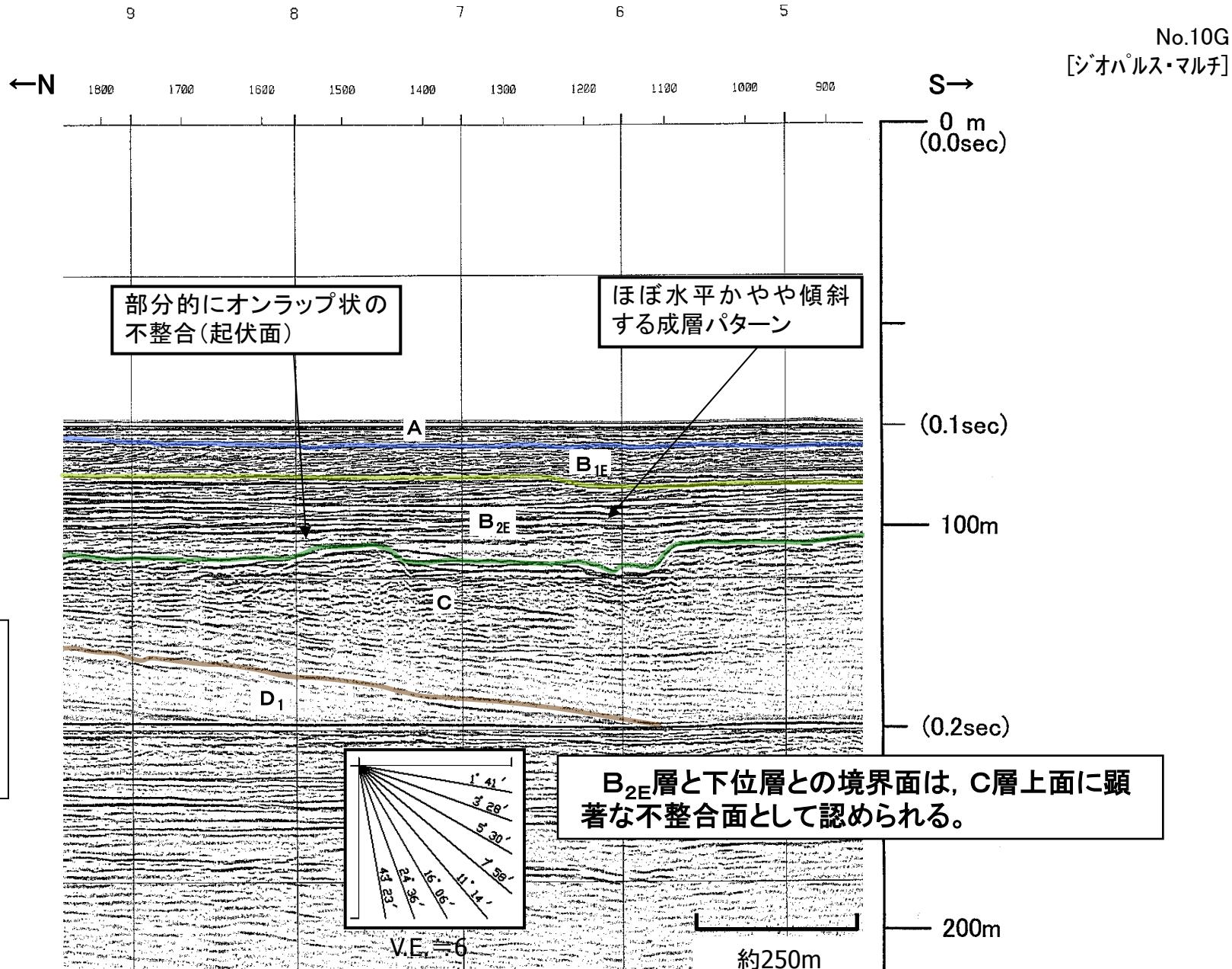
No.4-1  
[スバー・カーサ]

←N

S→



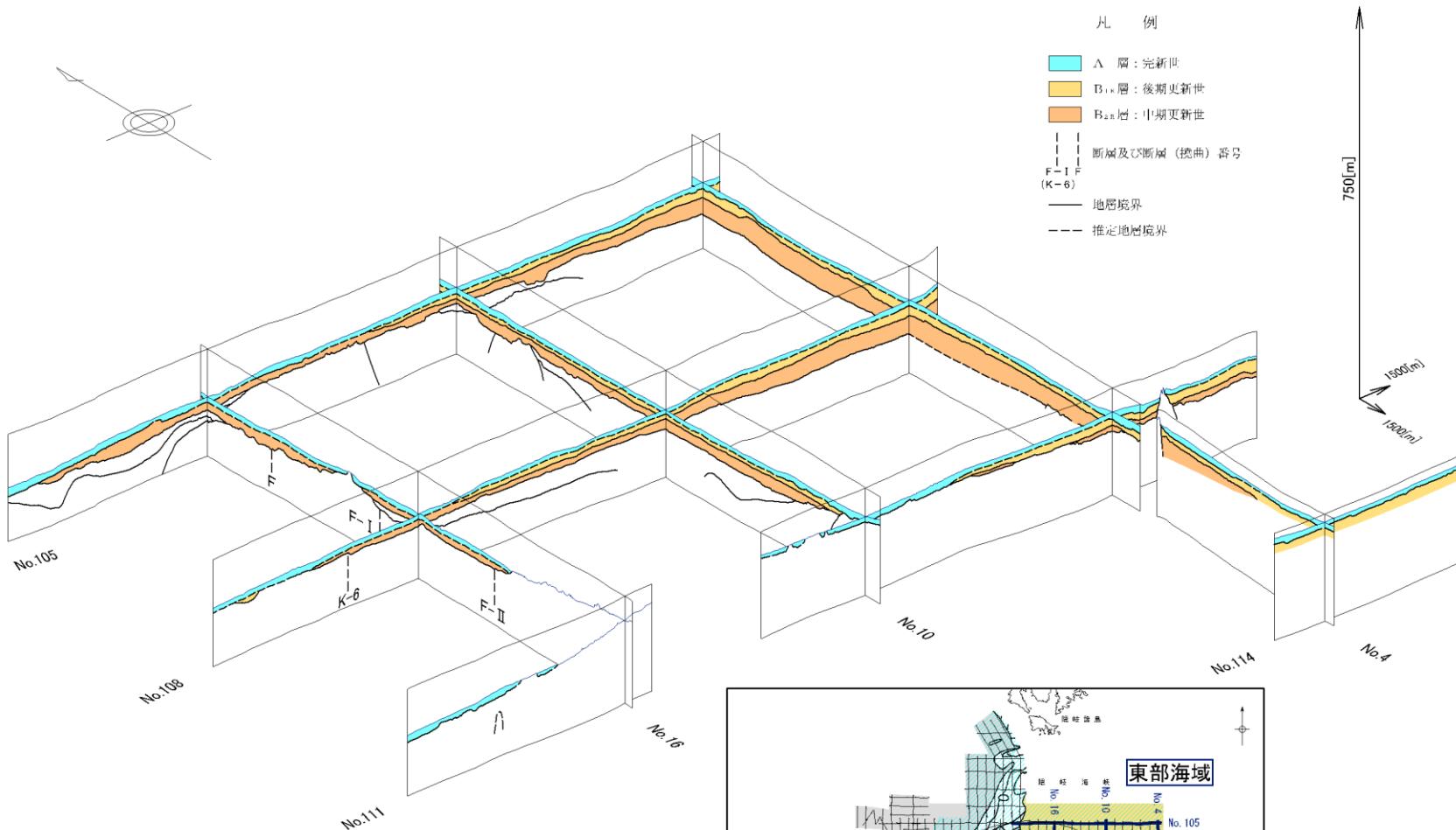
B<sub>1E</sub>層とB<sub>2E</sub>層との不整合面(音波探査記録例:東部海域)

B<sub>2E</sub>層と下位層との不整合面(音波探査記録例:東部海域)

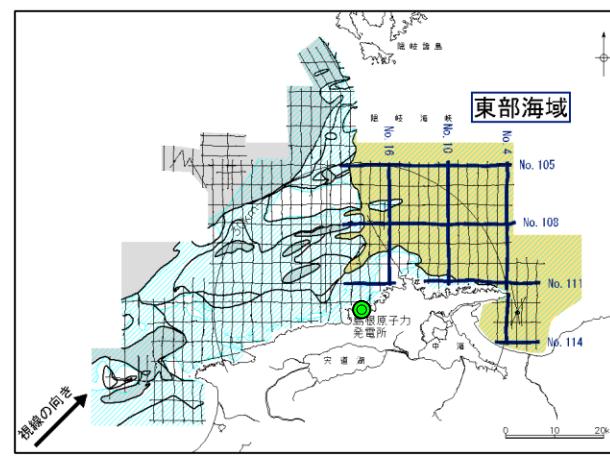
**B<sub>1E</sub>層とB<sub>2E</sub>層の不整合面の分布(東部海域)**

B<sub>2E</sub>層上面に認められる顕著な不整合面(緑色)は海面から約65~100mの深度において広範囲に確認されることから、B<sub>1E</sub>層とB<sub>2E</sub>層との境界面と判断。

## 東部海域のパネルダイヤグラム



A層と下位層との境界面及びB層内の境界面については、測線のクロスチェックを行い、海域全体における境界面の分布深度や各層の厚さ等の整合性について確認。

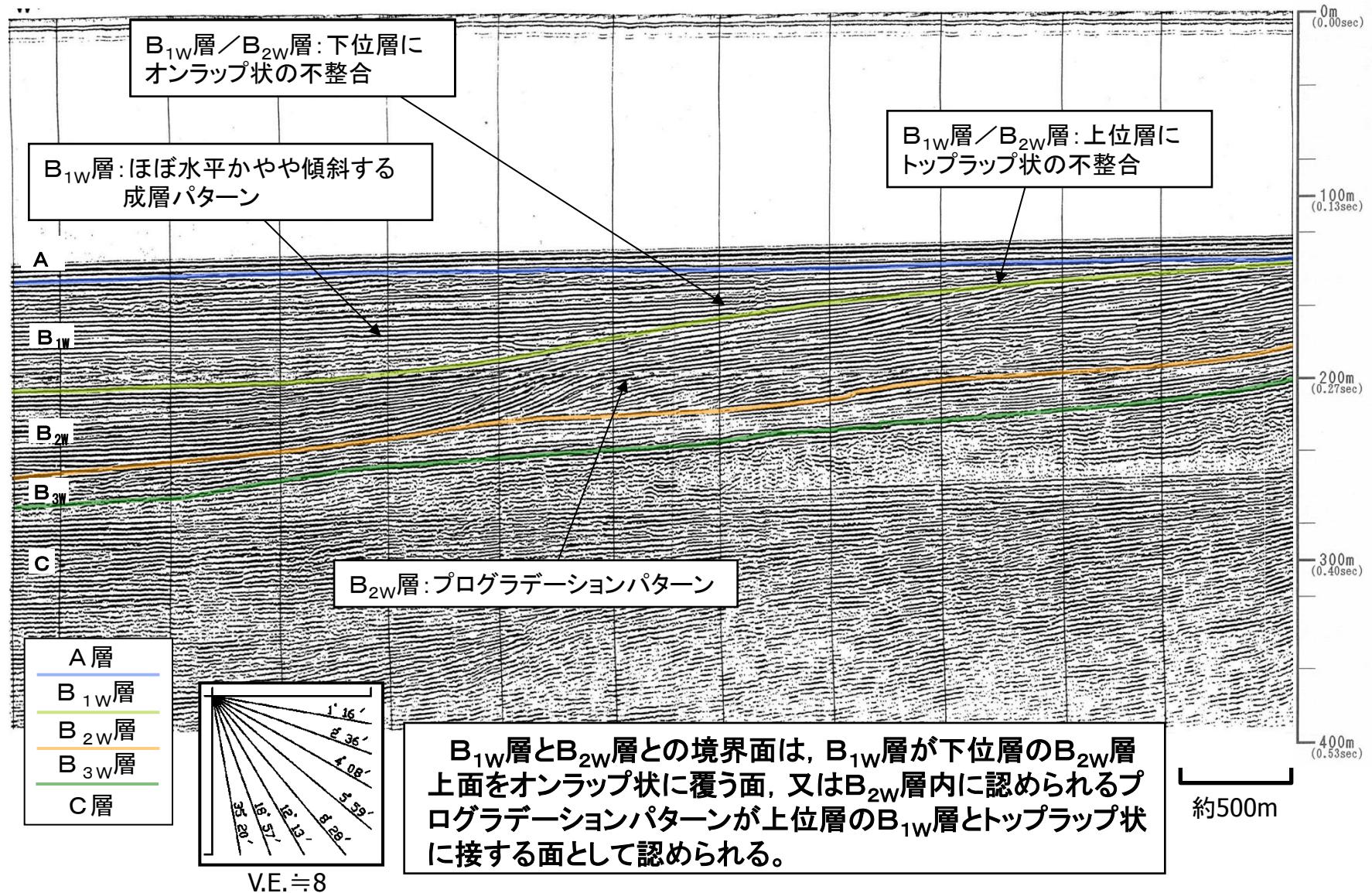


B<sub>1W</sub>層とB<sub>2W</sub>層との不整合面(音波探査記録例:北西部海域)

No.103

E→ [スパークー]

←W

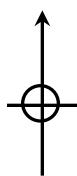


B<sub>1W</sub>層とB<sub>2W</sub>層の不整合面の分布(北西部海域)

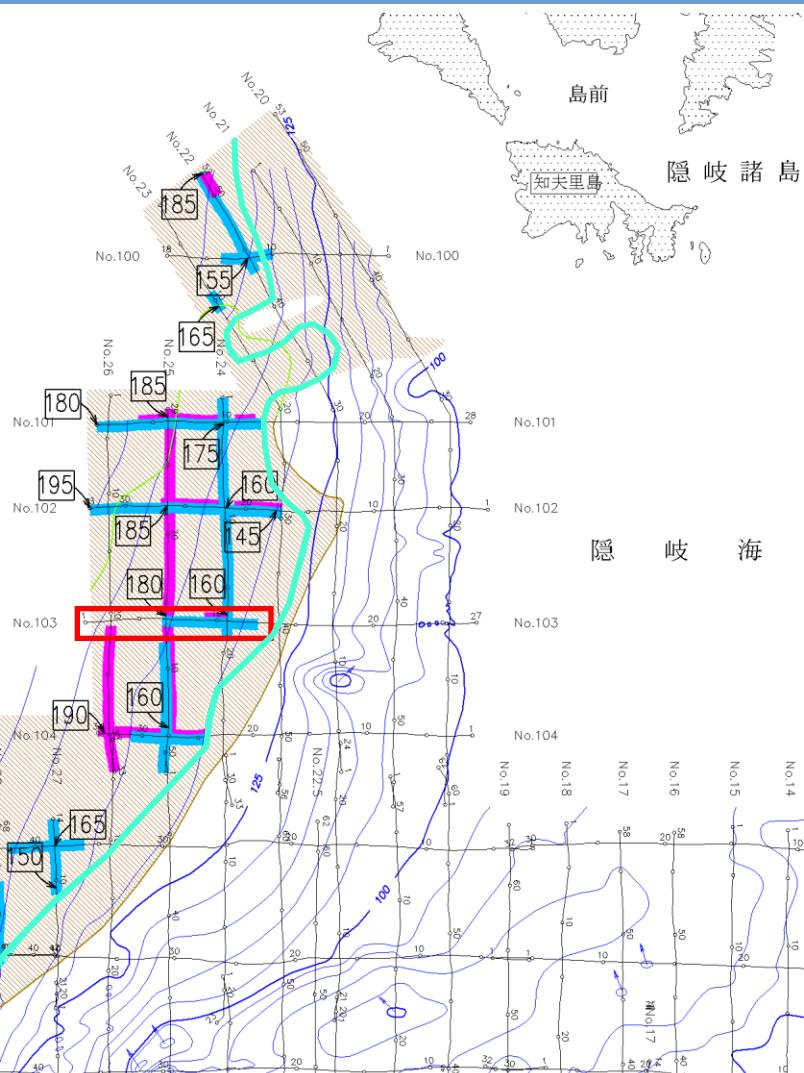
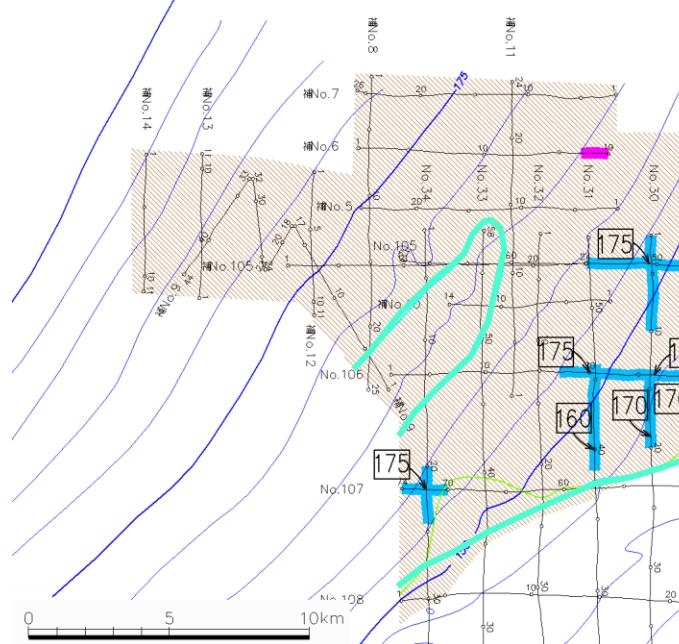
凡 例

- B<sub>1W</sub>層の分布範囲
- B<sub>2W</sub>層の分布範囲

- 音波探査測線 (中国電力㈱, 1981)  
(スパークー, シングルチャンネル)
- 等深線(m)
- B<sub>1W</sub>層がB<sub>2W</sub>層上面をオンラップ状に覆う不整合面の範囲
- B<sub>2W</sub>層のプログラデーションパターンが  
B<sub>1W</sub>層とトップラップ状に接する不整合面の範囲
- 175 B<sub>1W</sub>層/B<sub>2W</sub>層の不整合面の海面からの深度(m)
- 顕著な不整合面の代表的な音波探査記録例を示した位置



北西部海域



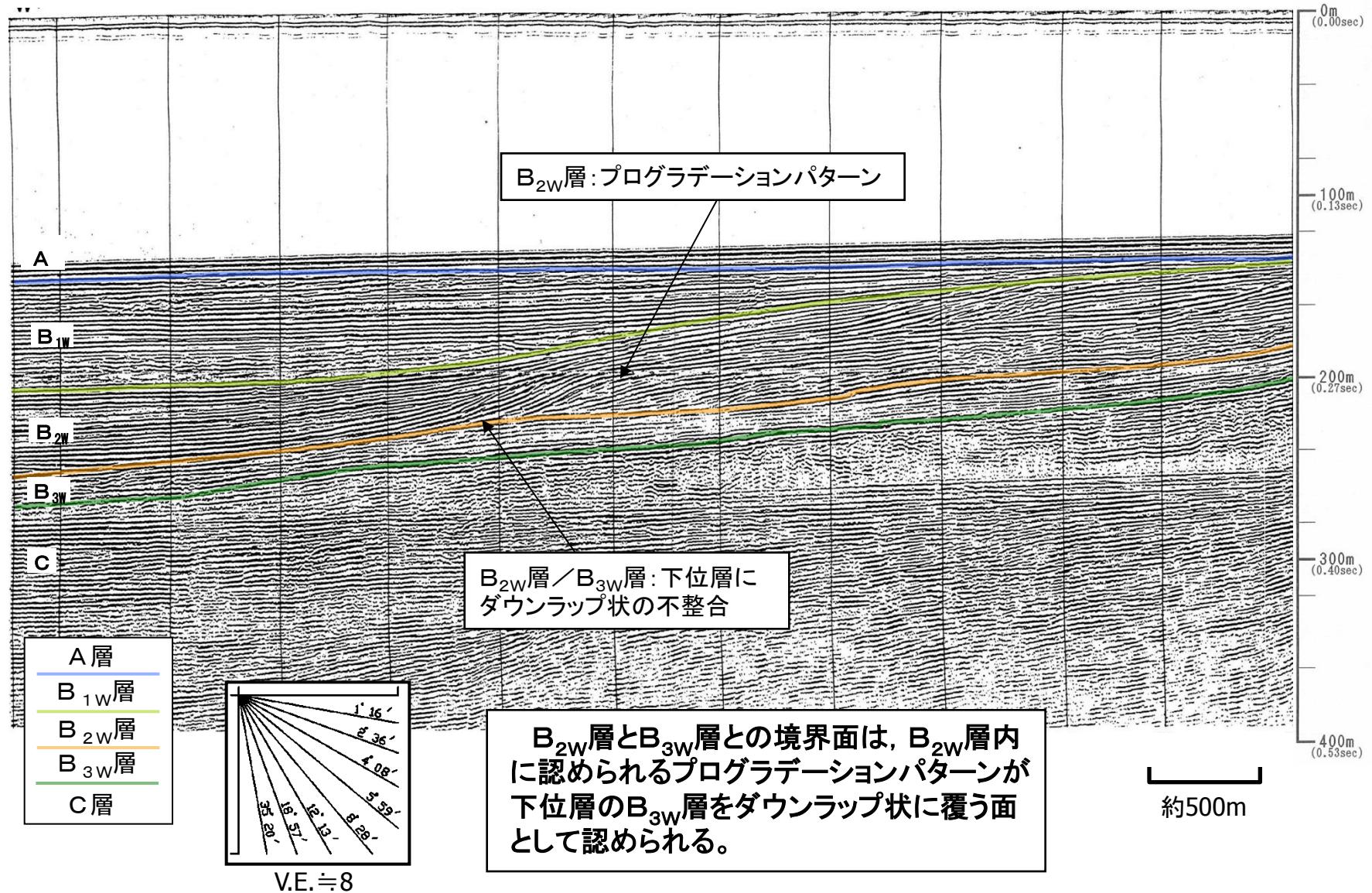
B<sub>2W</sub>層上面の顕著な不整合面(水色, ピンク色)は海面から約150~200mの深度で広範囲に確認されることから、B<sub>1W</sub>層とB<sub>2W</sub>層との境界面と判断。

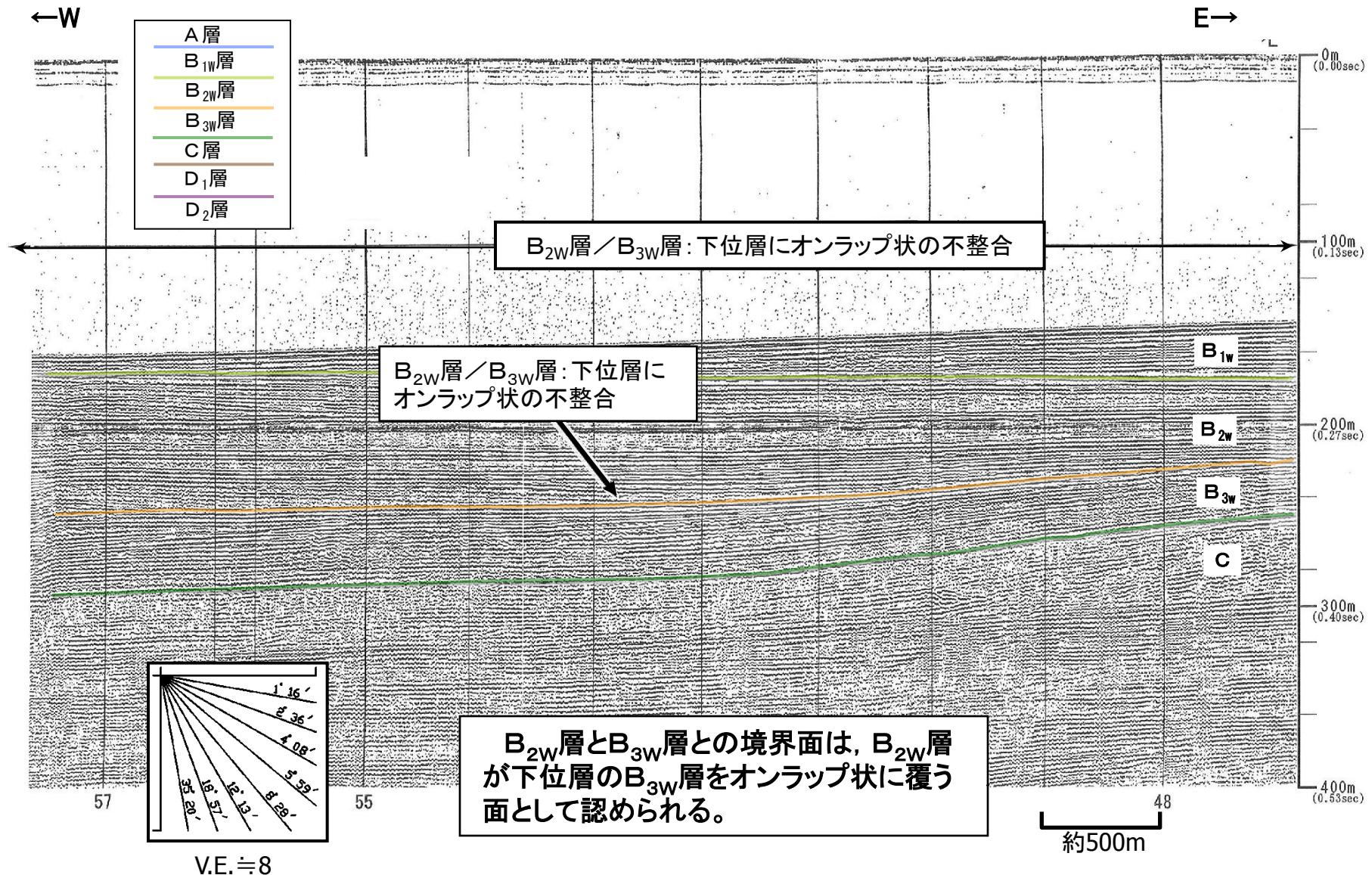
B<sub>2W</sub>層とB<sub>3W</sub>層との不整合面(音波探査記録例:北西部海域)

No.103

E→ [スパークー]

←W



No.105-3  
[スパー-カ-]

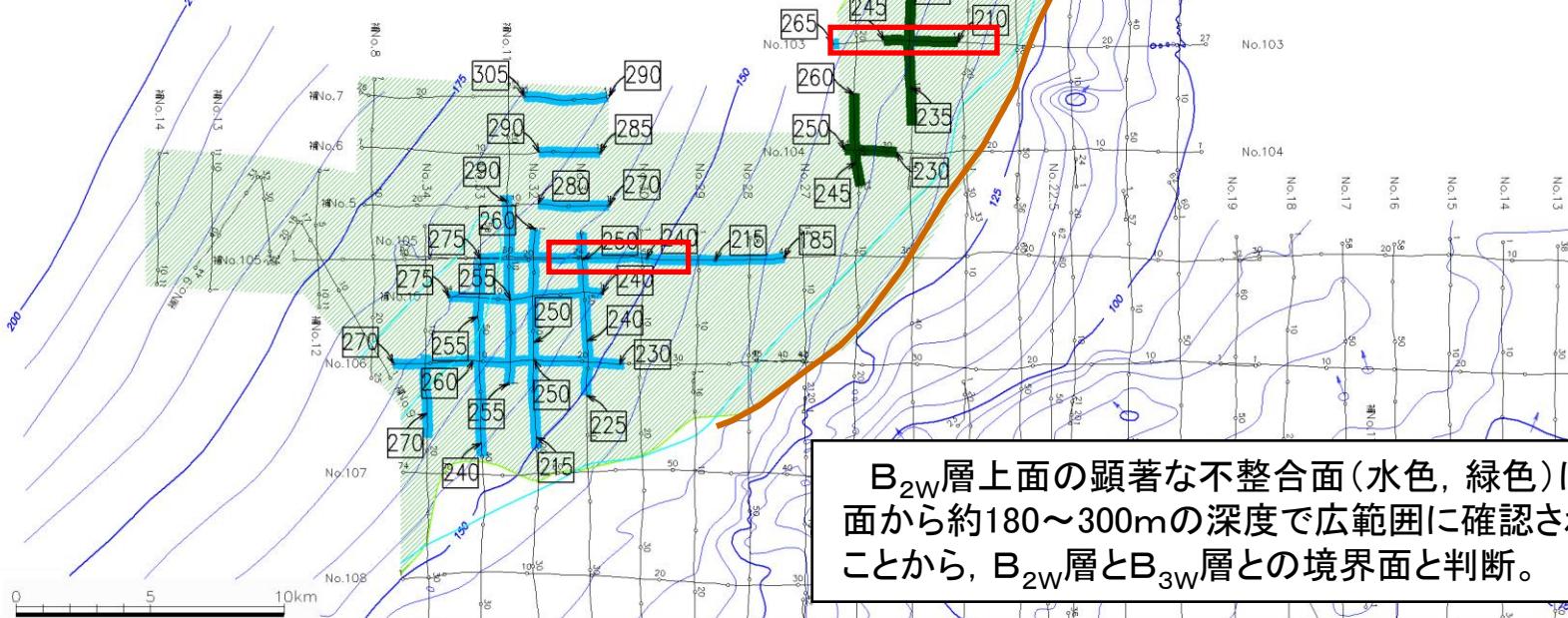
# B<sub>2W</sub>層とB<sub>3W</sub>層の不整合面の分布(北西部海域)

凡　例

- B<sub>2W</sub>層の分布範囲
- B<sub>3W</sub>層の分布範囲

- 音波探査測線 (中国電力㈱, 1981)  
(スパークー, シングルチャンネル)
- 等深線(m)
- B<sub>2W</sub>層がB<sub>3W</sub>層をオーバーラップ状に覆う不整合面の範囲
- B<sub>2W</sub>層のプログラデーションパターンが  
B<sub>3W</sub>層とダウンラップ状に接する不整合面の範囲
- B<sub>2W</sub>層/B<sub>3W</sub>層の不整合面の海面からの深度(m)
- 顕著な不整合面の代表的な音波探査記録例を示した位置

北西部海域

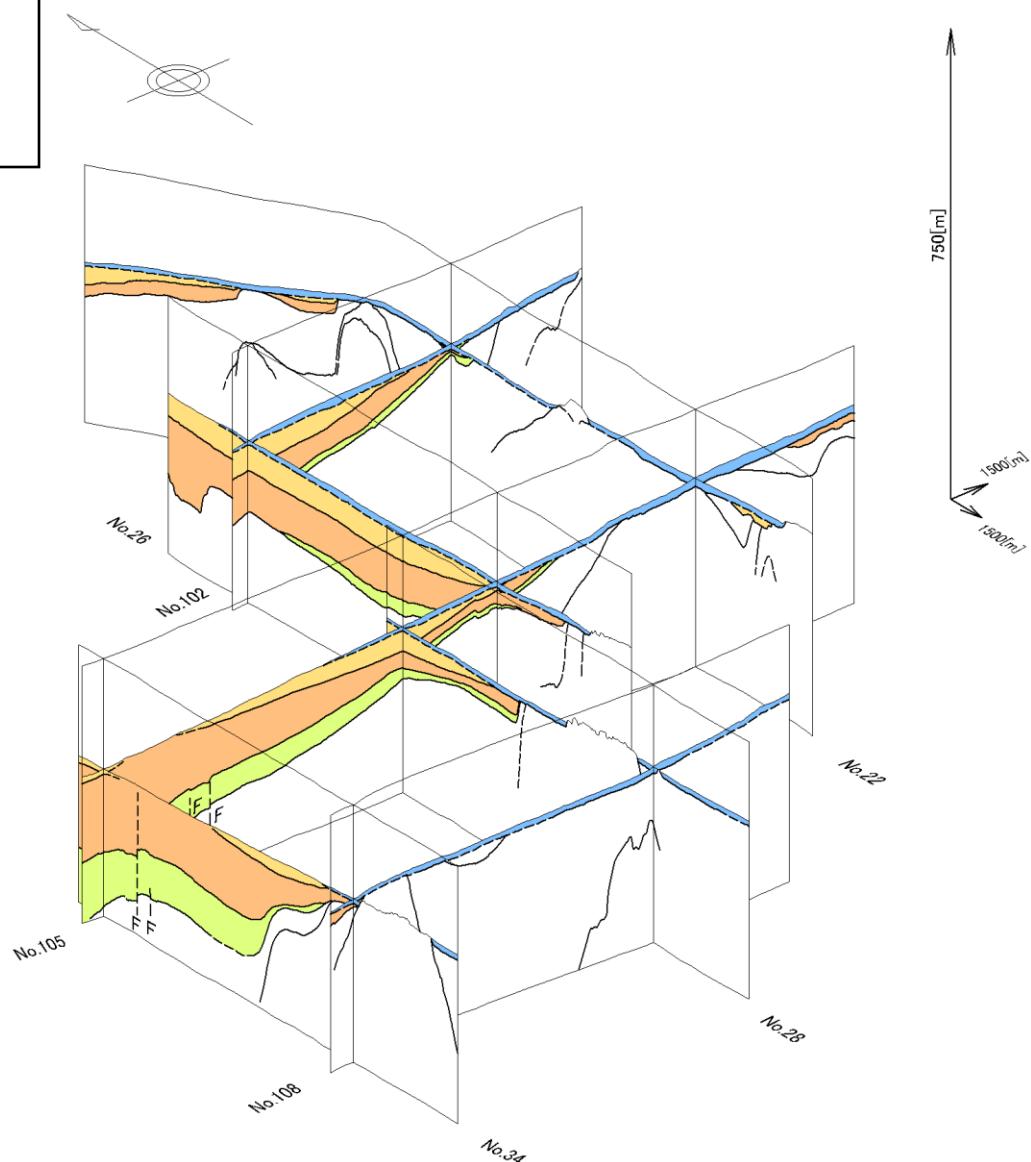
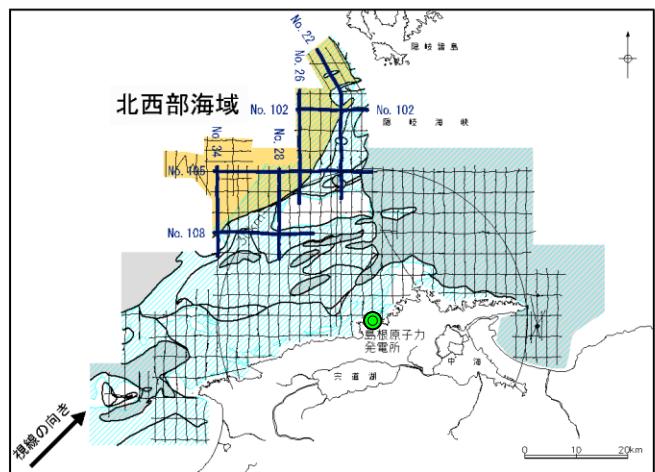


## 北西部海域のパネルダイヤグラム

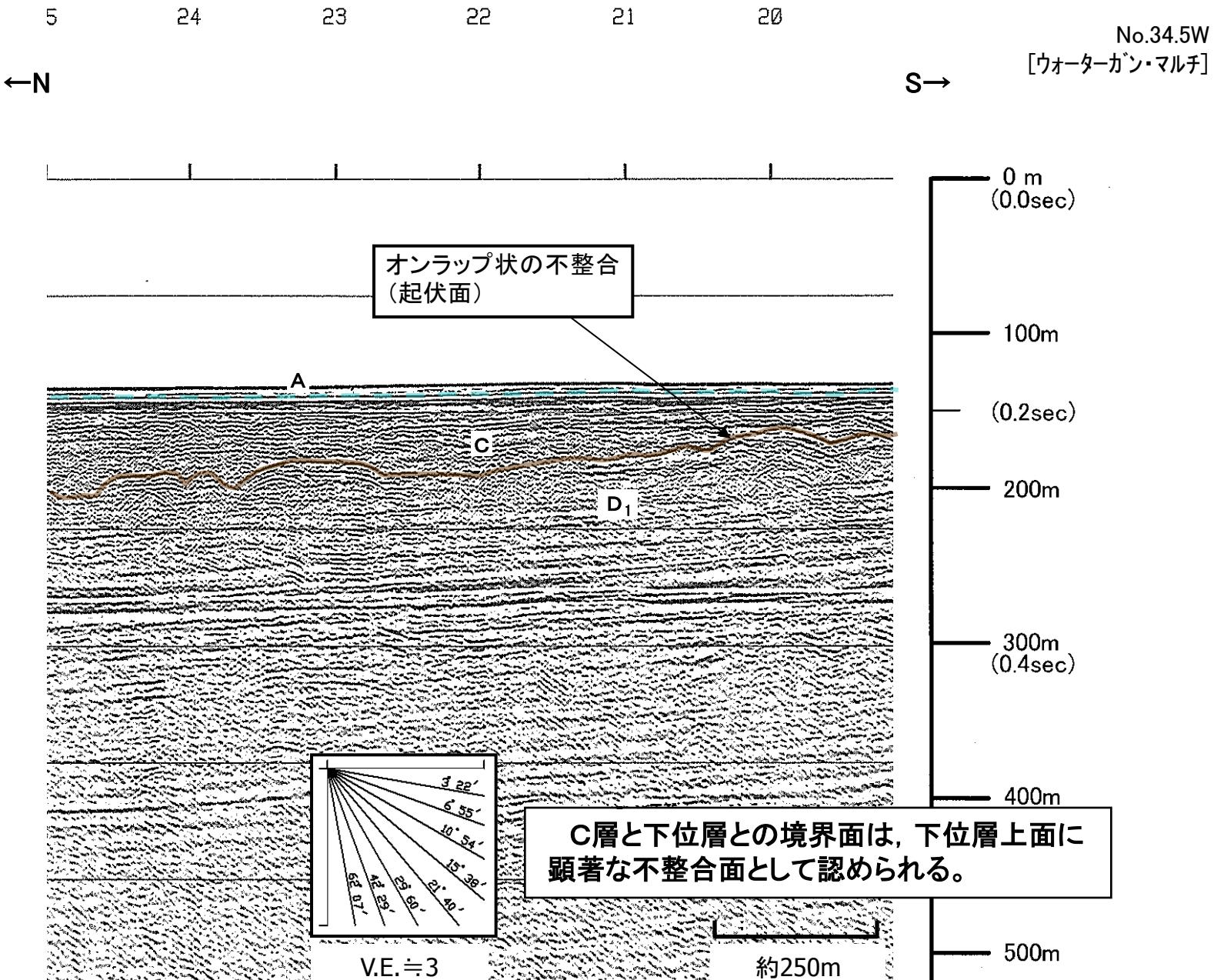
A層と下位層との境界面及びB層内の境界面については、測線のクロスチェックを行い、海域全体における境界面の分布深度や各層の厚さ等の整合性について確認。

## 凡 例

- A 層 : 完新世
- B<sub>1w</sub>層 : 後期更新世
- B<sub>2w</sub>層 } 中期更新世
- B<sub>3w</sub>層 }
- 断 層
- 地図境界
- - - 推定地層境界



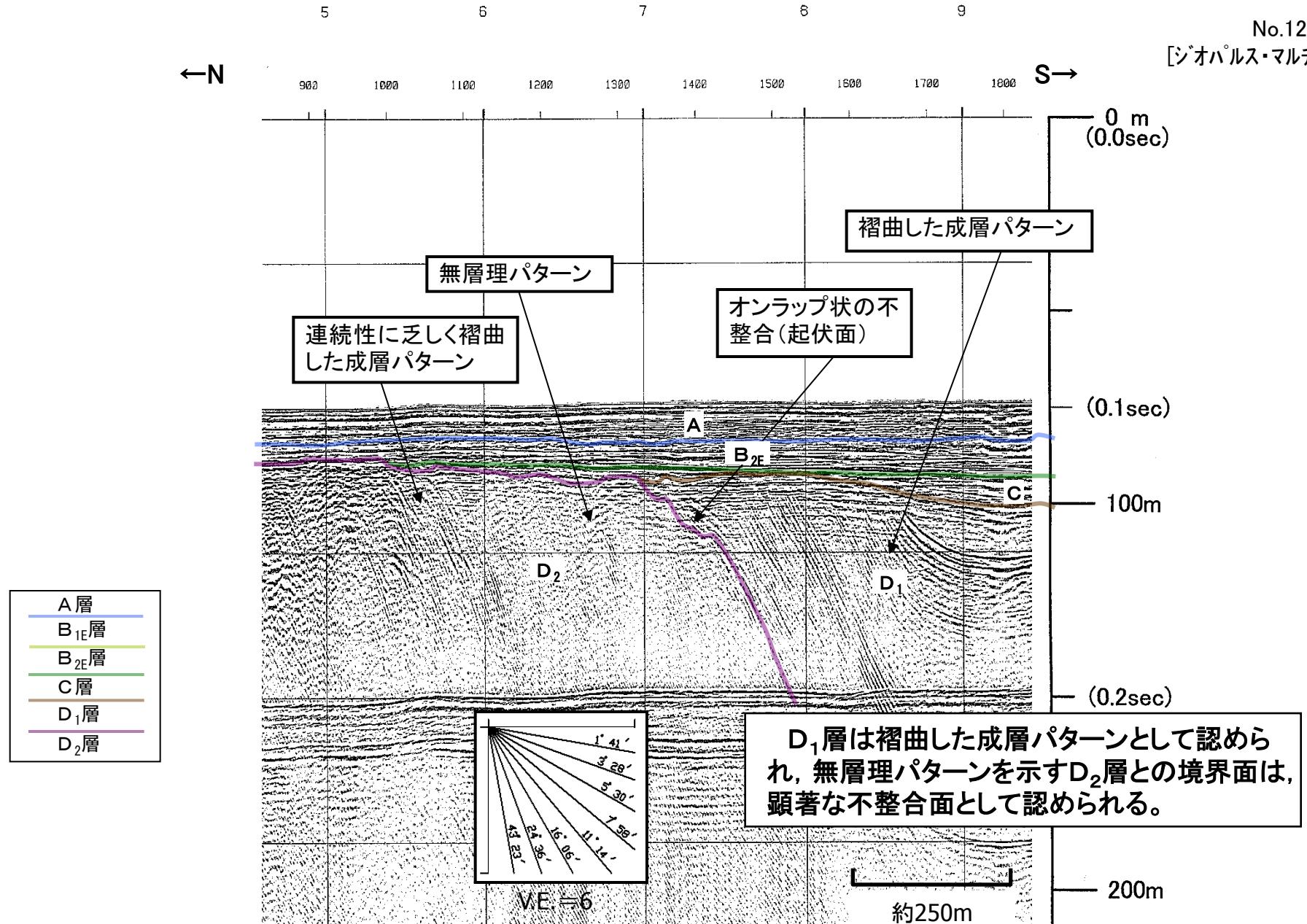
## C層と下位層の不整合面(音波探査記録例)



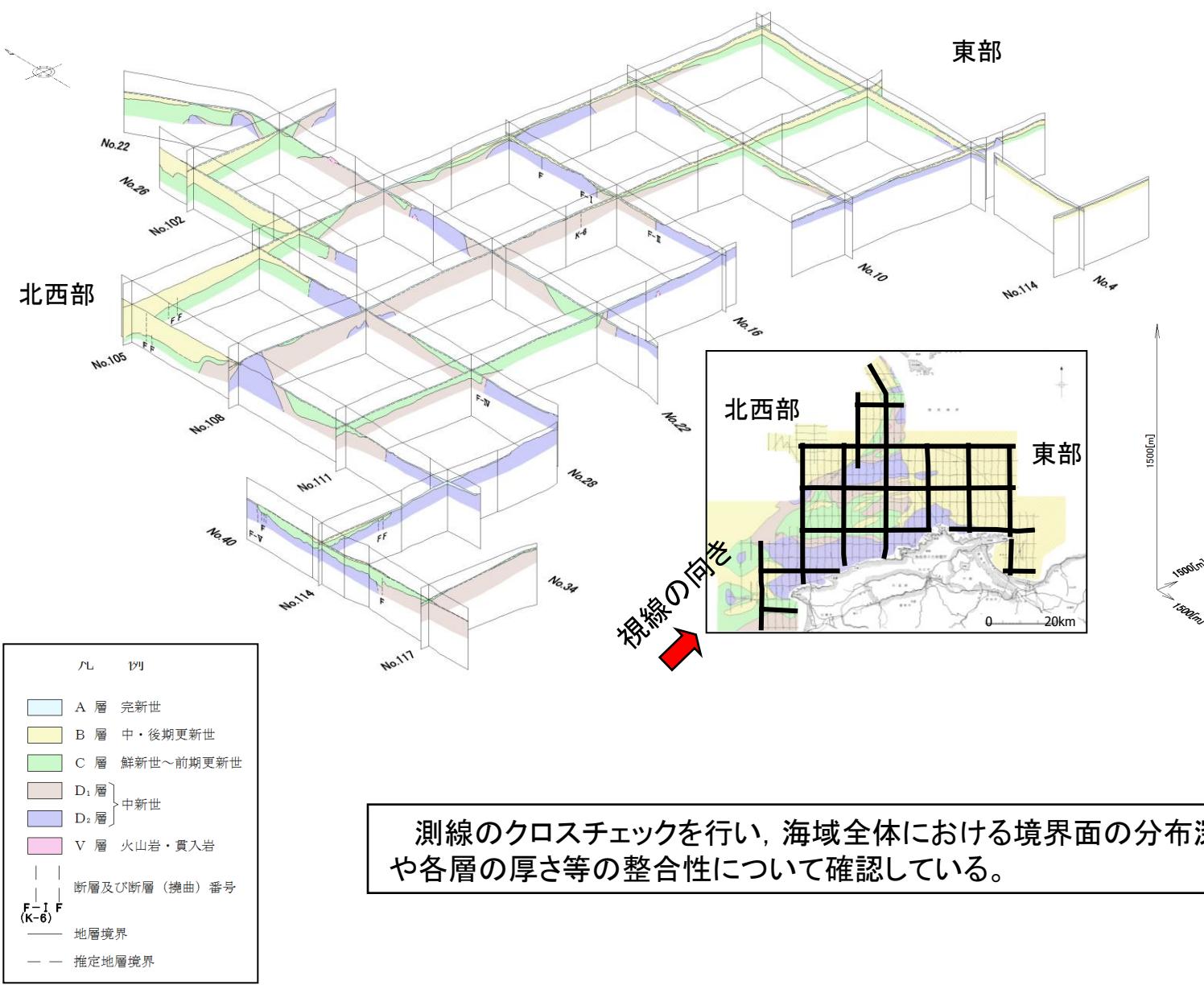
D<sub>1</sub>層とD<sub>2</sub>層の不整合面(音波探査記録例)

No.12G

[ジオパルス・マルチ]

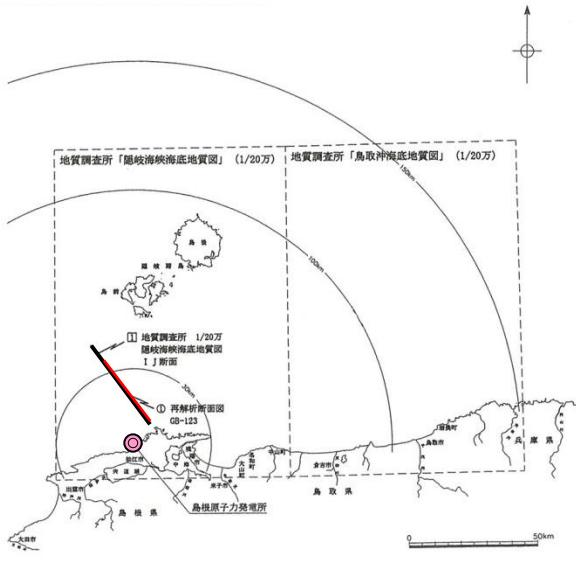


# 敷地前面海域のパネルダイヤグラム



## 各地層の層序対比・年代対比

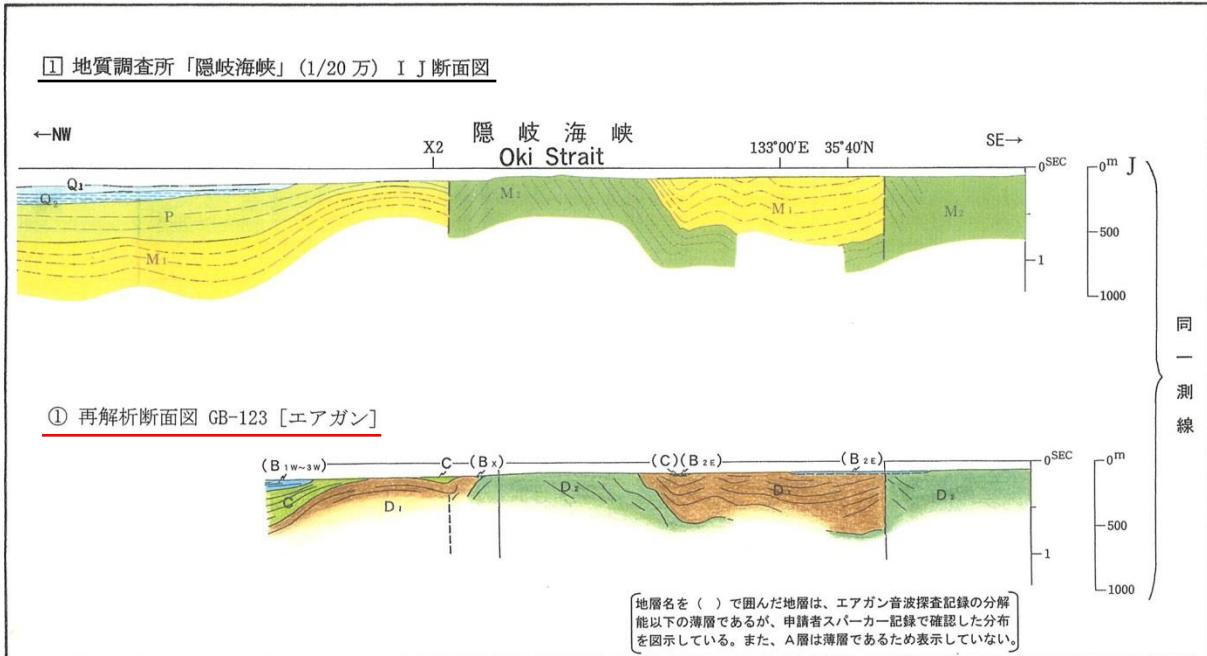
各地層(A層, B層, C層, D層)について、玉木ほか(1982)及び山本ほか(1989)による海域の地質及び海域と陸域との層序対比を検討することにより年代対比を行った。



第6表 山陰北陸沖日本海における層序の対比  
Table 6 Stratigraphic correlation at Japan Sea off San-in Hokuiku District.

地質時代	田中・小草(1981)	本 地 質 図	地質調査所「隠岐海峡海底地質図」(1/20万) (玉木ほか, 1982)	中国電力㈱
完新世	ユニットe	Tt 2層	Q <sub>1</sub> 層 Q <sub>2</sub> 層	A/B層
更新世		Tt 1層	P層	C層
鮮新世	ユニットd <sub>2</sub>	Hm 2a,b層		
	ユニットd <sub>1</sub>	Hm 1層		
後期	ユニットc	音住沖層	M <sub>1</sub> 層	D <sub>1</sub> 層
中新世	ユニットb			D <sub>2</sub> 層
前期	ユニットa	音響基盤	M <sub>2</sub> 層	

山本ほか(1989)に加筆



- 当社の再解析結果と他機関(地質調査所)の地質断面図を比較すると、当社の層序(A層/B層, C層, D<sub>1</sub>層, D<sub>2</sub>層)は玉木ほか(1982)の各地層(Q<sub>1</sub>層・Q<sub>2</sub>層, P層, M<sub>1</sub>層, M<sub>2</sub>層)に対比される。
- 年代対比の結果、A層は完新統、B層は中部～上部更新統、C層は鮮新統～下部更新統、D層は中新統であると判断される。なお、海域ごとに細区分したB層の地質年代について後述する。

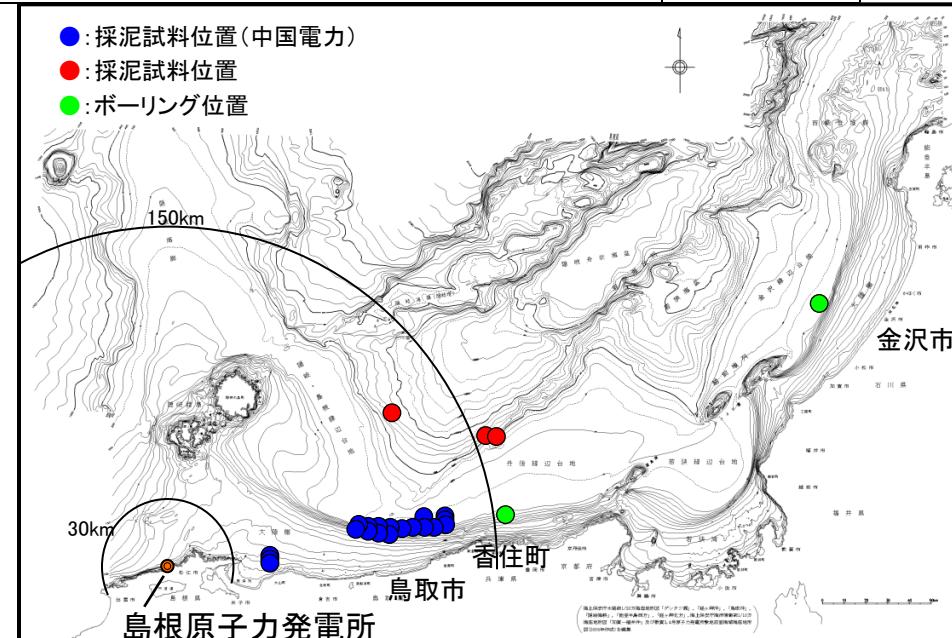
## 参考:山本ほか(1989)における年代根拠等

	年代根拠	地質年代
A層	敷地前面のほとんどの海域に薄く堆積しており、下位層上面の浸食面を不整合に覆い、水深150m以浅の大陸棚にほぼ平坦に分布するところから、最終氷期(ステージ2)以降に堆積したと考えられる。	完新統
B層	中国電力の採泥試料による分析結果並びに玉木ほか(1982)及び山本ほか(1989)の層序と対比  山本ほか(1989)では、Tt2層における採泥試料(●:鳥取沖)の微化石分析結果より、中期更新世以降の珪藻化石および石灰質ナノ化石が得られている。 鳥取沖において実施した中国電力の採泥試料(●:鳥取沖)の火山灰分析結果より、AT(始良Tn火山灰:約2.5万年前)、SK(三瓶木次軽石:約10万年前)が得られている	中部～上部更新統
C層	田中・小草(1981) <sup>(38)</sup> によると、深部試錐(●:香住沖、金沢沖)の微化石分析結果より、ユニットd <sub>1</sub> ～ユニットeにおいて新第三紀鮮新世～第四紀の微化石が得られている。山本ほか(1989)はこの結果を用いてHm2層、Hm1層及びTt1層の年代を鮮新統～下部更新統としている。	鮮新統～下部更新統
D層	玉木ほか(1982)及び山本ほか(1989)の層序と対比  玉木ほか(1982)のM1層及びM2層は、調査海域に隣接する陸域層序との対比の結果、中新統に相当するとされている。  田中・小草(1981)によると、深部試錐(●:香住沖、金沢沖)の微化石分析結果よりユニットb～ユニットd <sub>1</sub> において中新世～中期鮮新世の微化石が得られている。山本ほか(1989)は、この結果を用いて香住沖層、音響基盤の年代を中新統としている。	中新統

第6表 山陰北陸沖日本海における層序の対比  
Table 6 Stratigraphic correlation at Japan Sea off San-in-Hokuriku District.  
(山本ほか(1989))

地質時代	田中・小草(1981)	本地質図	隱岐海峡海底地質図 (玉木ほか, 1982)	中国電力(株)
完新世		Tt 2層	Q <sub>1</sub> 層 Q <sub>2</sub> 層	●A/B層
更新世	ユニットe		P層	
鮮新世	ユニットd <sub>2</sub>	Tt 1層	C層	
	ユニットd <sub>1</sub>	Hm 2a,b層 Hm 1層		
後期 中新世	ユニットc	香住沖層	M <sub>1</sub> 層	D <sub>1</sub> 層
中期	ユニットb			
前期	ユニットa	音響基盤	M <sub>2</sub> 層	D <sub>2</sub> 層

山本ほか(1989)に加筆



当社の地層区分は、文献の地層区分との対比及び文献の地層における採泥試料や深部試錐の微化石分析結果等に基づくと、A層は完新統、B層は中部～上部更新統、C層は鮮新統～下部更新統、D層は中新統であると判断される。

# 細区分したB層の地質年代について

シーケンス層序学に基づいて地層区分及び編年を実施した。

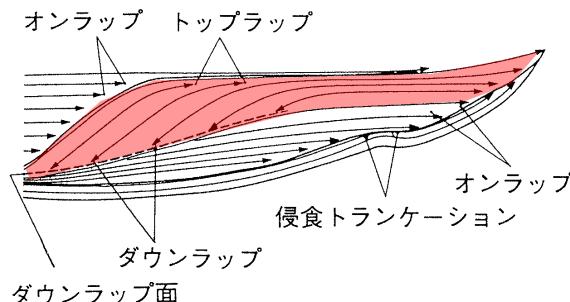
- 音波探査記録断面から反射波の不連続面を抽出。
- 不連続面により区分された地層ユニットの形態及び位置と海水準変動の関連から地層の形成年代を推定。

例えば、プログラデーションの形態を示す地層ユニットは比較的浅海域で堆積する海退相であることが知られているが、このような地層が現在の大陸棚外縁付近に分布することが確認された場合、過去に海水準が下がった時期に堆積したことが想定される。

これと海水準変動曲線とを対比することにより、MIS2やMIS6等の海退期に形成されたことが推定できる。

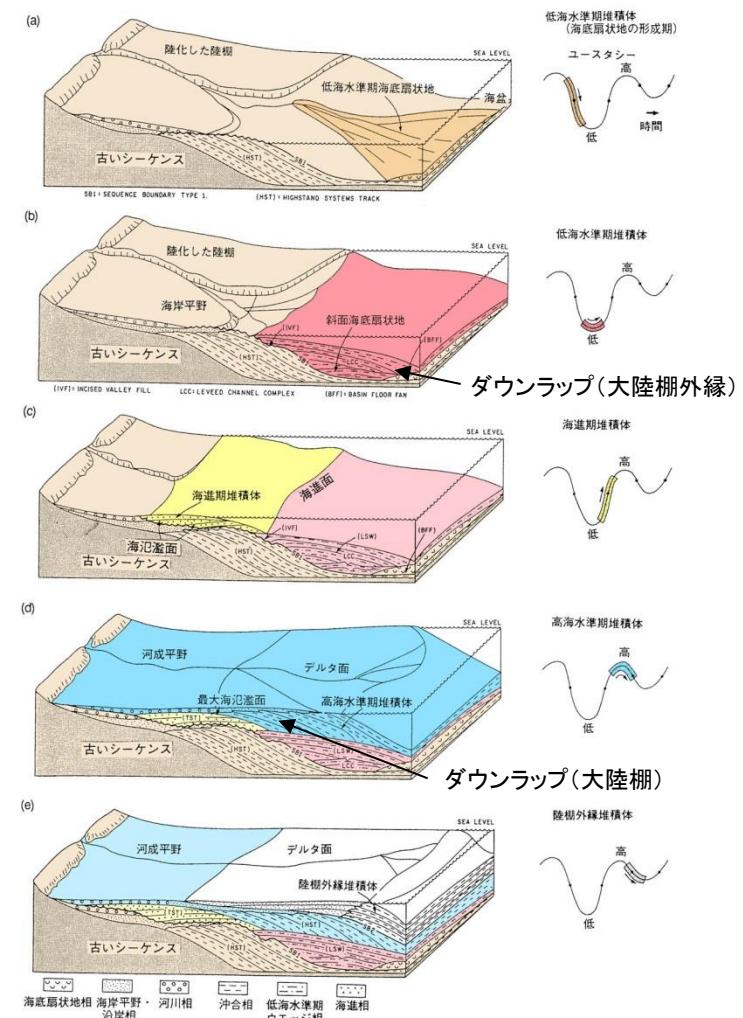
海側 ←

→ 陸側



第1図、震探断面で見られる特徴的な反射面の末端部のパターン (Mitchum et al., 1977)

[酒井ほか(1995)から引用]



第6図、低海水準期 (a, b), 海進期 (c), 高海水準期 (d), 陸棚外縁堆積体 (e) の特徴およびユースタシーのどの段階で形成されるかを簡単に図示したもの (Haq, 1991).

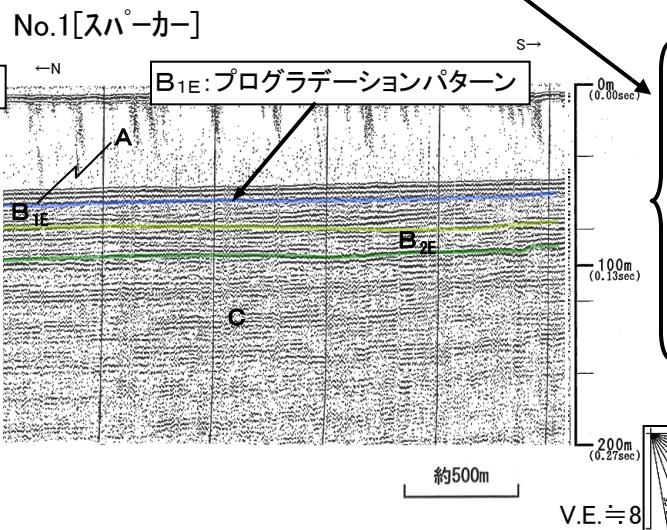
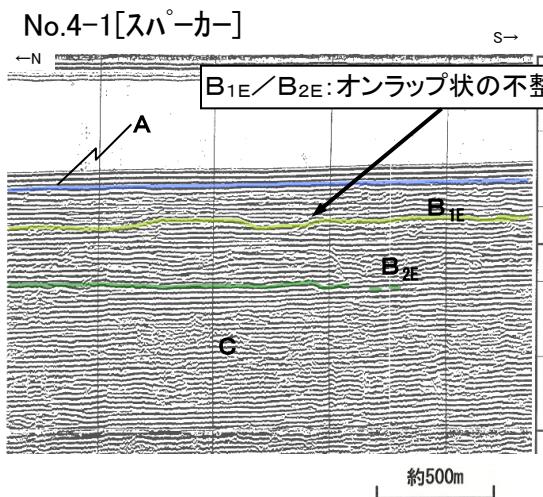
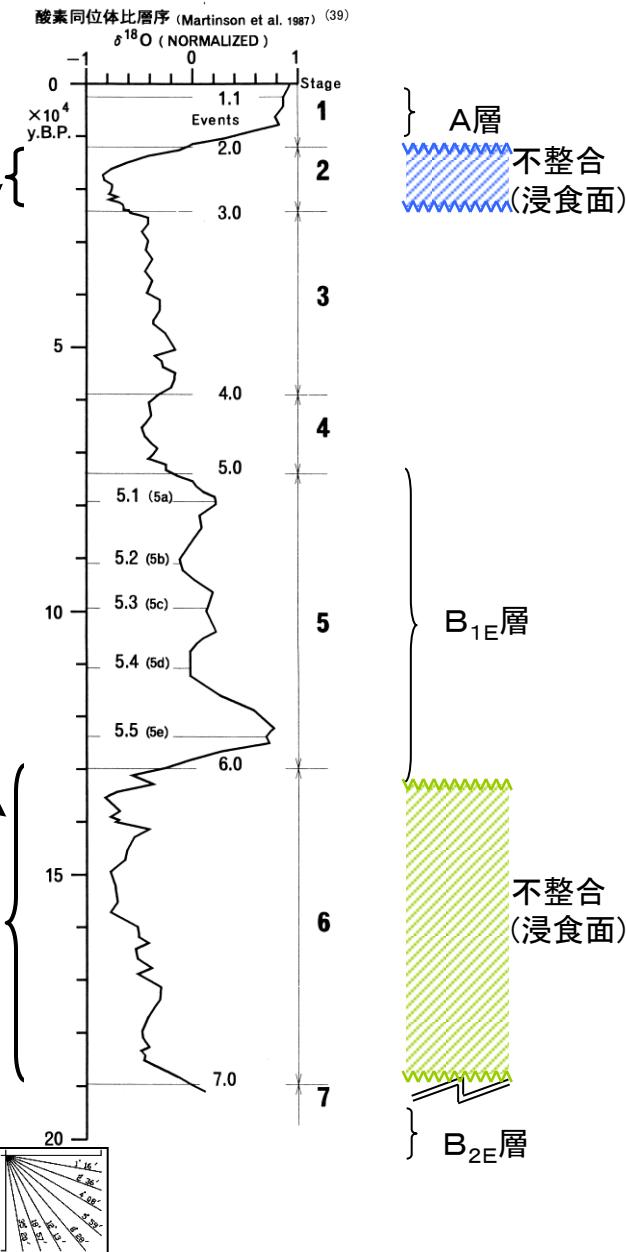
[酒井ほか(1995)から引用・加筆]

## 東部海域(大陸棚付近)のB層の年代対比

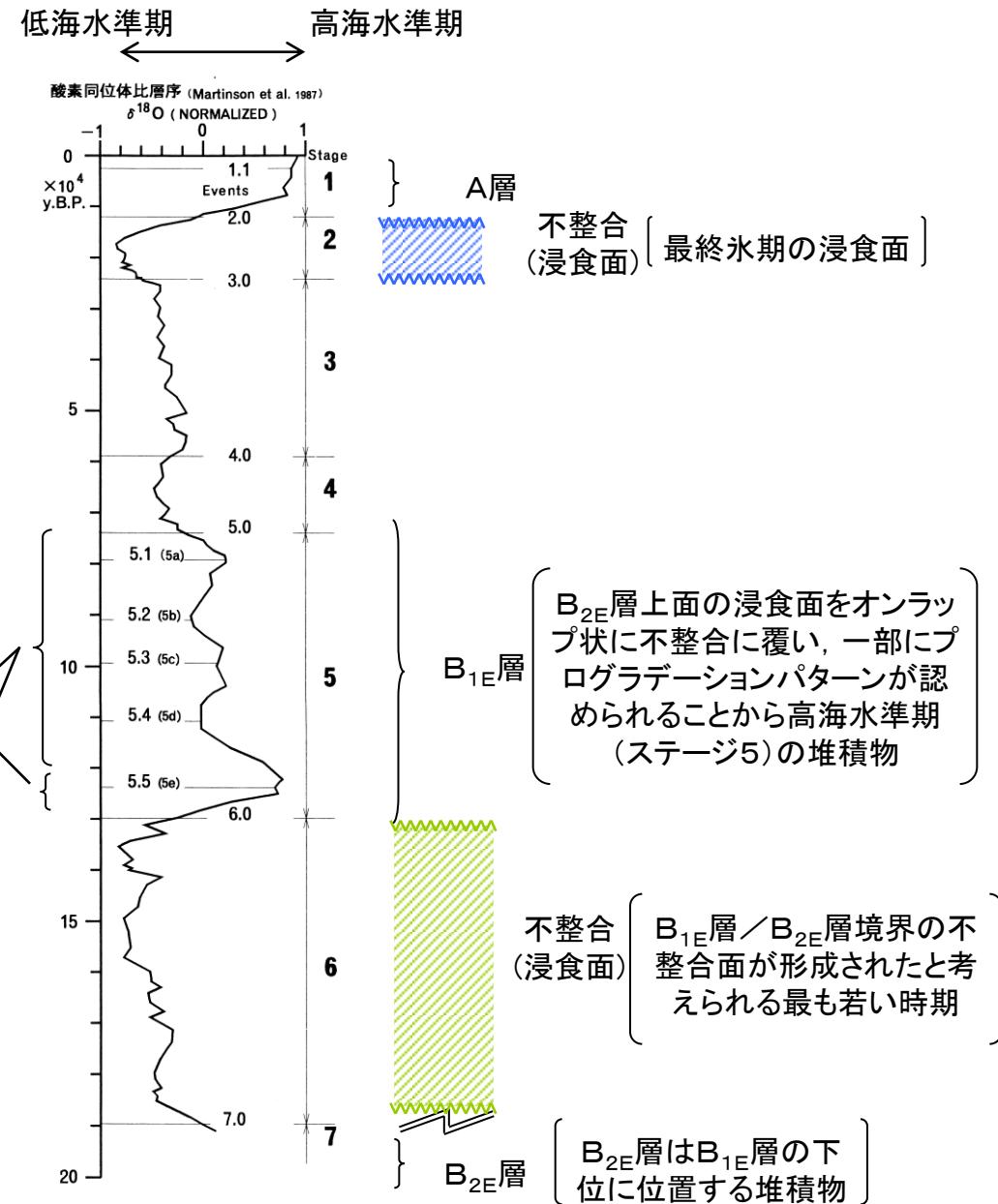
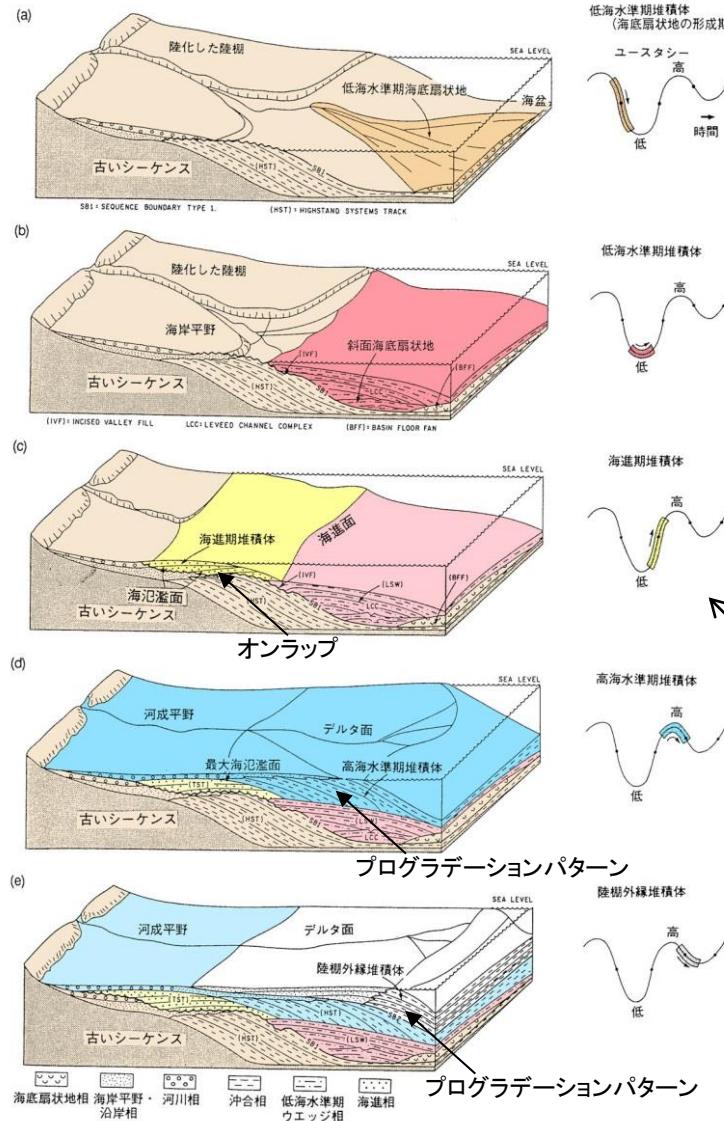
- ・ $B_{1E}$ 層と $B_{2E}$ 層の境界面は、東部海域の大陵棚において、 $B_{2E}$ 層の上面に顕著な浸食面が広く認められ、A層と $B_{1E}$ 層の浸食面の下位に位置することから、至近の低海水準期の時期(MIS6)の陸化に伴う浸食面と判断。
- ・ $B_{1E}$ 層は $B_{2E}$ 層上面の浸食面をオンラップ状に不整合に覆い、一部にプログラデーションパターンが認められることから、高海水準期である最終間氷期(MIS5)の堆積物とし、上部更新統と判断。
- ・ $B_{2E}$ 層は $B_{1E}$ 層の下位に位置し、B層が中部～上部更新統であることから、中部更新統と判断。

地質時代	地層名	地形学的位置	地質境界及び堆積構造	反射パターンの特徴
第四紀 更新世 中期	A層	大陸棚	下位層上面の浸食面を不整合に覆う。	一般に海底面にほぼ平行な成層パターンを、一部で散乱パターン、一部で海底面に斜交するパターンを示す。
	$B_{1E}$	大陸棚	下位層上面の浸食面を不整合に覆い、下位層上面が起伏面の場合は、部分的にオンラップ状の不整合関係を示す。	連続性に乏しい波状パターン又は一部でプログラデーションパターンを示す。
	$B_{2E}$	大陸棚	下位層上面の浸食面を不整合に覆い、下位層上面が起伏面の場合、部分的にオンラップ状の不整合関係を示す。	ほぼ水平かやや傾斜する成層パターンを示す。

最終氷期の浸食面

 $B_{1E}$ 層/ $B_{2E}$ 層境界の不整合面が形成されたと考えられる最も若い時期

## 参考: 東部海域(大陸棚付近)のB層の年代対比



第6図. 低海水準期 (a, b), 海進期 (c), 高海水準期 (d), 陸棚外縁堆積体 (e) の特徴およびユースターのビの段階で形成されるかを簡単に示したもの (Haq, 1991).

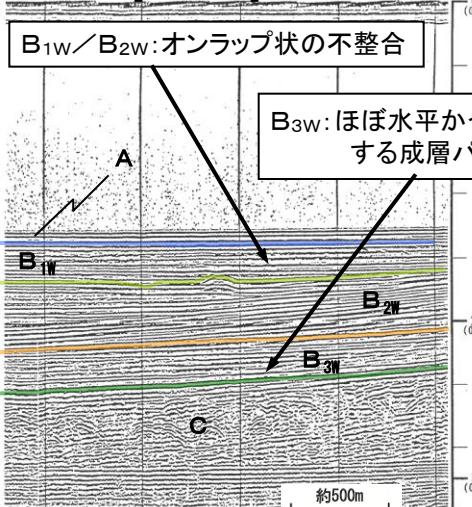
[酒井ほか(1995)から引用・加筆]

## 北西部海域(大陸棚外縁付近)のB層の年代対比

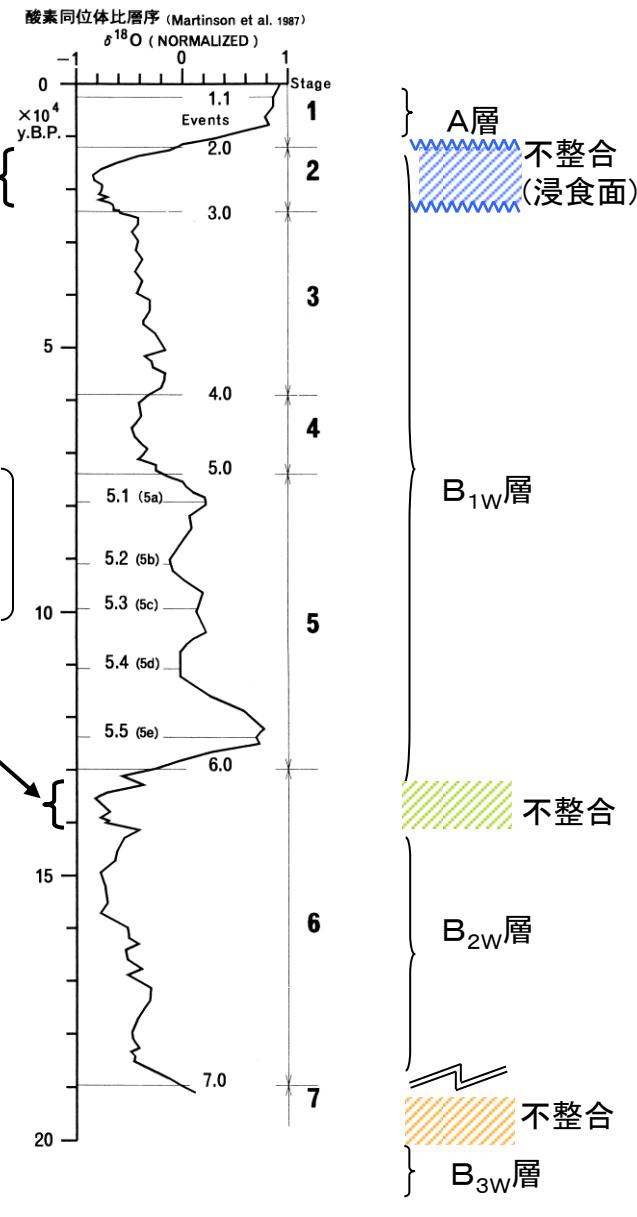
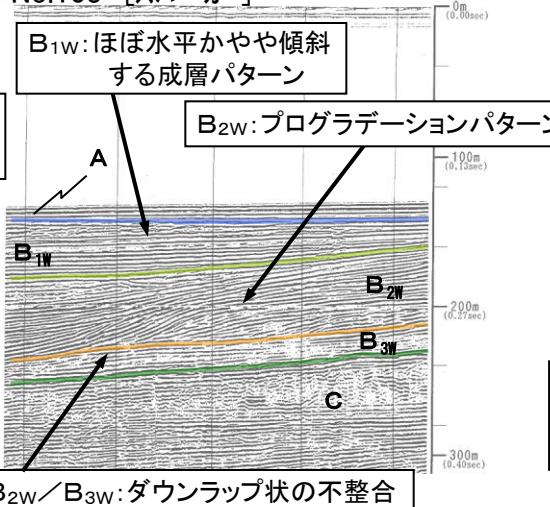
- ・ $B_{1W}$ 層と $B_{2W}$ 層の境界面は、北西部海域の大陵棚外縁において、 $B_{2W}$ 層の上面をオンラップ状に覆う不整合面が広く認められ、A層と $B_{1W}$ 層の浸食面の下位に位置することから、低海水準期(MIS6)から高海水準期である最終間氷期(MIS5)に移行する不整合面と判断し、 $B_{1W}$ 層は上部更新統と判断。
- ・ $B_{2W}$ 層は $B_{1W}$ 層の下位に位置し、プログラデーションパターンが認められることから低海水準期(MIS6)の堆積物とし、中部更新統と判断。
- ・ $B_{3W}$ 層は $B_{1W}$ 層及び $B_{2W}$ 層の下位に位置し、B層が中部～上部更新統であることから、 $B_{2W}$ 層以前の中部更新統と判断。

地質時代	地層名	地形学的位置	地層境界及び堆積構造	反射パターンの特徴
第四紀 更新世 中期	A層	大陸棚	下位層上面の浸食面を不整合に覆う。	一般に海底面にほぼ平行な成層パターンを、一部で散乱パターン、一部で海底面に斜交するパターンを示す。
	$B_{1W}$	大陸棚外縁 ～大陸縁辺台地	下位層上面をオンラップ状の不整合で覆う。	連続性の良い層理パターンを示し、ほぼ水平かやや傾斜する成層パターンを示す。
	$B$ 層	大陸棚 ～大陸縁辺台地	下位層上面を不整合に覆う。層内の一部に軽微な不整合面が見られるが、 $B_{2W}$ に一括する。	連続性の良い層理パターン又は顕著なプログラデーションパターンを示す。
	$B_{3W}$	大陸棚外縁 ～大陸縁辺台地	下位層上面を不整合に覆う。	ほぼ水平かやや傾斜する成層パターンを示す。

No.30-1 [スパーーカー]

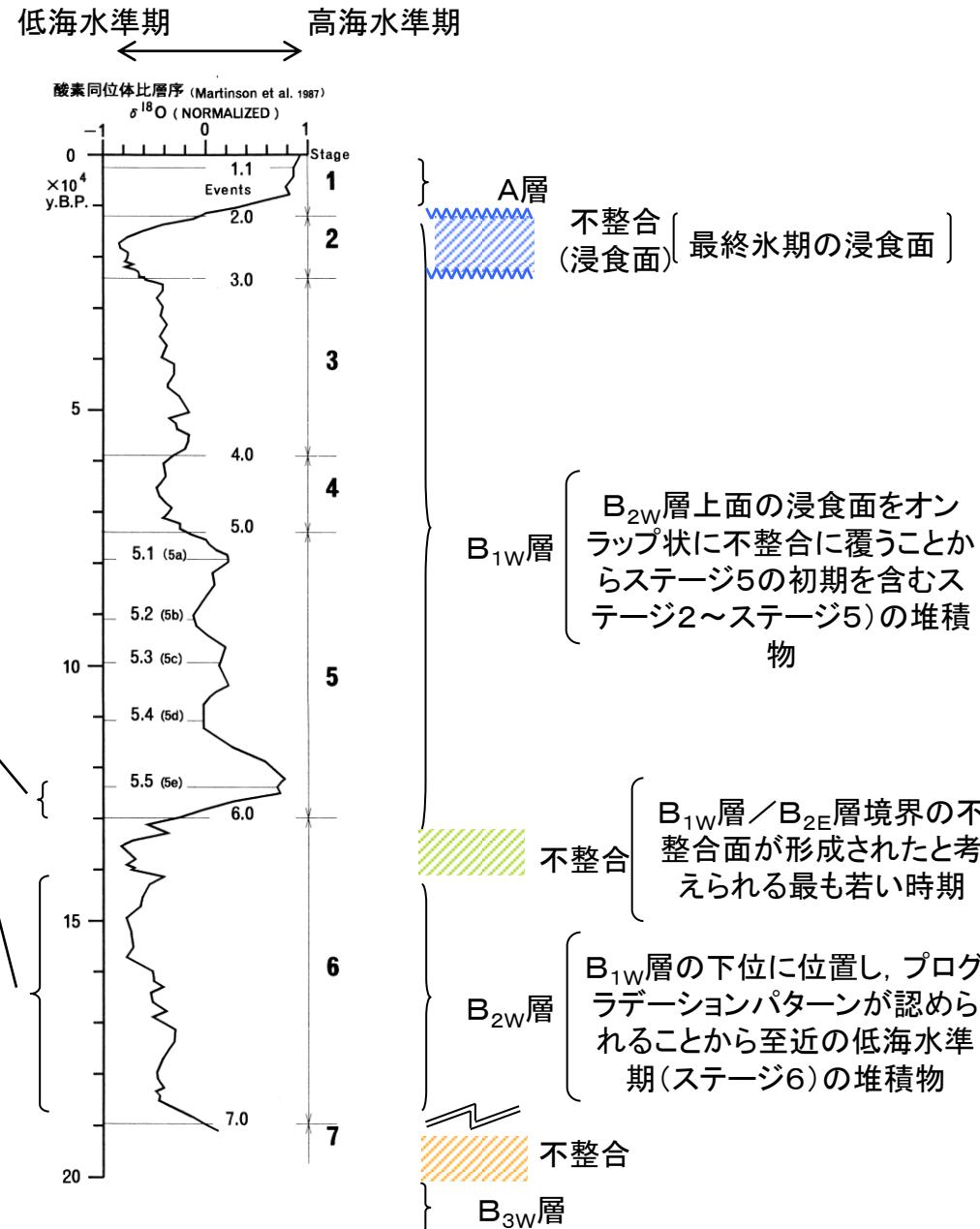
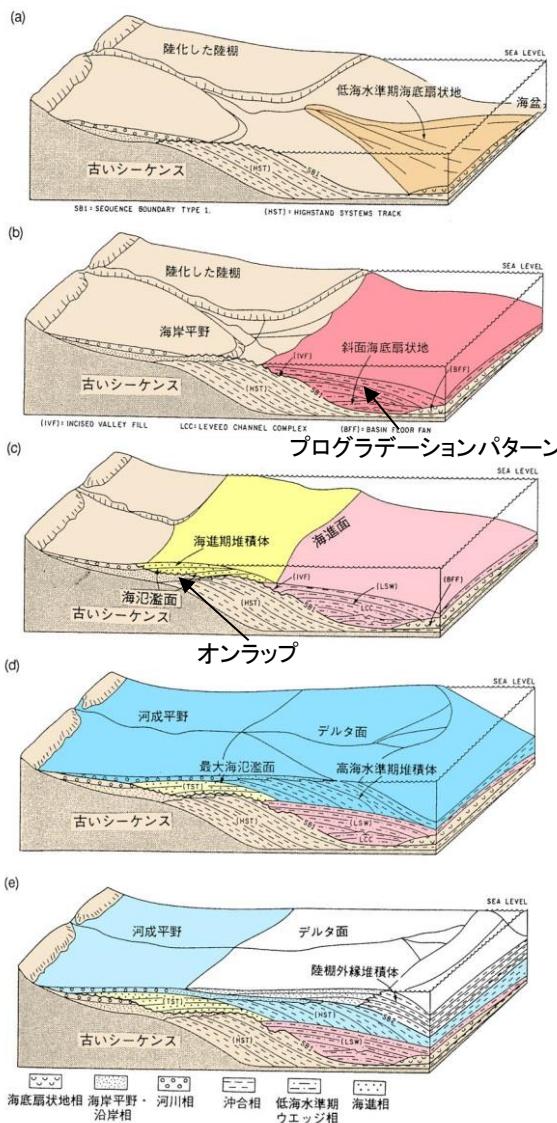


No.103 [スパーーカー]



#### 4. 敷地前面海域の地質層序

## 参考: 北西部海域(大陸棚外縁付近)のB層の年代対比



第6図. 低海水準期 (a, b), 海進期 (c), 高海水準期 (d), 陸棚外縁堆積体 (e) の特徴およびユースターのどの段階で形成されるかを簡単に図示したもの (Haq, 1991).

[酒井ほか(1995)から引用・加筆]

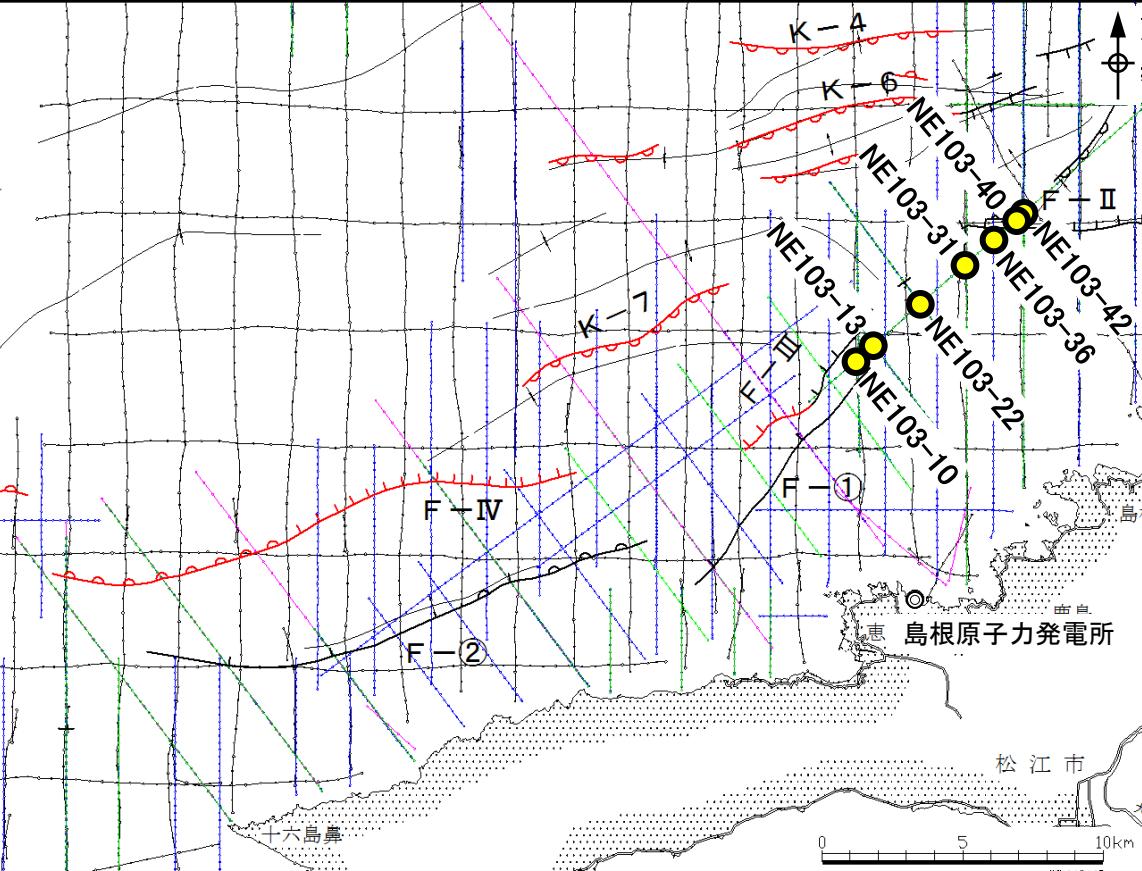
## 採泥試料位置(追加調査)

## 凡 例

- 主な活断層のうち後期更新世以降の活動が認められないもの
- 主な活断層のうち後期更新世以降の活動が否定できないもの
- 中国電力㈱音波探査測線 (スハーカー)
- - - 中国電力㈱音波探査測線 (エアーガン・マルチチャンネル)
- - - 中国電力㈱音波探査測線 (ウォーターガン・マルチチャンネル)
- - - 中国電力㈱音波探査測線 (ブーマー・マルチチャンネル)

No.111.5-41

採泥調査地点

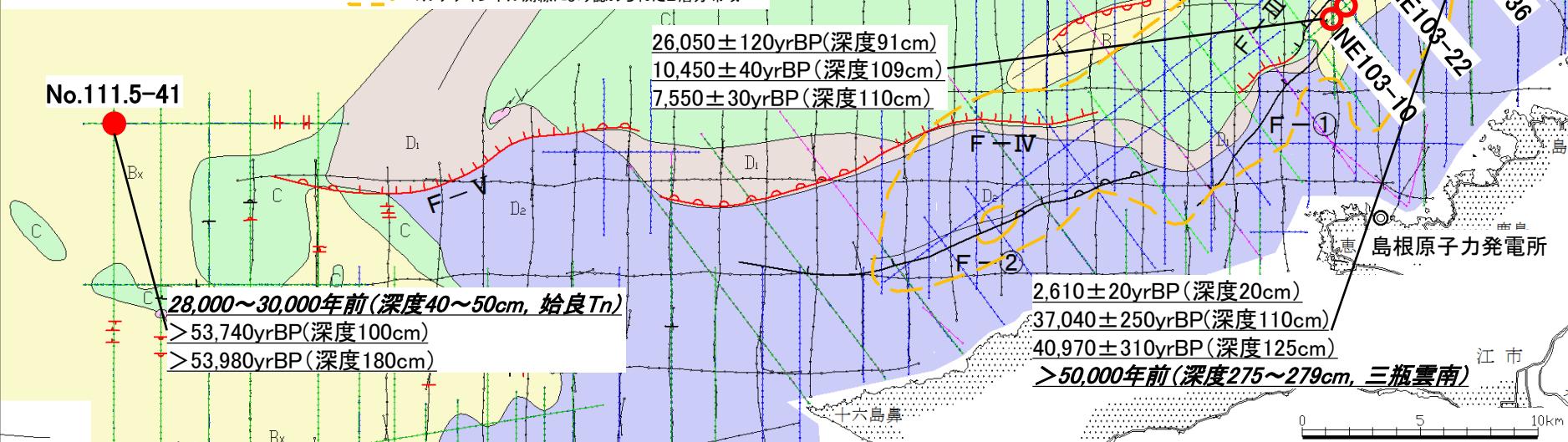
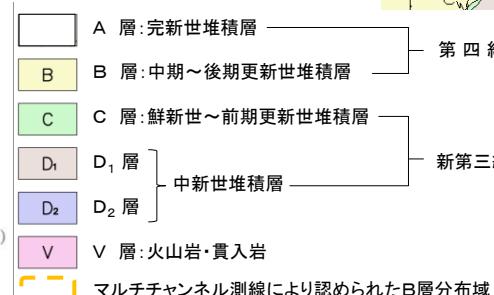


・F-Ⅲ断層, F-Ⅳ断層及びF-Ⅴ断層の端部付近の層序区分の妥当性を確認することを目的に敷地前面海域の西側において柱状採泥調査を実施した。

## 採泥試料分析結果(追加調査)

## 凡 例

- 主な断層のうち後期更新世以降の活動が認められないもの
- 主な断層のうち後期更新世以降の活動が否定できないもの
- 中国電力㈱音波探査測線 (スハーカー)
- 中国電力㈱音波探査測線 (エアコン・マルチチャンネル)
- 中国電力㈱音波探査測線 (ウォーターオン・マルチチャンネル)
- 中国電力㈱音波探査測線 (ブーマー・マルチチャンネル)



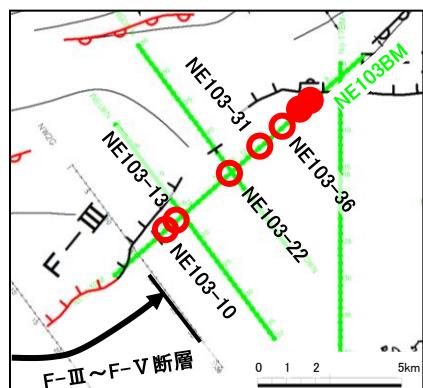
●○ 採泥調査地点  
(● 上部更新統が確認された地点)

※地質図は採泥調査の結果を反映  
※火山灰の年代は町田・新井(2011)<sup>(40)</sup>による

柱状採泥調査の結果、火山灰分析によりF-I～III断層東端付近に三瓶雲南(>50,000年前)、F-I～V断層西端付近に始良Tn(28,000年前～30,000年前)が確認されたこと、または放射性炭素同位体法(C14)により上部更新統が複数確認されたことから、敷地前面海域のB層(中部～上部更新統)が、既往評価より厚く分布していることが確認された。

## (参考)柱状採泥調査結果(コア写真)

F- III～F- V 断層  
F- III 断層東端付近

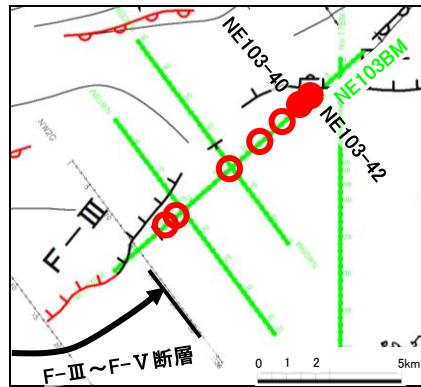


●○ 採泥調査地点  
(●上部更新統が確認された地点)

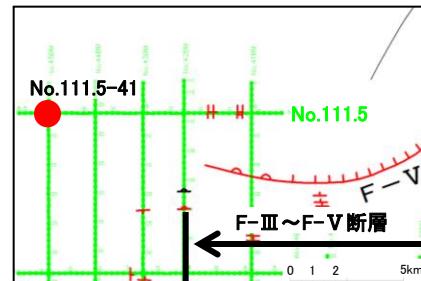
採泥地点	0	20	40	60	80	100	120cm	採取深度
NE103-10 (水深) 83.7m					7,550±30yrBP(深度110cm, 貝殻)			0.00～ 1.15m
			26,050±120yrBP(深度91cm, 有機物片)▼				▼	
NE103-13 (水深) 82.5m					10,450±40yrBP(深度109cm, 貝殻)▲			1.15～ 2.23m
				1,880±20yrBP(深度40cm, 貝殻)	▼	▼ 8,810±40yrBP(深度80cm, 貝殻)		
NE103-22 (水深) 79.8m								0.00～ 1.00m
			10,210±30yrBP(深度130cm, 貝殻)	▼	▼ 9,400±40yrBP(深度145cm, 貝殻)			
NE103-31 (水深) 79.9m				▼ 9,790±30yrBP(深度35cm, 貝殻)				0.00～ 0.64m
NE103-36 (水深) 80.4m				11,880±40yrBP(深度92cm, 貝殻)▼				0.00～ 1.28m

## (参考)柱状採泥調査結果(コア写真)

F-III～F-V断層  
F-III断層東端付近



## F-Ⅲ～F-V断層 F-V断層西端付近



● ○ 採泥調査地点

(● 上部更新統が確認された地点)

## (参考)火山灰分析結果(NE103-40, NE103-42, No.111.5-41)

資料3 P145 加筆・修正

採泥地点	採取深度 (m)	テフラ	火山ガラスの 形態別含有量 (/3000)	重鉱物含有量 (/3000)	火山ガラスの 屈折率 ※1	火山ガラスの 化学的特性 ※2	普通角閃石の 屈折率 ※1	備考
NE103-40	1.04	SUn	100 200 300	20 40 60	1.494–1.499	K <sub>2</sub> O>Na <sub>2</sub> O	1.670–1.686 (1.670–1.678)	黒雲母含む
NE103-42	0.16	SUn含む	100 200 300	20 40 60	1.494–1.500 (1.494–1.498)	K <sub>2</sub> O>Na <sub>2</sub> O		
	2.75–2.79	SUn	100 200 300	20 40 60	1.494–1.498	K <sub>2</sub> O>Na <sub>2</sub> O	1.669–1.680	

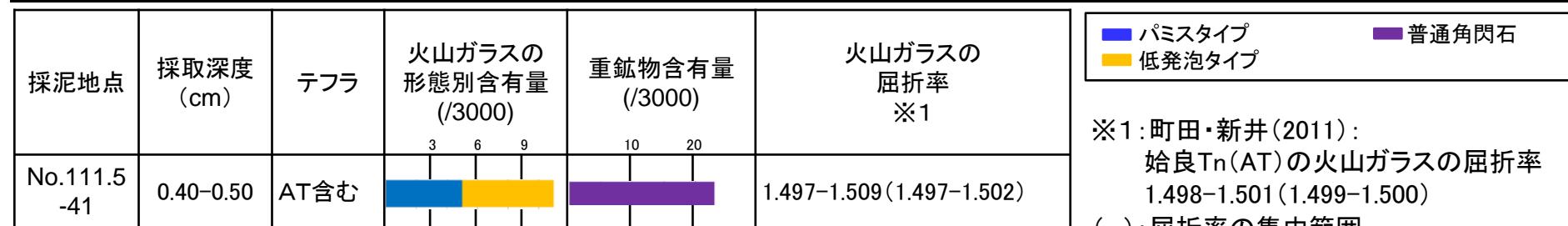
■ バブルウォールタイプ  
■ パミスタイル  
■ 低発泡タイプ

■ 斜方輝石  
■ 普通角閃石

( ) : 屈折率の集中範囲

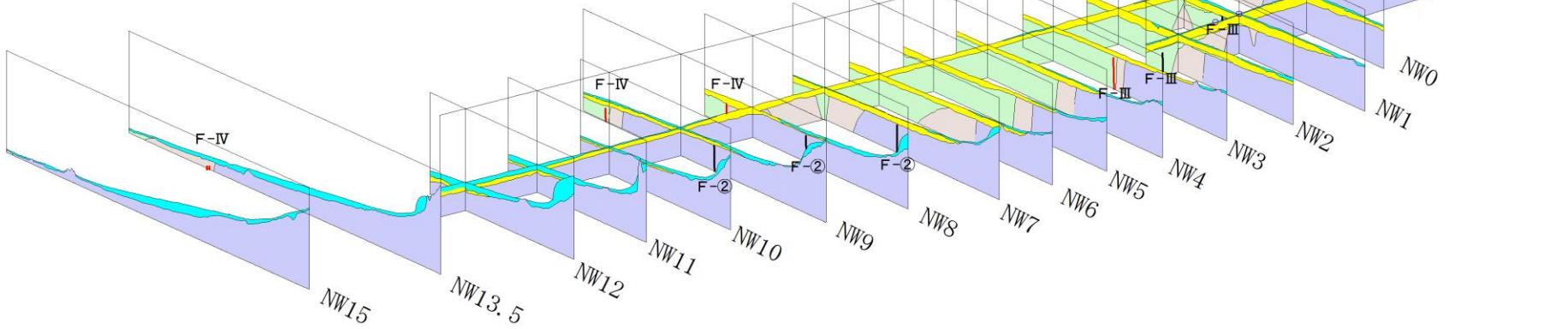
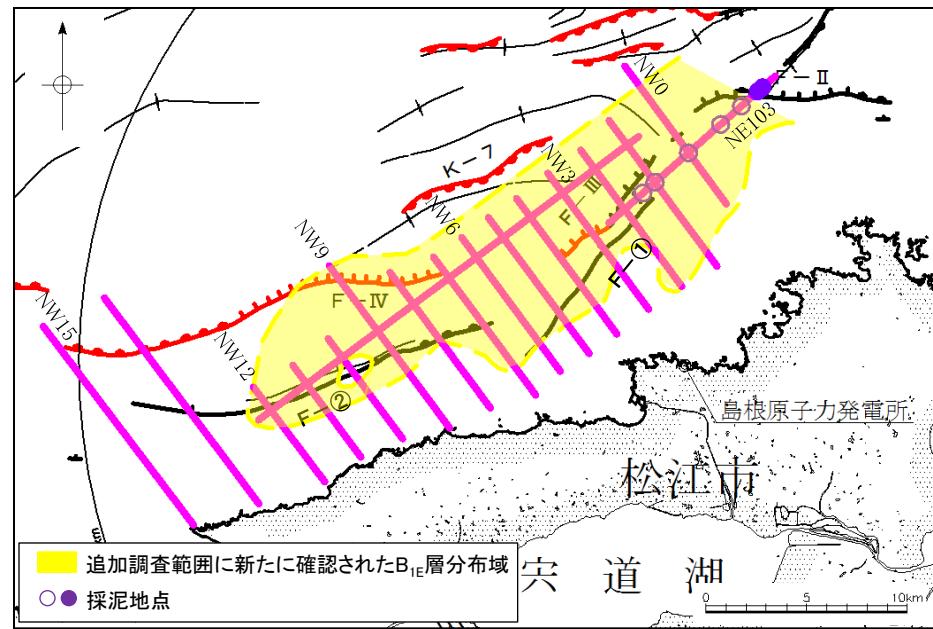
- ※1: 町田・新井(2011) : 三瓶雲南(SUn)の火山ガラスの屈折率1.496–1.498(1.497), 普通角閃石の屈折率1.671–1.680(1.671–1.675)  
 ※2: 林・三浦(1986)<sup>(41)</sup> : 三瓶雲南(SUn)の火山ガラスは化学的特性K<sub>2</sub>O>Na<sub>2</sub>Oの関係をもつ。同文献によると、「K<sub>2</sub>O>Na<sub>2</sub>Oという関係をもつ火山ガラスを有するテフラは、山陰では報告されておらず、他の三瓶起源のテフラでも皆無である。この火山ガラスの特性は、テフラ同定の上で最も重要な指標となるであろう」とされている。

- NE103-40, 42で認められた火山灰は、低発泡タイプの火山ガラスが確認されること、化学的特性が三瓶雲南に認められるK<sub>2</sub>O>Na<sub>2</sub>Oという特徴と一致すること及び火山ガラス・普通角閃石の屈折率が文献値と概ね一致していることから、三瓶雲南(SUn)と評価した。



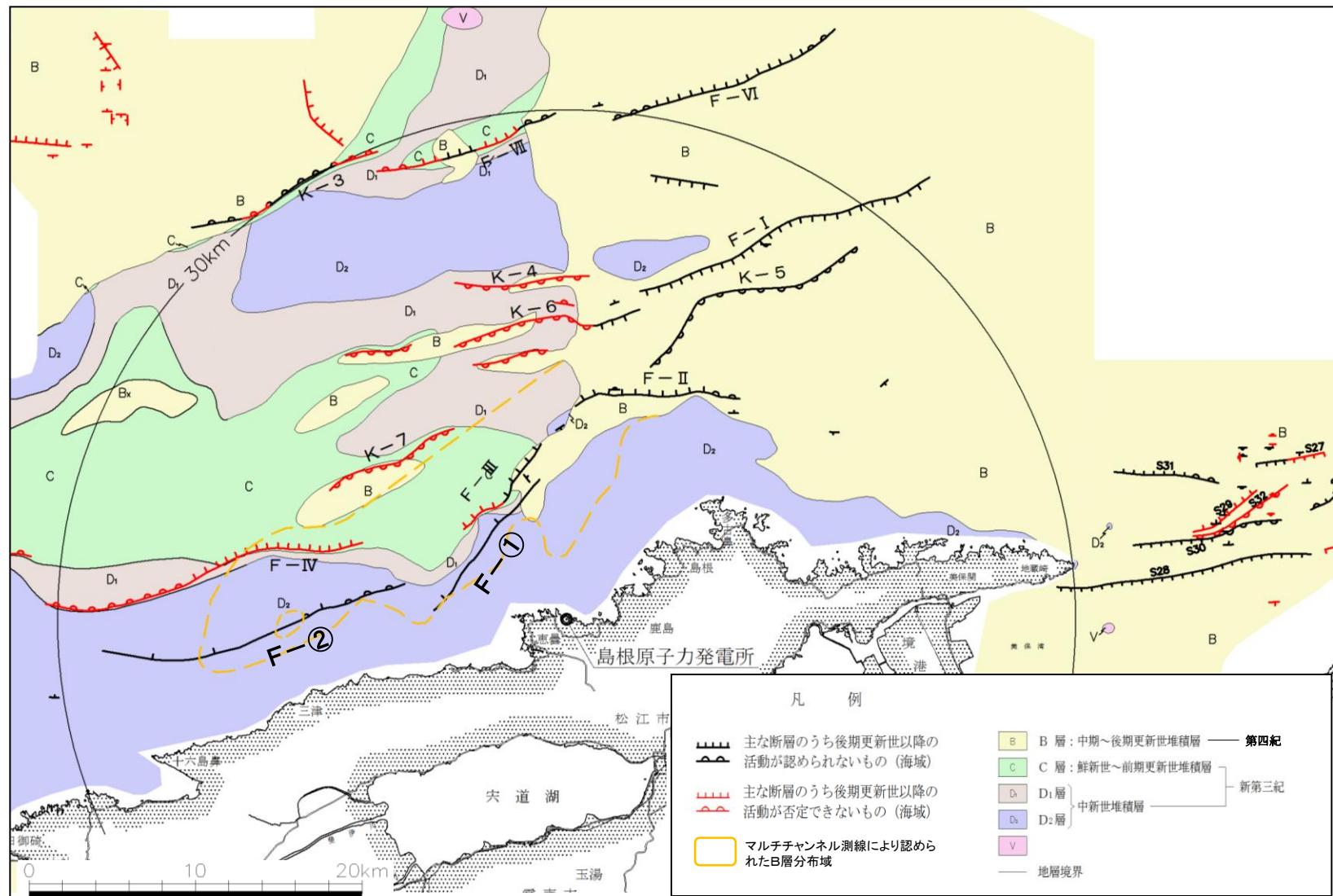
- No.111.5-41で認められた火山灰は、火山ガラスの屈折率が文献値と概ね一致していることから、始良Tn(AT)と評価した。

## パネルダイヤグラム(追加調査)



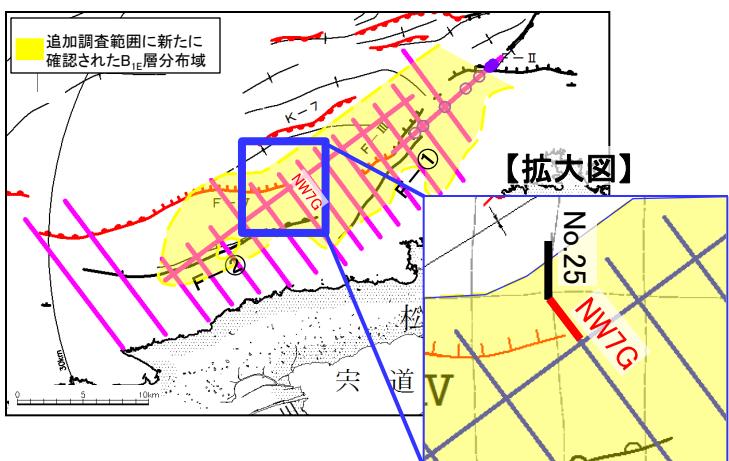
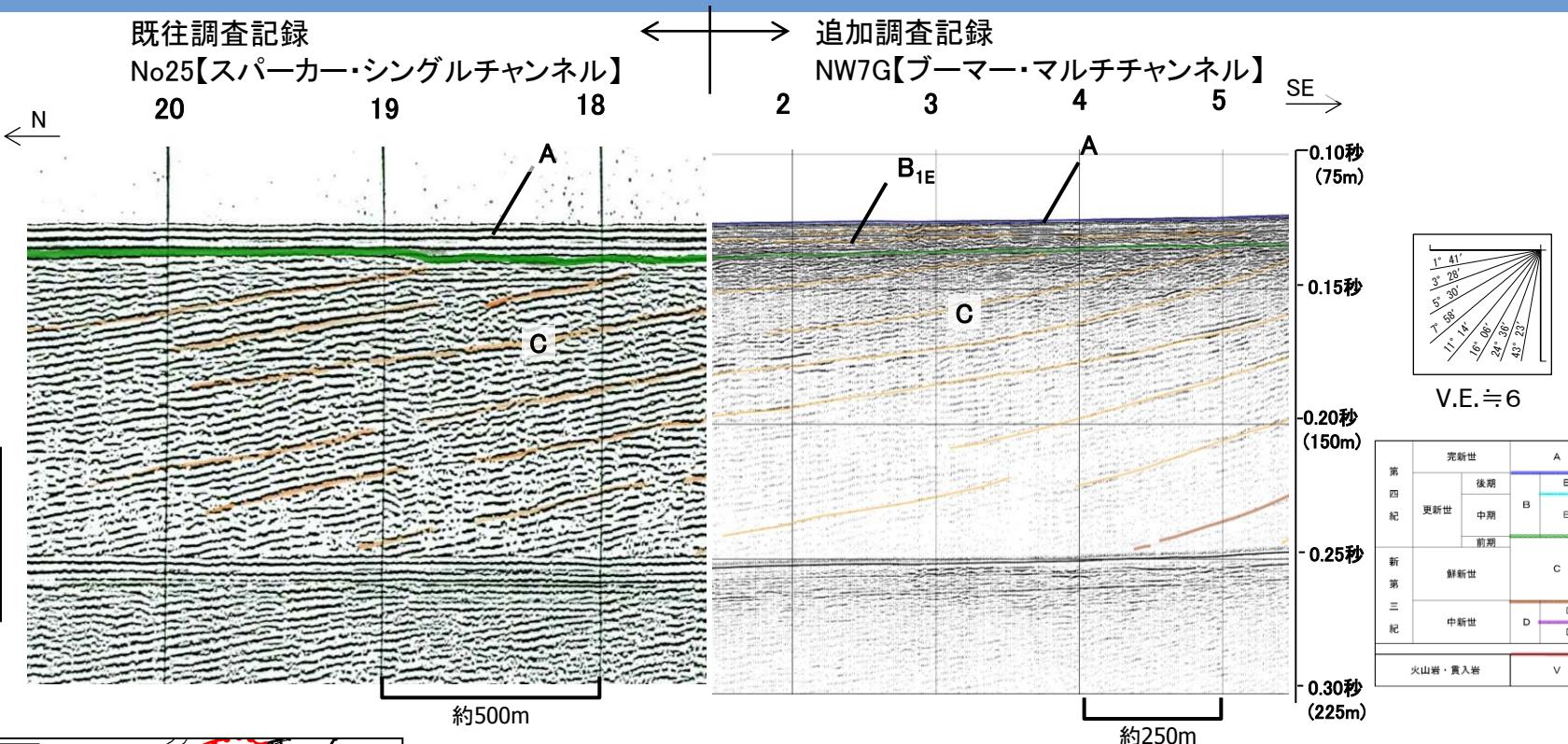
・測線のクロスチェックの結果、採泥調査により確認した $B_{1E}$ 層は、NE103測線の東端からNW12測線付近まで連続して追跡され、他の地層も矛盾なく分布することを確認した。

## 海底地質図



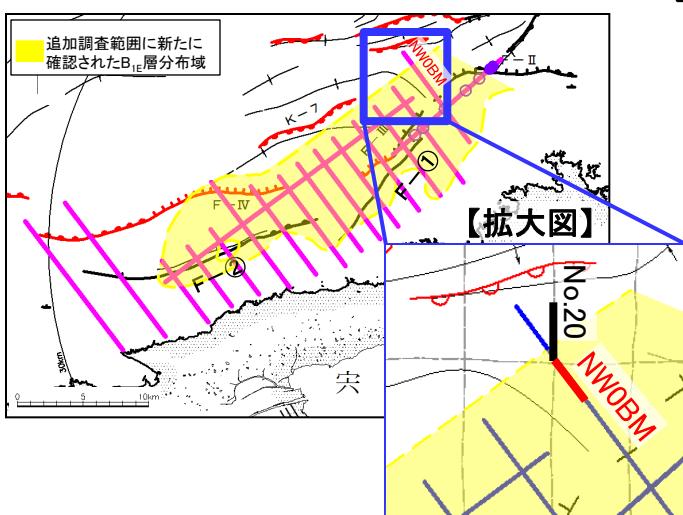
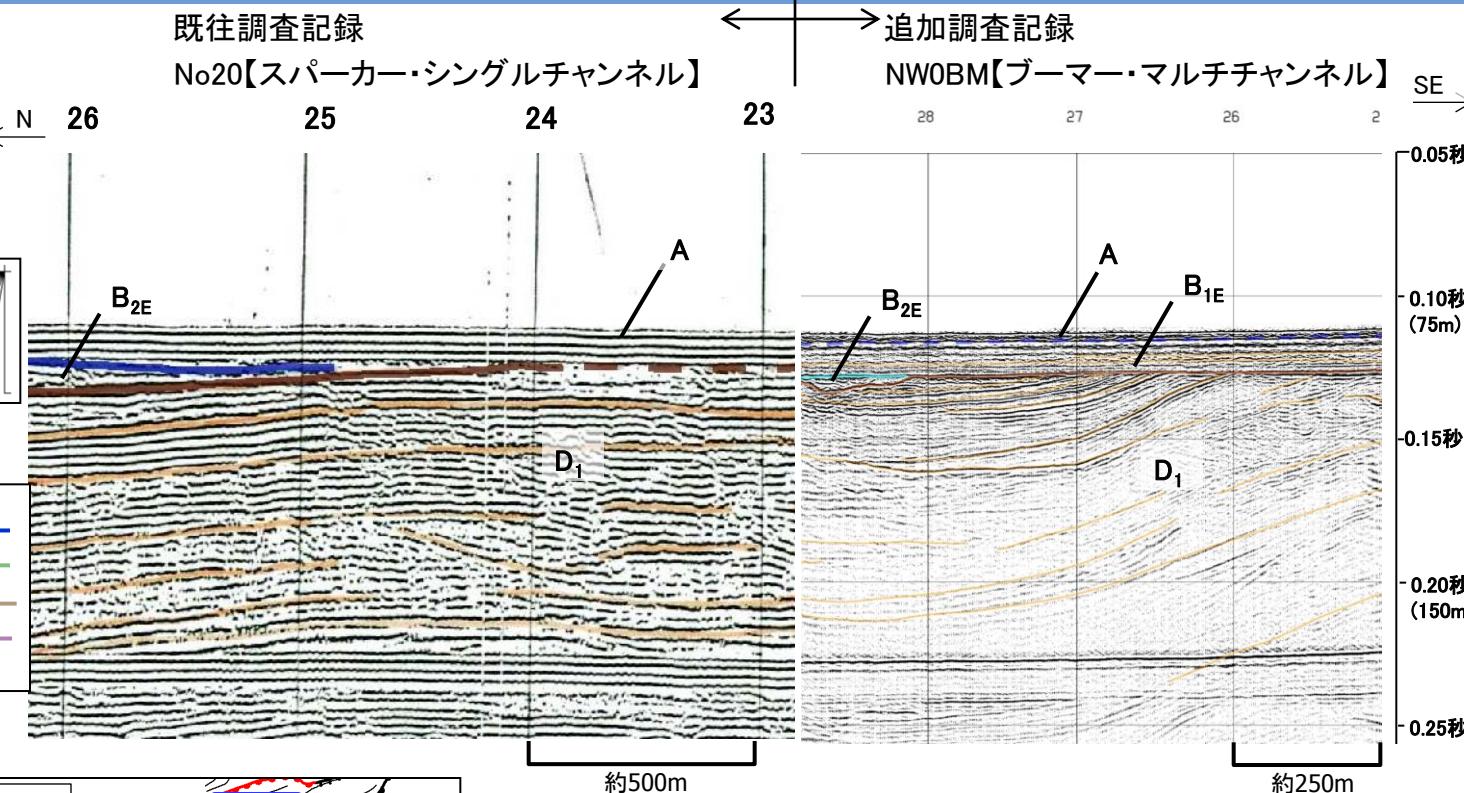
※この地質図はA層を取除いた地質図である。

## 既往評価との整合性(代表測線:その1)



- 追加調査範囲のB<sub>1E</sub>層分布域の境界付近において、追加調査記録(ブーマー記録)と既往調査記録(スパークー記録)の整合性について確認を行った。
- ブーマー記録とスパークー記録について、C層が連続して追跡できることを確認した。
- 追加調査範囲外のスパークー記録(以下「既往評価」という。)において、A層と解釈している地層はブーマー記録からの連続性を考慮すると、大部分はB<sub>1E</sub>層であると考えられる。しかし、スパークー記録では分解能上、これ以上の細区分はできないこと、また、活断層評価上の影響がないことから、変更は行わない。

## 既往評価との整合性(代表測線:その2)



調査区域		陸域の地質	海 域												調査区域				
文献名	地質時代	敷地周辺	中海	宍道湖	古浦沖	敷地前面		敷地周辺	大田沖 <sup>*1</sup>	鳥取沖 <sup>*2</sup>	鳥取沖	隱岐海峡	大社	日御崎	美保関	文献名	地質時代		
		中国電力㈱	中国電力㈱	中国電力㈱	中国電力㈱	中国電力㈱	中国電力㈱	中国電力㈱	中国電力㈱	中国電力㈱	山本ほか(1989) <sup>*4</sup>	玉木ほか(1982) <sup>*3,*4</sup>	水路部(1993a) <sup>*4</sup>	水路部(1991b) <sup>*4</sup>	水路部(1992a) <sup>*4</sup>	文献名			
第四紀	完新世		沖積低地堆積物 砂丘堆積物	I_N	I_S	I_K II_K	A		A	A	Q <sub>1</sub>	I_T	I_H	I_M	完新世		第 四 紀		
	更新世	後期		II_N	II_S	III_K	B	B <sub>1E</sub> B <sub>2E</sub> B <sub>3E</sub>	B <sub>1W</sub> B <sub>2W</sub> B <sub>3W</sub>	B <sub>X</sub>		Tt <sub>2</sub>	Q <sub>2</sub>	II_T, III_T, IV_T	II_H, III_H, IV_H	II_M	後期	更新世	
		中期					B	B <sub>X</sub>	B	B <sub>1</sub> B <sub>2</sub> B <sub>3</sub> B <sub>4</sub>		V_T, VI_T		V_H, VI_H	中期				
	前期											Tt <sub>1</sub>	P	VII_T	VII_H	III_M	前期		
新第三紀	鮮新世		段丘堆積物				C		C	C	P	Hm <sub>2a,b</sub>	M <sub>1</sub>	VIII_T	VIII_H	鮮新世		新 第 三 紀	
	中新世	松江層 古江層 牛切層 成相寺層 古浦層		III_N	III_S		D	D <sub>1</sub>		D <sub>1</sub>		Hm <sub>1</sub>	IX_T	IX_H	IV_M	中新世			
		IV_N	IV_S				D	D <sub>1</sub>	D	D <sub>1</sub>		香住沖層(Ka)	X_T	X_H	V_M				
		V_N	V_S	VI_N	VI_S	D <sub>2</sub>		D <sub>2</sub>	D <sub>2</sub>	D <sub>2</sub>		音響基盤(Δt)	M <sub>2</sub>						
火山岩・貫入岩		大根島玄武岩	VII_N	V													火山岩・貫入岩		
火山岩・貫入岩		和久羅山安山岩 新第三紀貫入岩類	VIII_N	VIII_S															

\*1:島根県中部沖の海域を示す。

\*2:兵庫県新温泉町沖から島根県松江市美保関町東方沖にかけての海域を示す。

\*3:玉木ほか(1982)の地質時代は、山本ほか(1989)を参照した。

\*4:整合・不整合関係は記載されていない。

—— : 整合

~~~~~ : 不整合

- 敷地前面海域の地層は、上位からA層、B層、C層、D層(D<sub>1</sub>層及びD<sub>2</sub>層)及びV層に区分される。また、B層は層内の不整合面等により東部海域はB<sub>1E</sub>層及びB<sub>2E</sub>層、西部海域はB<sub>1W</sub>層、B<sub>2W</sub>層及びB<sub>3W</sub>層に細区分される。なお、その他海域のB層は細区分せず、B<sub>X</sub>層とする。
- A層は完新統に、B層は中部～上部更新統に、C層は鮮新統～下部更新統に、D層は中新統に、V層は新第三紀貫入岩類と判断される。

## 1. 敷地周辺海域の地質・地質構造

### 2. 敷地前面海域の断層活動性評価

(1) F-III断層, F-IV断層及びF-V断層

(2) FK-1断層

(3) K-4撓曲, K-6撓曲及びK-7撓曲

(4) F-I断層

(5) F-II断層

(6) F-VI断層

(7) K-5撓曲

(8) F-①断層及びF-②断層

### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価

(1) 鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層

(2) 大田沖断層

(3) F57断層

(4) K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層

(5) 隠岐北西方の断層

(6) 見島付近の断層

(7) 見島北方沖の断層

(8) 地蔵崎北東沖の断層

### 4. 敷地前面海域の地質層序

### 5. 敷地周辺海域の地質層序

(1) 鳥取沖

(2) 大田沖

(3) その他海域

## 海底地質(層序区分)

鳥取沖の地層は、上位からA層、B層、C層、D層( $D_1$ 層及び $D_2$ 層)に区分される。また、B層は層内の不整合面等により4層( $B_1$ 層、 $B_2$ 層、 $B_3$ 層、 $B_4$ 層)に細区分される。

| 調査区域<br>文献名<br>地質時代 | 陸域の地質<br>敷地周辺 | 海 域                 |                   |                                  |                                                                          |                                                                          |                   |                                                                                                                                  |                              |                                                                      |                                  |                                                      | 調査区域<br>文献名<br>地質時代                                  |                   |                   |  |
|---------------------|---------------|---------------------|-------------------|----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|----------------------------------------------------------------------|----------------------------------|------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|-------------------|-------------------|--|
|                     |               | 中海                  | 宍道湖               | 古浦沖                              | 敷地前面                                                                     | 敷地周辺                                                                     | 大田沖 <sup>*1</sup> | 鳥取沖 <sup>*2</sup>                                                                                                                | 鳥取沖                          | 隱岐海峡                                                                 | 大社                               | 日御崎                                                  |                                                      |                   |                   |  |
|                     |               | 中国電力(株)             | 中国電力(株)           | 中国電力(株)                          | 中国電力(株)                                                                  | 中国電力(株)                                                                  | 中国電力(株)           | 中国電力(株)                                                                                                                          | 山本ほか<br>(1989) <sup>*4</sup> | 玉木ほか<br>(1982) <sup>*3,*4</sup>                                      | 水路部<br>(1993a) <sup>*4</sup>     | 水路部<br>(1991b) <sup>*4</sup>                         | 水路部<br>(1992a) <sup>*4</sup>                         |                   |                   |  |
| 第四紀                 | 完新世           |                     | 冲積低地堆積物<br>砂丘堆積物  | I <sub>N</sub>                   | I <sub>S</sub>                                                           | I <sub>K</sub><br>II <sub>K</sub>                                        | A                 | A                                                                                                                                | A                            | Q <sub>1</sub>                                                       | I <sub>T</sub>                   | I <sub>H</sub>                                       | I <sub>M</sub>                                       | 完新世               | 第<br>四<br>紀       |  |
|                     | 更新世           | 後期                  |                   | II <sub>N</sub>                  | II <sub>S</sub>                                                          | III <sub>K</sub>                                                         | B                 | B <sub>1E</sub><br>B <sub>1W</sub><br>B <sub>2E</sub><br>B <sub>2W</sub><br>B <sub>3E</sub><br>B <sub>3W</sub><br>B <sub>x</sub> | Q                            | B <sub>1</sub><br>B <sub>2</sub><br>B <sub>3</sub><br>B <sub>4</sub> | Tt <sub>2</sub>                  | II <sub>T</sub> , III <sub>T</sub> , IV <sub>T</sub> | II <sub>H</sub> , III <sub>H</sub> , IV <sub>H</sub> | II <sub>M</sub>   | 後期                |  |
|                     |               | 中期                  |                   |                                  |                                                                          |                                                                          | B                 | B <sub>x</sub>                                                                                                                   | B                            | Q <sub>2</sub>                                                       | V <sub>T</sub> , VI <sub>T</sub> | V <sub>H</sub> , VI <sub>H</sub>                     |                                                      | 中期                |                   |  |
|                     |               | 前期                  |                   |                                  |                                                                          |                                                                          | C                 |                                                                                                                                  | C                            | Tt <sub>1</sub>                                                      | VII <sub>T</sub>                 | VII <sub>H</sub>                                     | VII <sub>M</sub>                                     | 前期                |                   |  |
|                     | 鮮新世           |                     |                   |                                  |                                                                          |                                                                          |                   |                                                                                                                                  |                              | Hm <sub>2a, b</sub>                                                  |                                  |                                                      |                                                      | 鮮新世               | 新<br>第<br>三<br>紀  |  |
|                     | 中新世           |                     |                   | 松江層<br>古江層<br>牛切層<br>成相寺層<br>古浦層 | III <sub>N</sub><br>IV <sub>N</sub><br>V <sub>N</sub><br>VI <sub>N</sub> | III <sub>S</sub><br>IV <sub>S</sub><br>V <sub>S</sub><br>VI <sub>S</sub> | D                 | D <sub>1</sub>                                                                                                                   | T                            | D <sub>1</sub><br>D <sub>2</sub>                                     | D <sub>1</sub><br>D <sub>2</sub> | D <sub>1</sub><br>D <sub>2</sub>                     | 香住沖層<br>(Ka)                                         | P                 | VIII <sub>T</sub> |  |
|                     |               |                     |                   |                                  |                                                                          |                                                                          | D <sub>2</sub>    | D <sub>2</sub>                                                                                                                   |                              | Hm <sub>1</sub>                                                      |                                  |                                                      |                                                      | VIII <sub>H</sub> |                   |  |
|                     |               |                     |                   |                                  |                                                                          |                                                                          |                   |                                                                                                                                  |                              | 音響基盤<br>(At)                                                         | M <sub>1</sub>                   | IX <sub>T</sub>                                      | IX <sub>H</sub>                                      | IX <sub>M</sub>   | 中新世               |  |
|                     |               |                     |                   |                                  |                                                                          |                                                                          |                   |                                                                                                                                  |                              |                                                                      | M <sub>2</sub>                   | X <sub>T</sub>                                       | X <sub>H</sub>                                       | V <sub>M</sub>    |                   |  |
| 火山岩・貫入岩             |               | 大根島玄武岩              | VII <sub>N</sub>  |                                  |                                                                          |                                                                          | V                 |                                                                                                                                  |                              |                                                                      |                                  |                                                      |                                                      |                   | 火山岩・貫入岩           |  |
|                     |               | 和久羅山安山岩<br>新第三紀貫入岩類 | VIII <sub>N</sub> | VIII <sub>S</sub>                |                                                                          |                                                                          |                   |                                                                                                                                  |                              |                                                                      |                                  |                                                      |                                                      |                   |                   |  |

\*1:島根県中部沖の海域を示す。

\*2:兵庫県新温泉町沖から島根県松江市美保関町東方沖にかけての海域を示す。

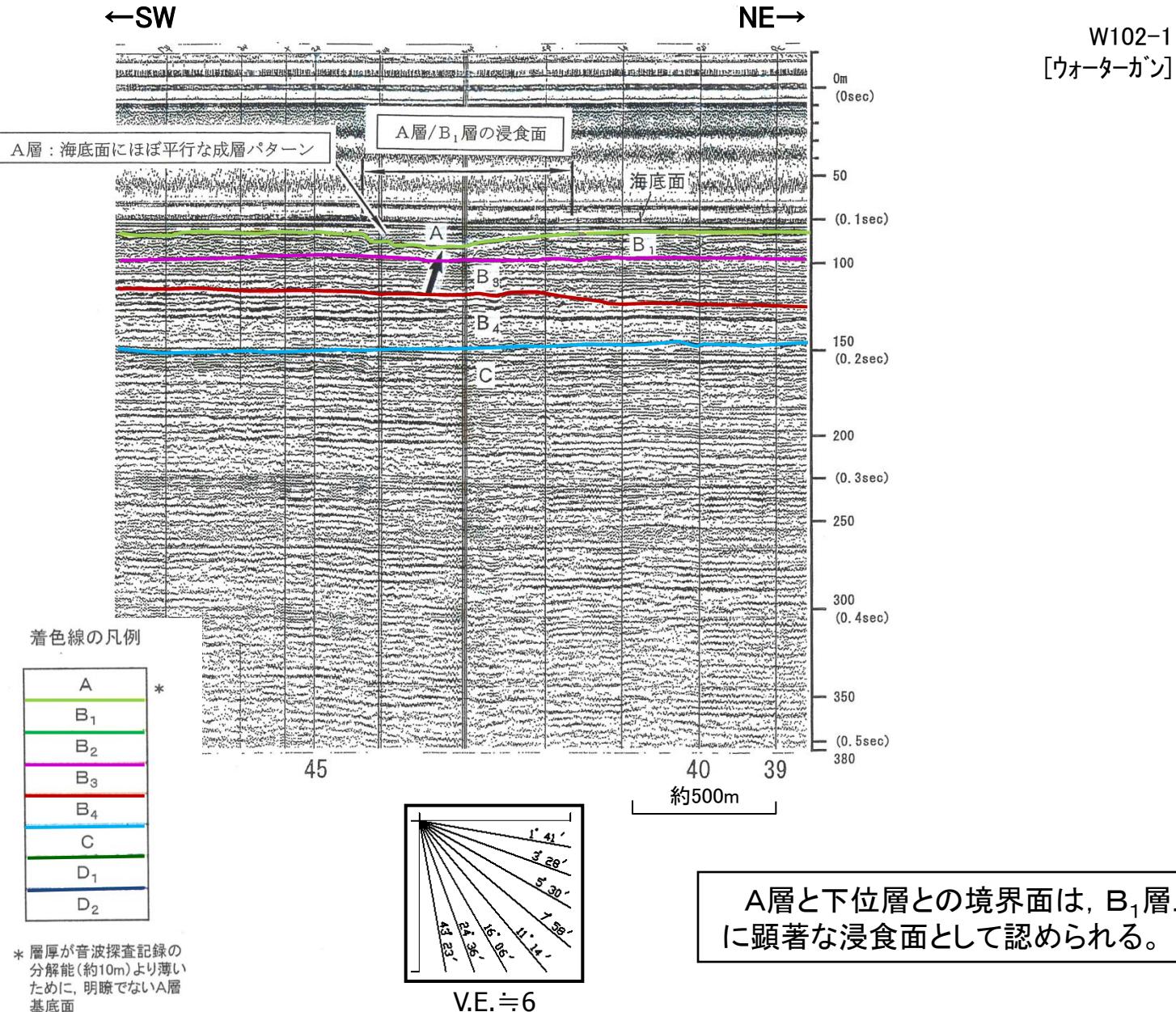
\*3:玉木ほか(1982)の地質時代は、山本ほか(1989)を参照した。

\*4:整合・不整合関係は記載されていない。

:整合

:不整合

## A層と下位層の不整合面(音波探査記録例)



A層と下位層との境界面は、B<sub>1</sub>層上面に顕著な浸食面として認められる。

B<sub>1</sub>層とB<sub>2</sub>層の不整合面(音波探査記録例)

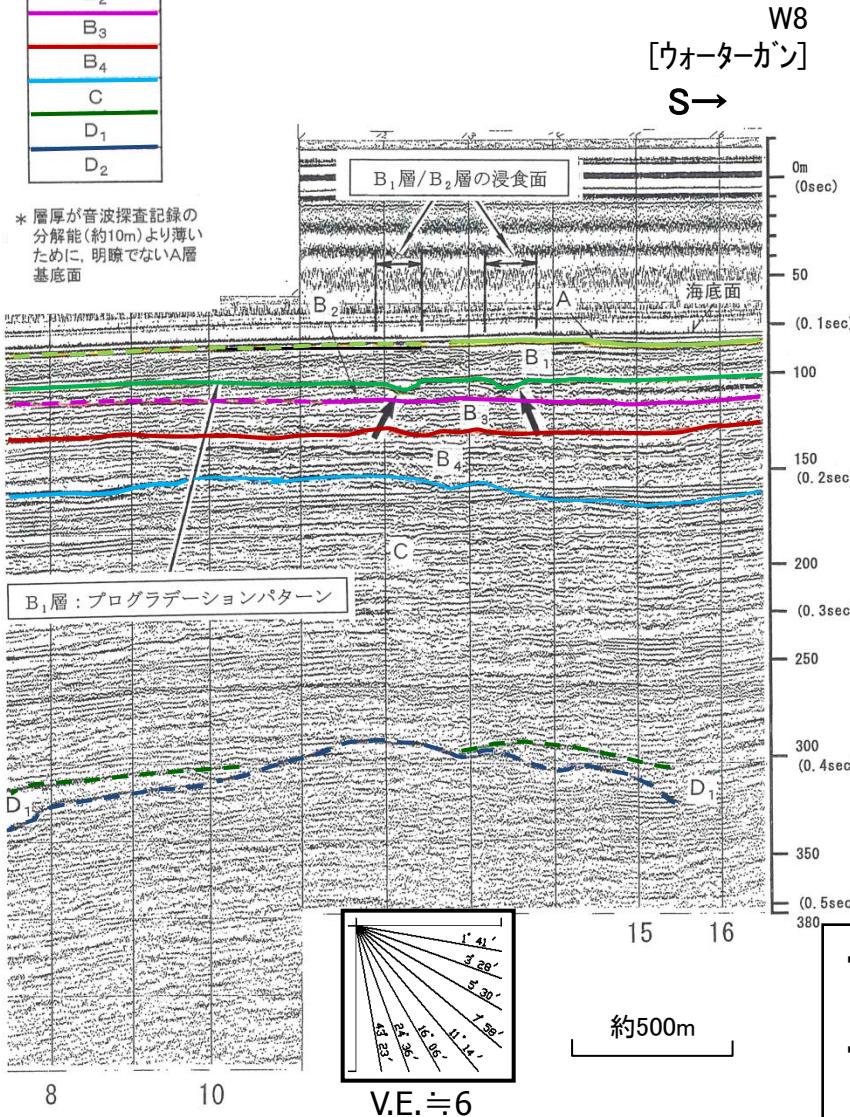
着色線の凡例

|                |
|----------------|
| A              |
| B <sub>1</sub> |
| B <sub>2</sub> |
| B <sub>3</sub> |
| B <sub>4</sub> |
| C              |
| D <sub>1</sub> |
| D <sub>2</sub> |

\*

\* 層厚が音波探査記録の分解能(約10m)より薄いために、明瞭でないA層基底面

←N

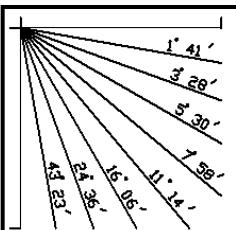
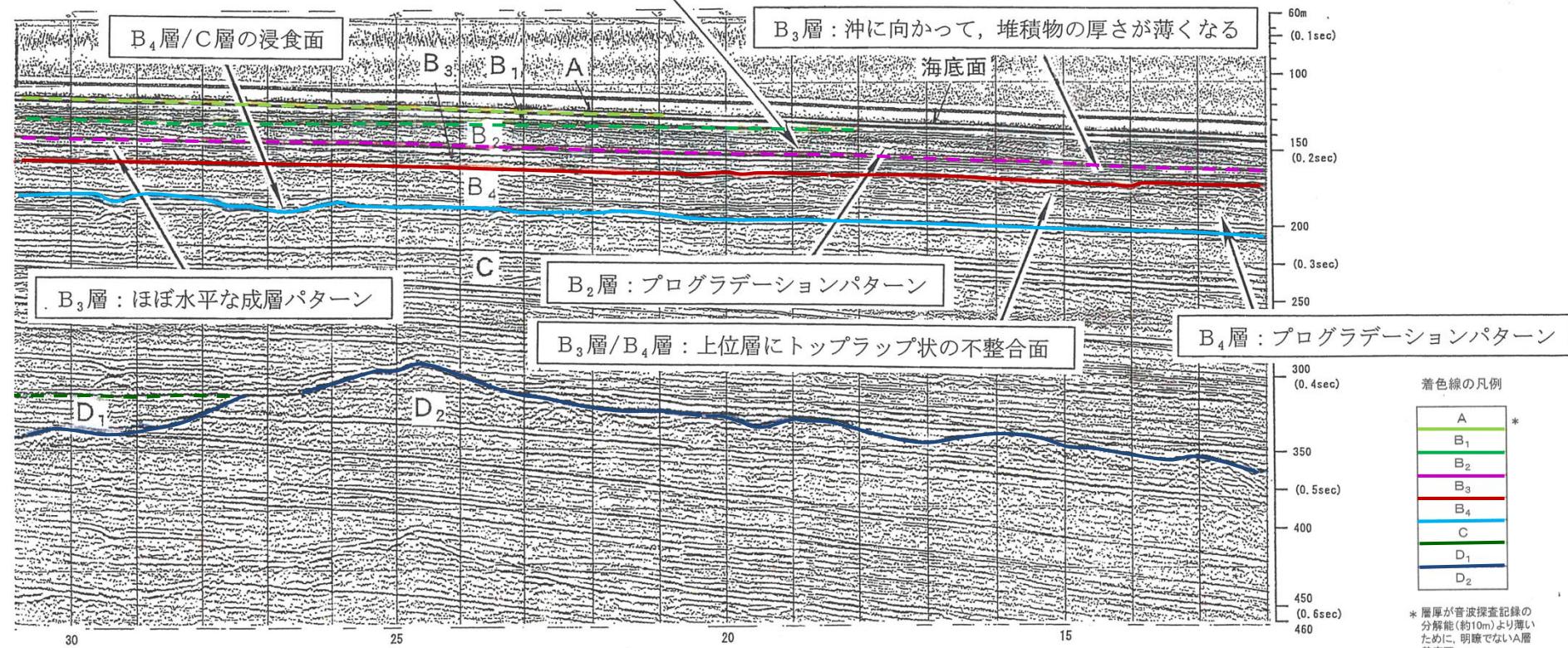
W8  
[ウォーターガン]  
S→

- ・B<sub>1</sub>層中には、プログラデーションパターンが認められ、B<sub>2</sub>層をダウンラップ上に不整合に覆う。
- ・B<sub>1</sub>層と下位層との境界面は、B<sub>2</sub>層上面に顯著な浸食面として認められる。

B<sub>2</sub>層, B<sub>3</sub>層, B<sub>4</sub>層及びC層の不整合面(音波探査記録例)W101-2  
[ウォーターガン]

←SW

NE→

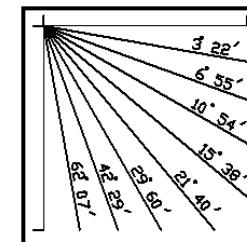
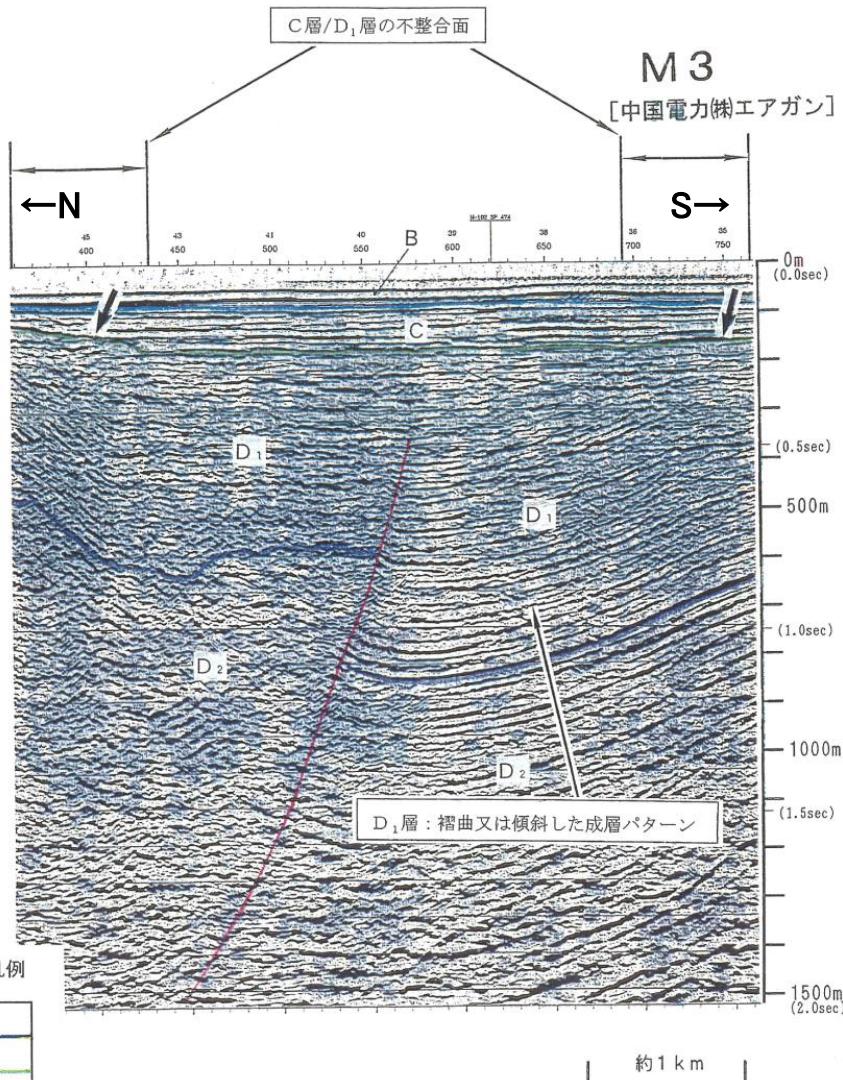
B<sub>2</sub>層/B<sub>3</sub>層：下位層にダウンラップ状の不整合面

約500m

V.E. ≈ 6

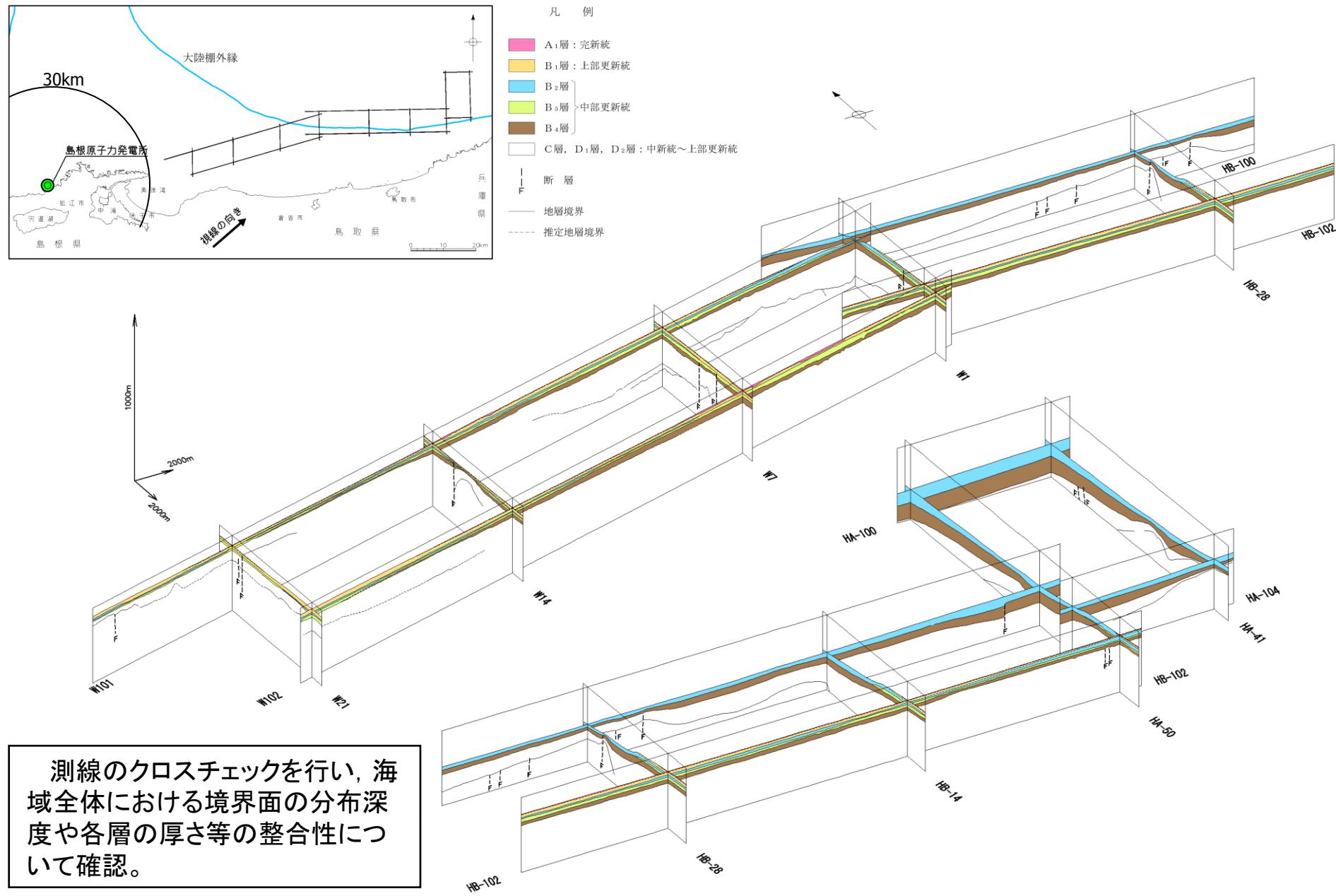
- ・B<sub>2</sub>層とB<sub>3</sub>層の境界面は、B<sub>2</sub>層内に認められるプログラデーションパターンが下位層のB<sub>3</sub>層をダウンラップ状に覆う面として認められる。
- ・B<sub>3</sub>層とB<sub>4</sub>層の境界面は、B<sub>4</sub>層内に認められるプログラデーションパターンが上位層に対してトップラップ状に接している不整合面として認められる。
- ・B<sub>4</sub>層はC層を不整合に覆う。

## C層とD層の不整合面(音波探査記録例)

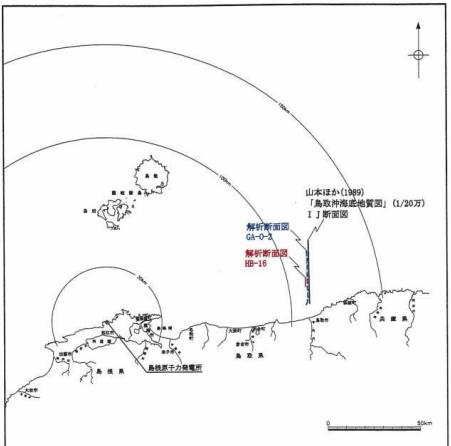


C層はD<sub>1</sub>層を不整合に覆う。

# 鳥取沖海域のパネルダイヤグラム



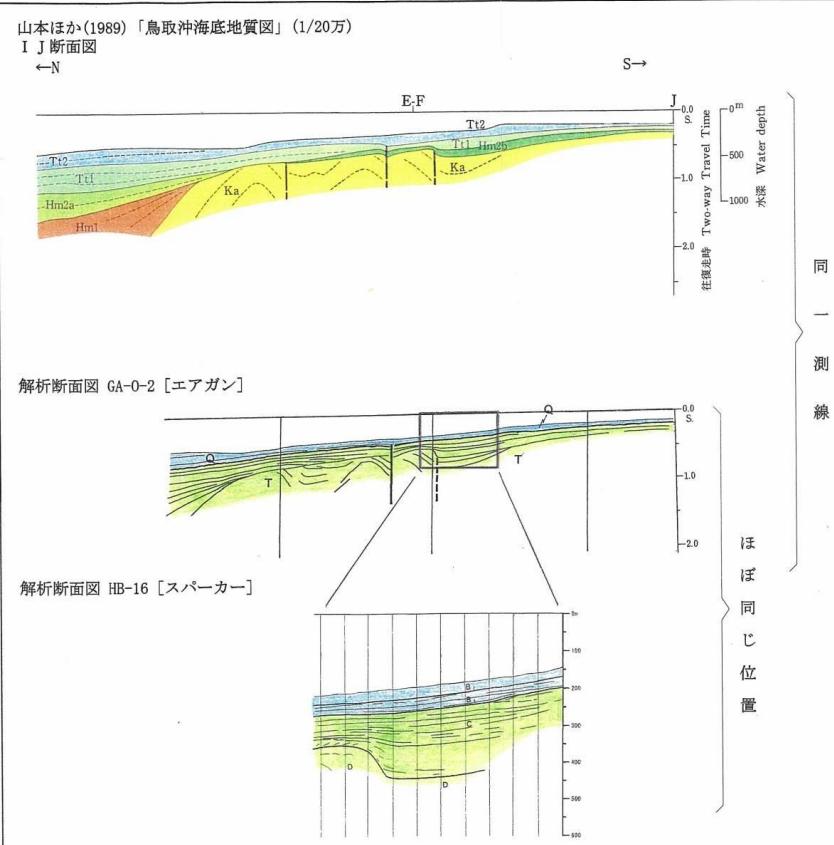
## 各地層の層序対比・年代対比



| 調査区域<br>文献名<br>地質時代 | 陸域の地質                            |                | 海 域             |                 |                 |                | 調査区域<br>文献名<br>地質時代 |
|---------------------|----------------------------------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|---------------------|
|                     | 敷地周辺                             | 敷地周辺           | 敷地前面            | 敷地周辺            | 鳥取沖*            | 鳥取沖            |                     |
| 完新世                 | 冲積低地堆植物<br>砂丘堆植物                 |                | A               |                 | A               |                | 山本ほか(1989)*3        |
| 更新世<br>後期           | 段丘堆植物                            | B              | B <sub>1</sub>  | B <sub>1w</sub> | B <sub>x</sub>  | Q              | 玉木ほか<br>(1982)*2,*3 |
|                     |                                  | B <sub>2</sub> | B <sub>2w</sub> | B <sub>3w</sub> |                 |                |                     |
|                     |                                  | B <sub>4</sub> |                 |                 |                 |                |                     |
| 新鮮新世<br>中期          |                                  | C              |                 | C               | Tt <sub>2</sub> | Q <sub>1</sub> | 完新世                 |
|                     |                                  |                |                 |                 | B <sub>1</sub>  | Q <sub>2</sub> | 第<br>四<br>紀         |
|                     |                                  |                |                 |                 | B <sub>2</sub>  |                |                     |
| 中新世<br>前期           | 松江層<br>古江層<br>牛切層<br>成相等層<br>古油層 | T              |                 | Tt <sub>1</sub> | P               |                | 後<br>期              |
|                     |                                  | D              | D <sub>1</sub>  | D <sub>1</sub>  | M <sub>1</sub>  |                | 中<br>期              |
|                     |                                  | D <sub>2</sub> |                 | D <sub>2</sub>  | M <sub>2</sub>  |                | 前<br>期              |
| 火山岩・貫入岩             | 大根島玄武岩<br>和久瀬山安山岩<br>第三紀貫入岩類     | V              |                 |                 |                 |                | 新<br>第<br>三<br>紀    |

\*1: 兵庫県浜坂町沖から鳥取県名和町沖にかけての海城を示す。  
\*2: 玉木ほか(1982)の地質時代は、山本ほか(1989)を参照した。  
\*3: 整合・不整合関係は記載されていない。

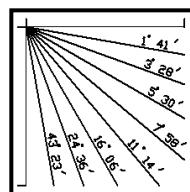
———: 整合  
~~~~~: 不整合



- 当社の再解析結果と他機関(地質調査所)の地質断面図を比較すると、当社の層序(Q層／T層)は山本ほか(1989)の各地層(Tt<sub>2</sub>層／Tt<sub>1</sub>層, Hm<sub>2a,b</sub>, Hm<sub>1</sub>, 香住沖層, 音響基盤)に対比される。
- また、反射パターンの特徴、認定された不整合面をもとに検討を行った結果、敷地前面海域と同様に、Q層をA層及びB層に、T層をC層及びD層に区分した。
- 年代対比の結果、A層は完新統、B層は中部～上部更新統、C層は鮮新統～下部更新統、D層は中新統と判断される。

## 鳥取沖海域のB層の年代対比

- ・B<sub>1</sub>層は、A層に不整合に覆われること、プログラデーションパターンが認められ、B<sub>2</sub>層を不整合に覆うことから、MIS2～MIS5に対応する上部更新統と判断。
- ・B<sub>2</sub>層は、B<sub>1</sub>層に不整合に覆われること、プログラデーションパターンが認められ、B<sub>3</sub>層を不整合に覆うことから、MIS6に対応する中部更新統と判断。
- ・B<sub>3</sub>層及びB<sub>4</sub>層は、B<sub>2</sub>層の下位に位置し、B層が中部～上部更新統であることから、B<sub>2</sub>層以前の中部更新統と判断。



V.E. = 6

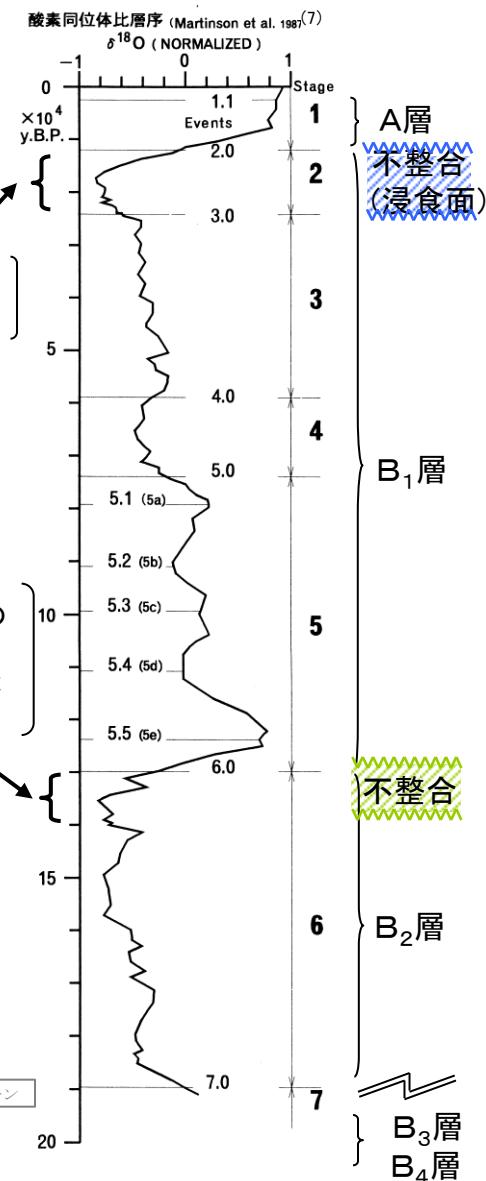
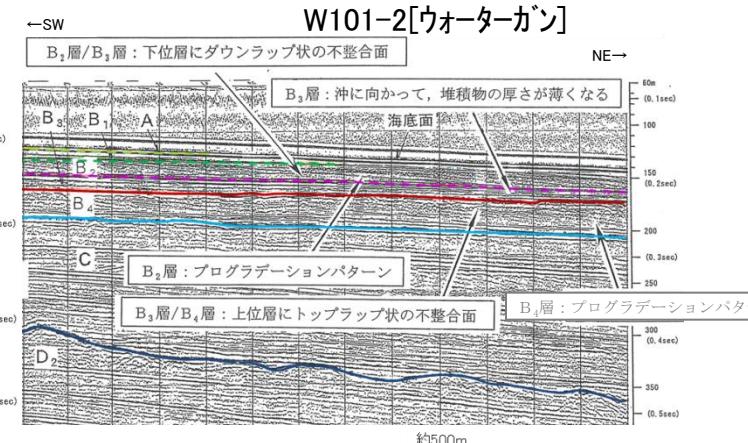
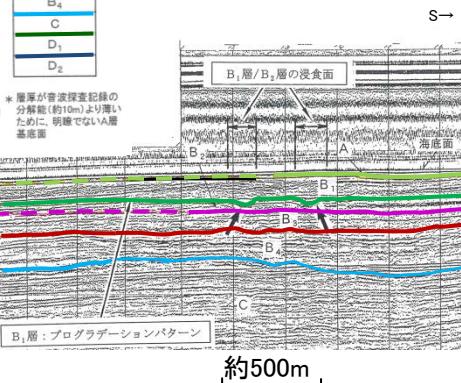
←N

着色線の凡例

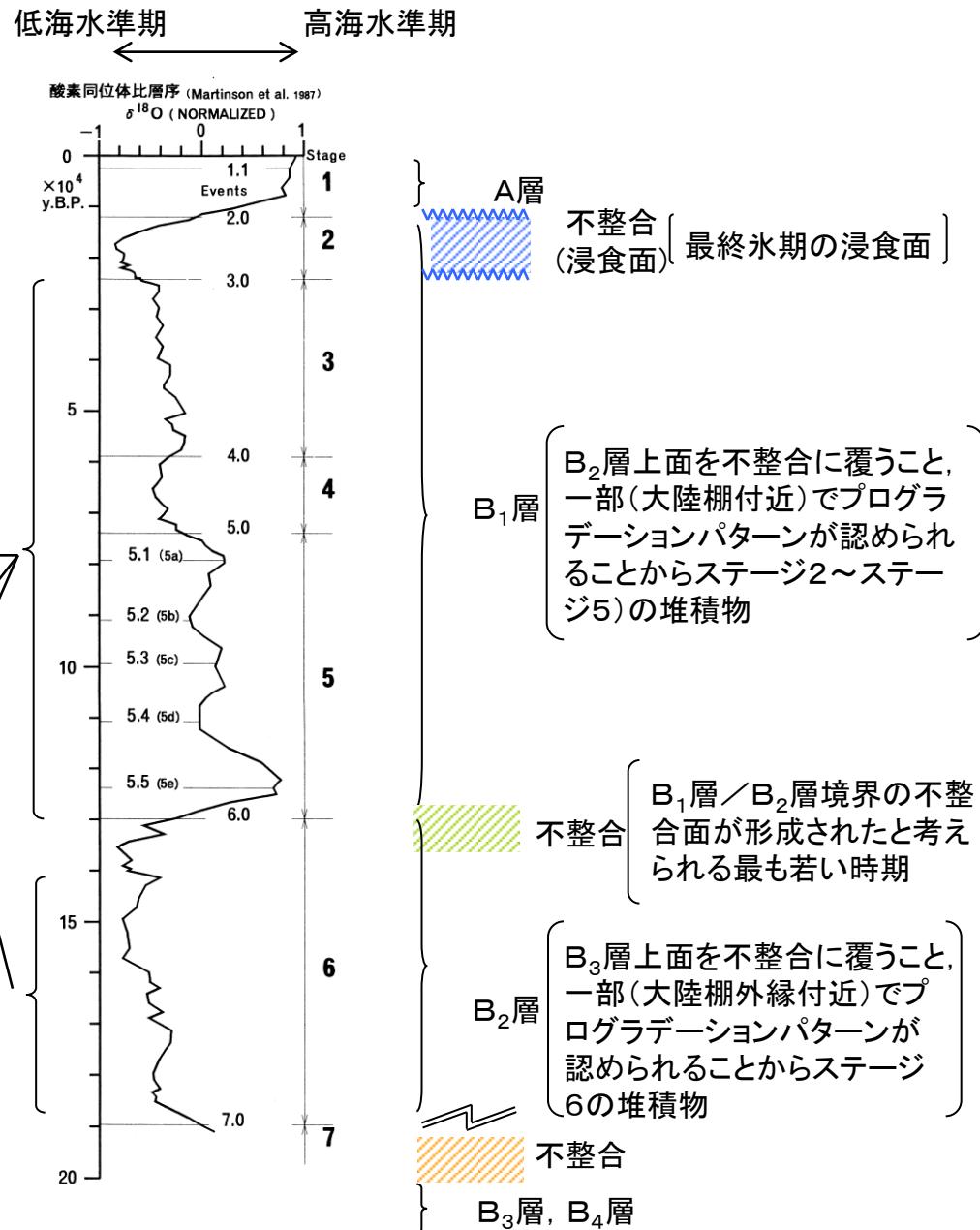
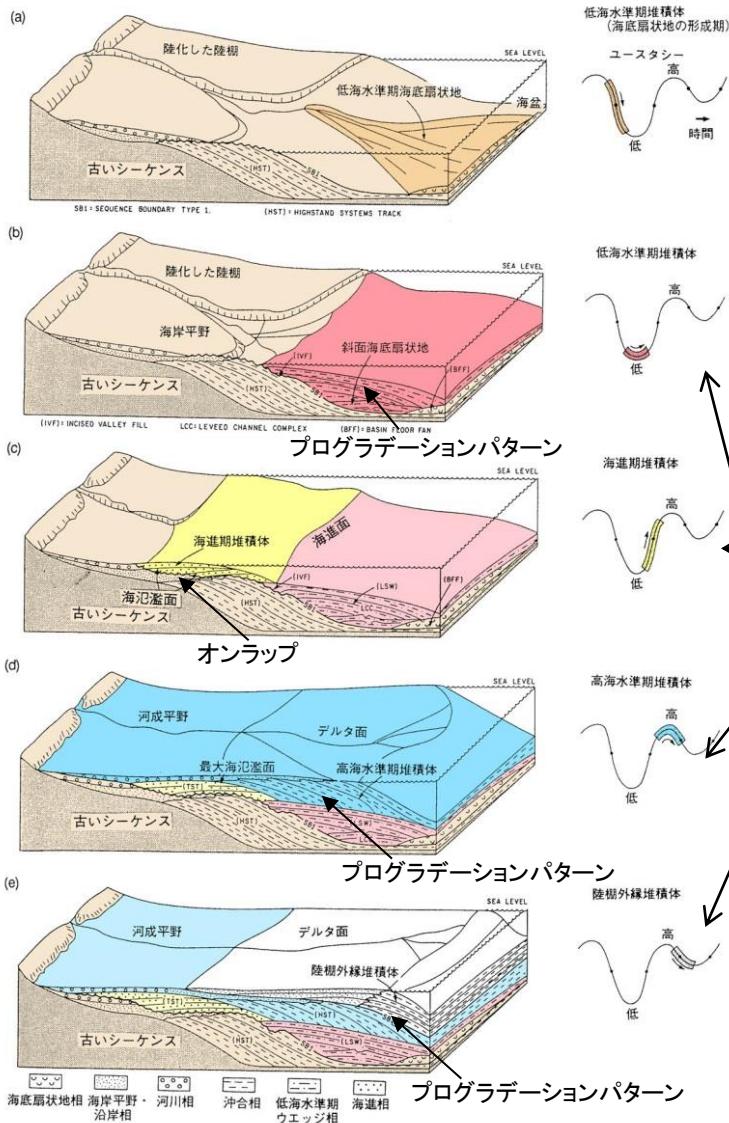
|                |
|----------------|
| A              |
| B <sub>1</sub> |
| B <sub>2</sub> |
| B <sub>3</sub> |
| B <sub>4</sub> |
| C              |
| D <sub>1</sub> |
| D <sub>2</sub> |

| 地質時代 | 地層名 | 地形学的位置         | 反射パターンの特徴   |
|------|-----|----------------|-------------|
| 第四紀  | 完新世 | A層             | 大陸棚         |
|      | 後期  | B <sub>1</sub> | 大陸棚         |
|      |     | B <sub>2</sub> | 大陸棚～大陸棚縁辺台地 |
|      |     | B <sub>3</sub> | 大陸棚         |
|      | 中期  | B <sub>4</sub> | 大陸棚～大陸棚縁辺台地 |

W8[ウォーターガン]



## 参考: 鳥取沖海域のB層の年代対比



第6図. 低海水準期 (a, b), 海進期 (c), 高海水準期 (d), 陸棚外縁堆積体 (e) の特徴およびユースターのどの段階で形成されるかを簡単に図示したもの (Haq, 1991).

[酒井ほか(1995)から引用・加筆]

# 5. 敷地周辺海域の地質層序 (1) 鳥取沖 採泥試料位置(鳥取沖)

第95回審査会合  
資料3-2 P124 再掲

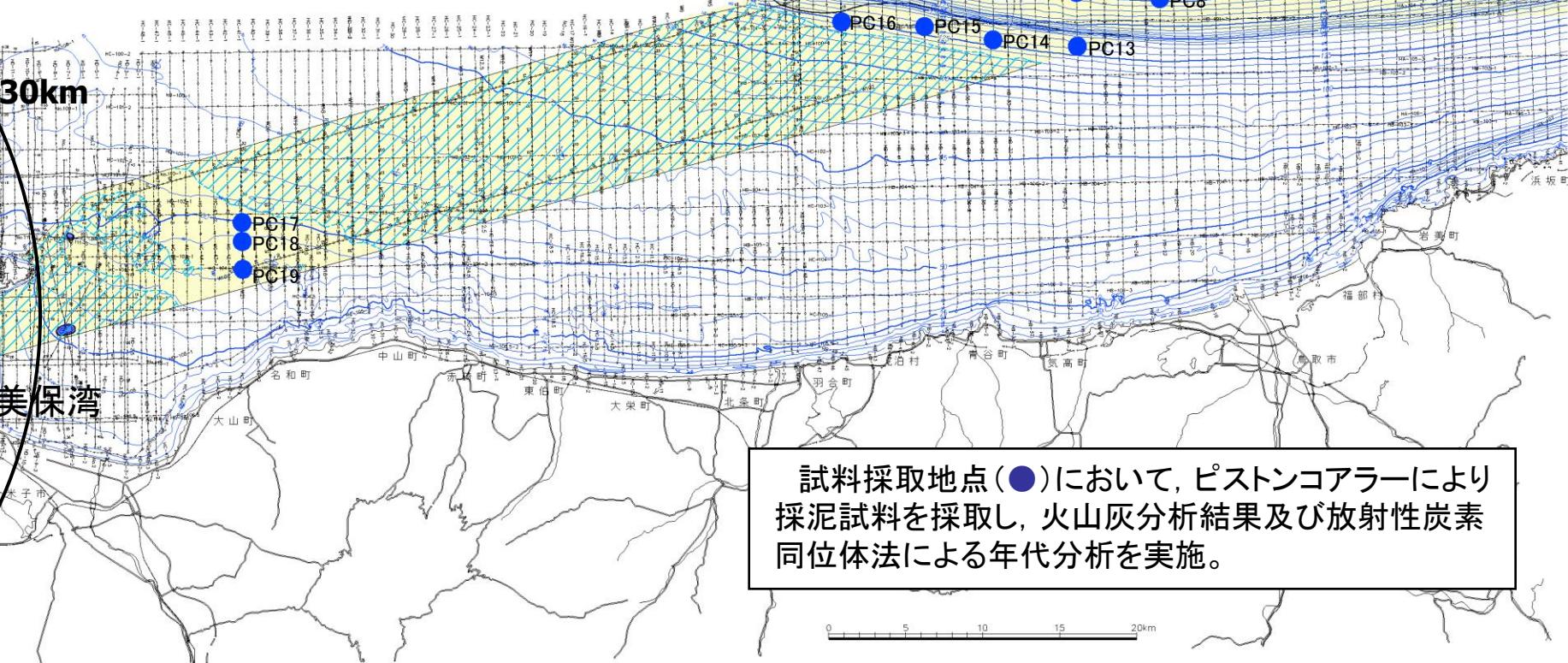
167

## 凡 例

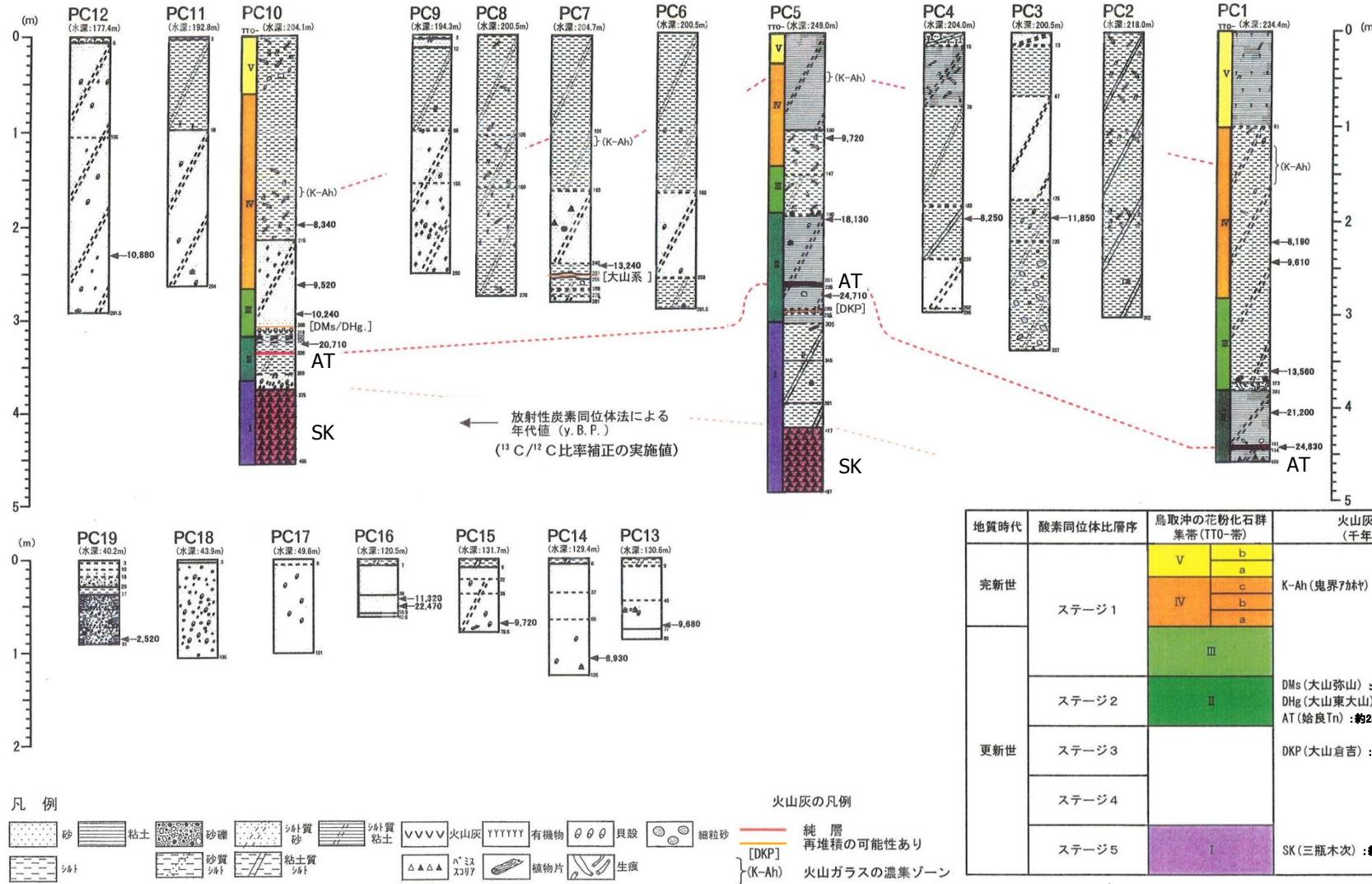
- 試料採取地点 (中国電力㈱, 2000)
- No.4-2 音波探査測線 (中国電力㈱, 1981)  
(スパーカー, シングルチャンネル)
- W1 音波探査測線 (中国電力㈱, 1999)  
(ウォーターガン, シングルチャンネル)
- HB-20 音波探査測線 (海上保安庁, 1990, 1991, 1992)  
(スパーカー及びウォーターガン, シングルチャンネル)

海底地形は、海上保安庁水路部 1/5万及び中国電力㈱調査結果を編集した。  
A層の分布は、海上保安庁水路部 1/5万を編集した。  
地層の分布範囲（着色部分）は、解析範囲のみ示した。また、音波探査記録で識別されない程度の薄い地層は示していない。

- A 層：完新統
- B 層：中部～上部更新統
- D<sub>2</sub> 層：中新統
- 等深線 (m)

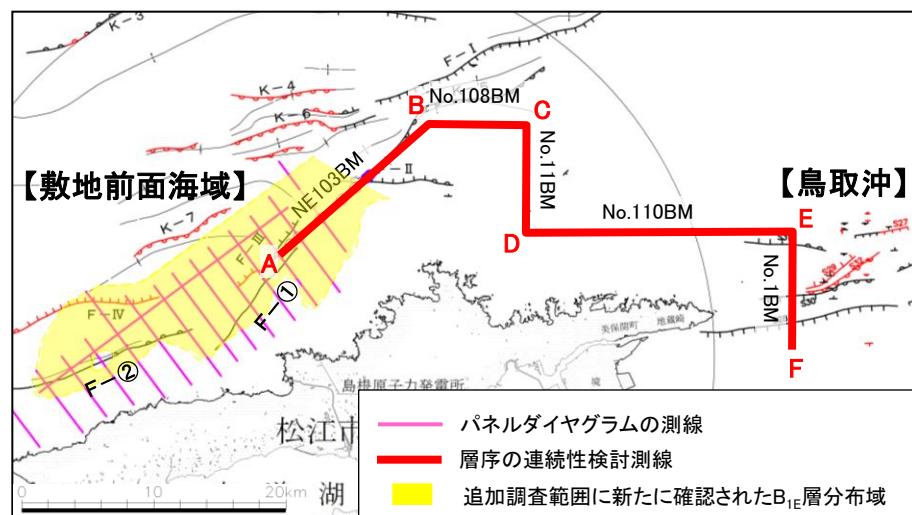
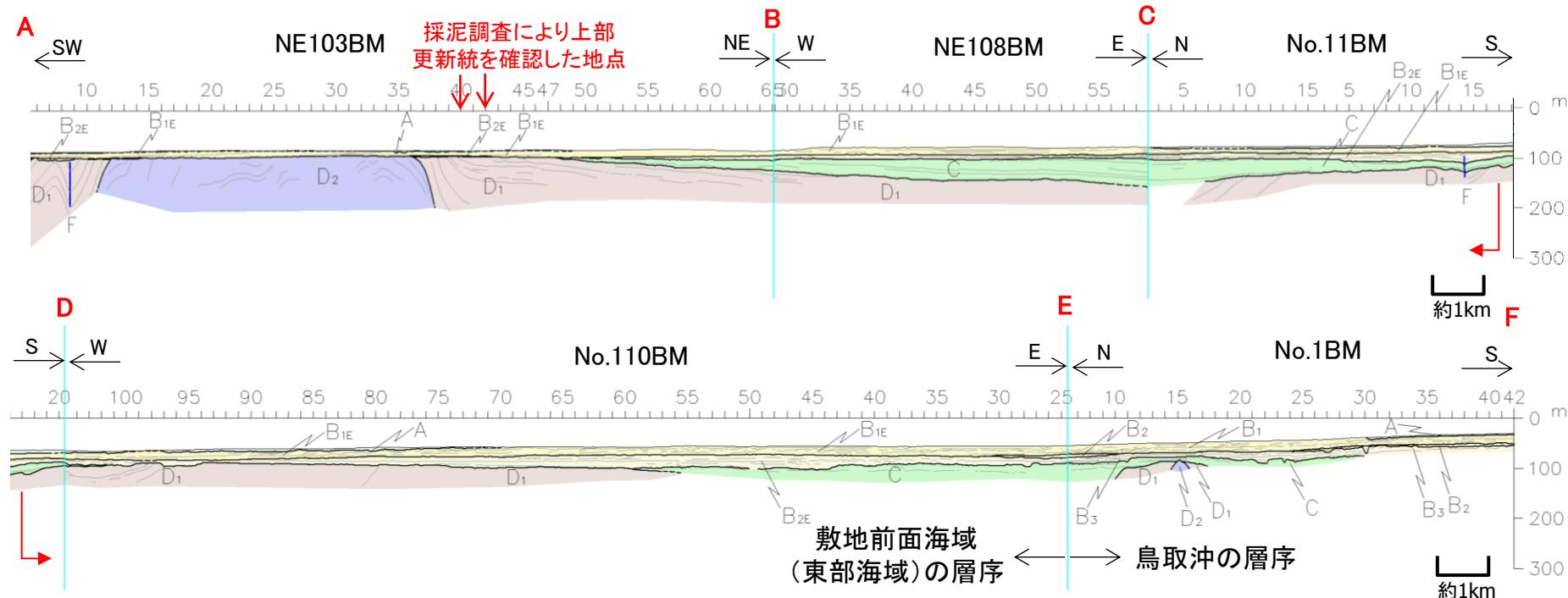


## 採泥試料分析結果(鳥取沖)



採泥試料(●)の火山灰分析結果より、B層からAT(姶良Tn火山灰: 約2.8-3.0万年前), SK(三瓶木次軽石: 約10.5万年前)が得られている。

## 層序の連続性(敷地前面海域～鳥取沖)



| 第四紀     | 完新世 |     | A                                |  |
|---------|-----|-----|----------------------------------|--|
|         | 更新世 | 後期  |                                  |  |
|         |     | 中期  |                                  |  |
|         |     | 前期  |                                  |  |
| 新第三紀    |     | 鮮新世 | C                                |  |
| 中新世     |     | D   | D <sub>1</sub><br>D <sub>2</sub> |  |
| 火山岩・貫入岩 |     | V   |                                  |  |

| 第四紀     | 完新世 |     | A                                |  |
|---------|-----|-----|----------------------------------|--|
|         | 更新世 | 後期  |                                  |  |
|         |     | 中期  |                                  |  |
|         |     | 前期  |                                  |  |
| 新第三紀    |     | 鮮新世 | C                                |  |
| 中新世     |     | D   | D <sub>1</sub><br>D <sub>2</sub> |  |
| 火山岩・貫入岩 |     | V   |                                  |  |

・敷地前面海域(東部海域)から鳥取沖まで連続的に層序を確認した結果、採泥調査により確認したB<sub>1E</sub>層を鳥取沖まで連続して追跡でき、他の地層も矛盾なく分布することを確認した。

## まとめ

| 調査区域    |      | 陸域の地質               | 海 域                              |        |       |                |       |   |                          |  |                          |                          |                          |      | 調査区域 |         |      |  |
|---------|------|---------------------|----------------------------------|--------|-------|----------------|-------|---|--------------------------|--|--------------------------|--------------------------|--------------------------|------|------|---------|------|--|
| 文献名     | 地質時代 | 敷地周辺                | 中海                               | 宍道湖    | 古浦沖   | 敷地前面           |       | 敷地周辺  | 大田沖 <sup>*1</sup>        | 鳥取沖 <sup>*2</sup>  | 鳥取沖                      | 隱岐海峡                     | 大社                       | 日御碕  | 美保関  | 文献名     | 地質時代 |  |
|         |      | 中国電力㈱               | 中国電力㈱                            | 中国電力㈱  | 中国電力㈱ | 中国電力㈱          | 中国電力㈱ | 中国電力㈱   | 山本ほか(1989) <sup>*4</sup> | 玉木ほか(1982) <sup>*3,*4</sup>  | 水路部(1993a) <sup>*4</sup> | 水路部(1991b) <sup>*4</sup> | 水路部(1992a) <sup>*4</sup> |      |      |         |      |  |
| 第四紀     | 完新世  |                     | 沖積低地堆積物<br>砂丘堆積物                 | I_N    | I_S   | I_K<br>II_K    | A     |   | A                        | A  | Q <sub>1</sub>           | I_T                      | I_H                      | I_M  | 完新世  |         |      |  |
|         | 更新世  | 後期                  |                                  | II_N   | II_S  | III_K          | B     | B <sub>1E</sub><br>B <sub>1W</sub><br>B <sub>2E</sub><br>B <sub>2W</sub><br>B <sub>3W</sub> | B <sub>x</sub>           | B <sub>1</sub><br>B <sub>2</sub><br>B <sub>3</sub><br>B <sub>4</sub> | Tt <sub>2</sub>          | II_T, III_T, IV_T        | II_H, III_H, IV_H        | II_M | 後期   | 更新世     |      |  |
|         |      | 中期                  |                                  |        |       |                | C     |   | C                        | Tt <sub>1</sub>  | P                        | V_T, VI_T                | V_H, VI_H                |      | 中期   |         |      |  |
|         | 前期   |                     |                                  |        |       |                | D     | D <sub>1</sub>  | D                        | Hm <sub>2a,b</sub><br>Hm <sub>1</sub>                                | M <sub>1</sub>           | IX_T                     | IX_H                     | IV_M | 前期   |         |      |  |
| 新第三紀    | 鮮新世  |                     | 松江層<br>古江層<br>牛切層<br>成相寺層<br>古浦層 | III_N  | III_S |                |       |   | D <sub>1</sub>           | D <sub>1</sub>   | 香住沖層(Ka)                 |                          | X_T                      | X_H  | V_M  | 鮮新世     |      |  |
|         | 中新世  |                     |                                  | IV_N   | IV_S  |                | D     | D <sub>2</sub>  | D <sub>2</sub>           | D <sub>2</sub>   | 音響基盤(At)                 | M <sub>2</sub>           |                          |      |      | 中新世     |      |  |
|         |      |                     |                                  | V_N    | V_S   |                |       |   |                          |  |                          |                          |                          |      |      |         |      |  |
|         |      |                     |                                  | VI_N   | VI_S  | D <sub>2</sub> |       |   |                          |  |                          |                          |                          |      |      |         |      |  |
|         |      |                     |                                  |        |       |                | V     |   |                          |  |                          |                          |                          |      |      |         |      |  |
| 火山岩・貫入岩 |      | 大根島玄武岩              | VII_N                            |        |       |                |       |   |                          |  |                          |                          |                          |      |      | 火山岩・貫入岩 |      |  |
|         |      | 和久羅山安山岩<br>新第三紀貫入岩類 | VIII_N                           | VIII_S |       |                |       |   |                          |  |                          |                          |                          |      |      |         |      |  |

\*1:島根県中部沖の海域を示す。

\*2:兵庫県新温泉町沖から島根県松江市美保関町東方沖にかけての海域を示す。

\*3:玉木ほか(1982)の地質時代は、山本ほか(1989)を参照した。

\*4:整合・不整合関係は記載されていない。

—— : 整合

~~~~~ : 不整合

鳥取沖の地層は、上位からA層、B層、C層ならびにD層(D<sub>1</sub>層及びD<sub>2</sub>層)に区分される。また、B層は層内の不整合面等によりB<sub>1</sub>層、B<sub>2</sub>層、B<sub>3</sub>層及びB<sub>4</sub>層に区分される。A層は完新統に、B層は中部～上部更新統に、C層は鮮新統～下部更新統に、D層は中新統と判断される。

## 1. 敷地周辺海域の地質・地質構造

### 2. 敷地前面海域の断層活動性評価

(1) F-III断層, F-IV断層及びF-V断層

(2) FK-1断層

(3) K-4撓曲, K-6撓曲及びK-7撓曲

(4) F-I断層

(5) F-II断層

(6) F-VI断層

(7) K-5撓曲

(8) F-①断層及びF-②断層

### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価

(1) 鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層

(2) 大田沖断層

(3) F57断層

(4) K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層

(5) 隠岐北西方の断層

(6) 見島付近の断層

(7) 見島北方沖の断層

(8) 地蔵崎北東沖の断層

### 4. 敷地前面海域の地質層序

### 5. 敷地周辺海域の地質層序

(1) 鳥取沖

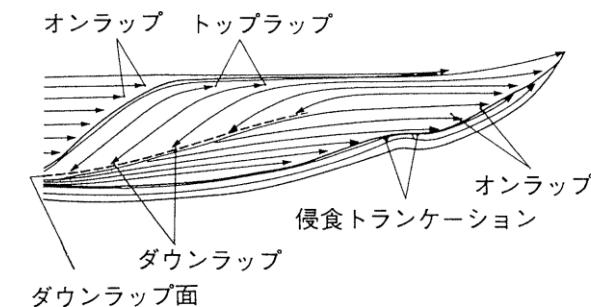
(2) 大田沖

(3) その他海域

# 海底地質(層序区分)

## 大田沖の層序区分

| 地層名              | 地質時代           | 地層境界及び堆積構造                                             | 反射パターンの特徴                         |
|------------------|----------------|--------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| A層               | 完新世            | 下位層上面の浸食面を不整合に覆う。                                      | 海底面にはほぼ平行な成層パターン、一部で散乱パターンを示す。    |
| B <sub>x</sub> 層 | 中期更新世～後期更新世    | 下位層上面を不整合に覆う。                                          | 連續性に乏しい波状パターンまたは連續性の良い成層パターンを示す。  |
| C層               | 鮮新世～前期更新世      | 下位層上面を不整合に覆い、下位層上面が起伏面の場合は、部分的にオンラップまたはダウンラップ状の不整合で覆う。 | 緩やかに褶曲した成層パターンまたは連續性の良い成層パターンを示す。 |
| D層               | D <sub>1</sub> | 中新世                                                    | 起伏する下位層上面をオンラップ状の不整合で覆う。          |
|                  | D <sub>2</sub> | 中新世                                                    | 音響基盤                              |
|                  |                |                                                        | 無層理パターンまたは連續性に乏しい成層パターンを示す。       |



第1図. 震探断面で見られる特徴的な反射面の末端部のパターン (Mitchum et al., 1977)

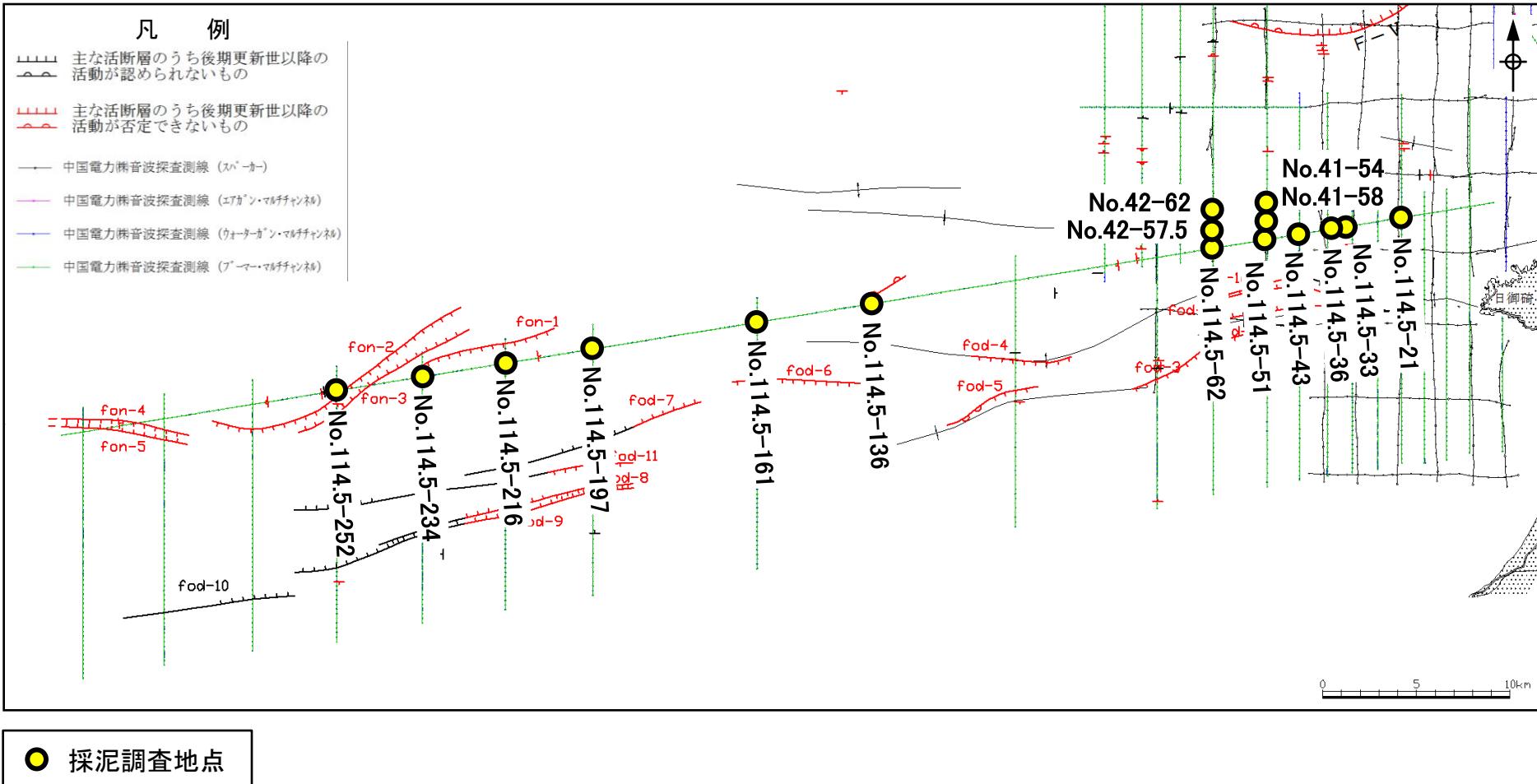
[酒井ほか(1995)から引用]

- 海上音波探査で認められる反射面の連續性、下位層との不整合関係、堆積構造及び反射パターンの特徴により、上位からA層、B<sub>x</sub>層、C層及びD層の堆積物または堆積岩に区分している。
- D層については、層内の不整合面により、上位からD<sub>1</sub>層、D<sub>2</sub>層に細区分した。

# 5. 敷地周辺海域の地質層序 (2) 大田沖 採泥試料位置(大田沖)

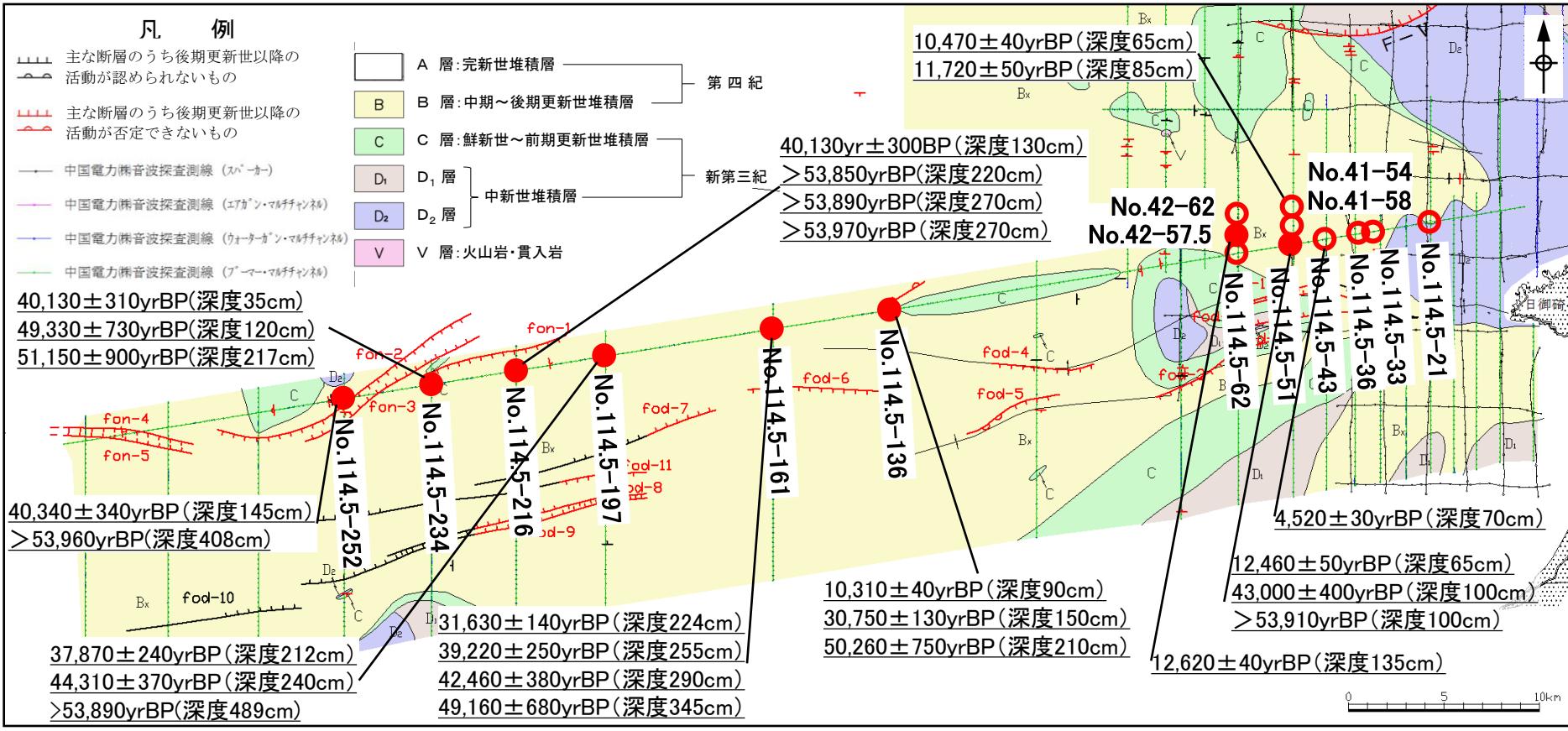
第226回審査会合  
資料3 P204 加筆・修正

173



・大田沖断層周辺海域の詳細な地質の年代区分を行うことを目的に柱状採泥調査を実施した。

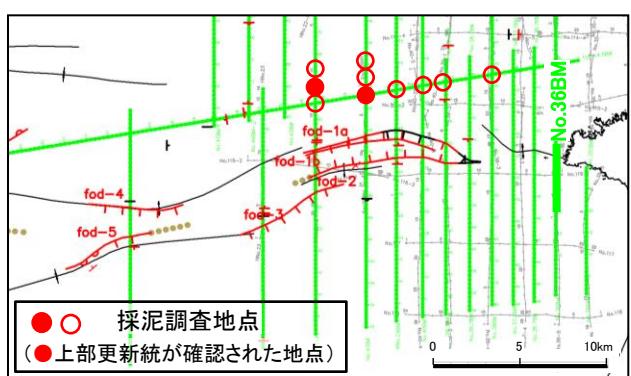
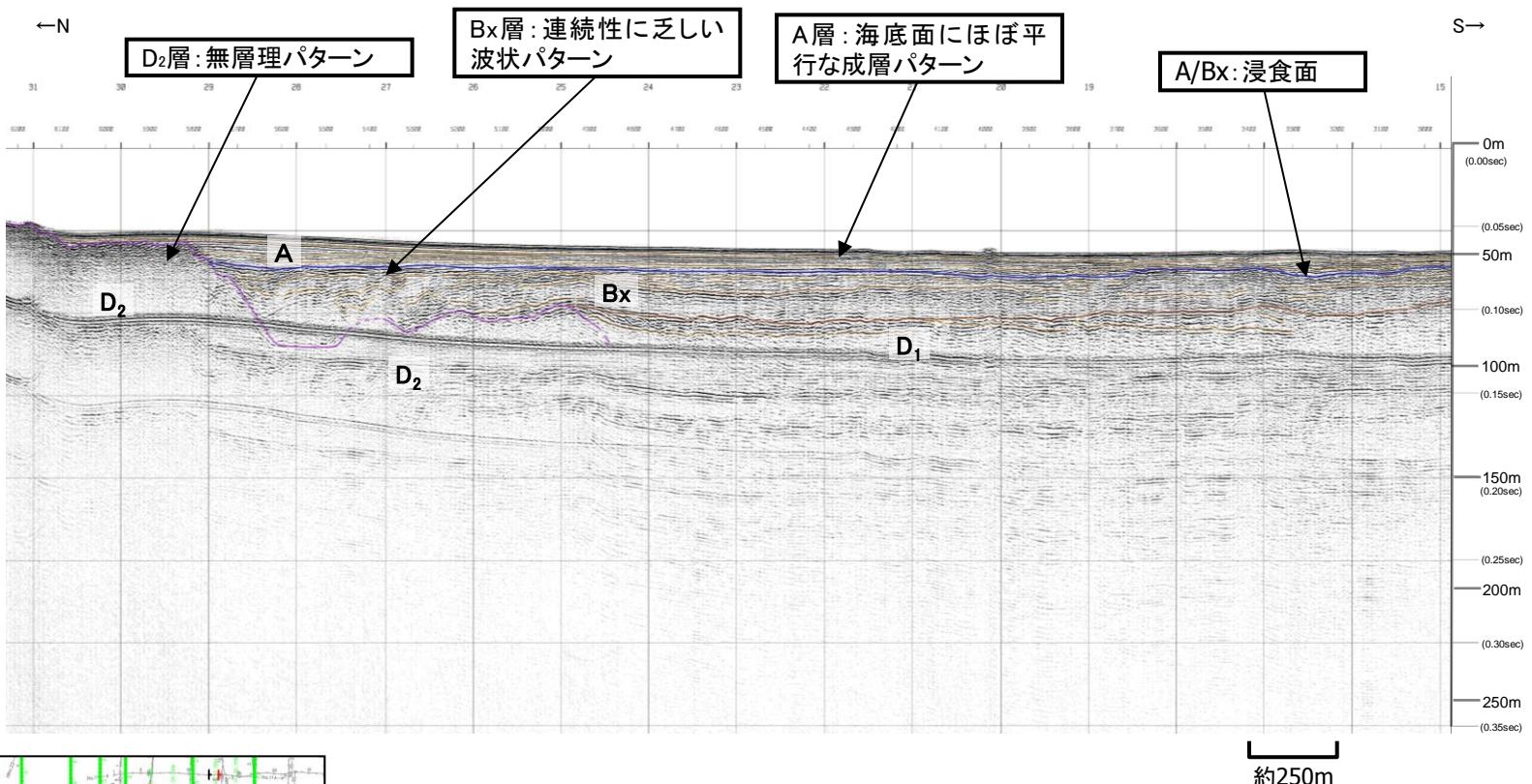
## 採泥試料分析結果(大田沖)



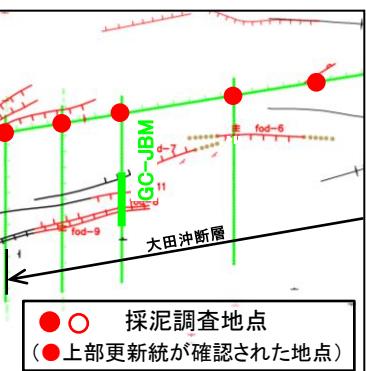
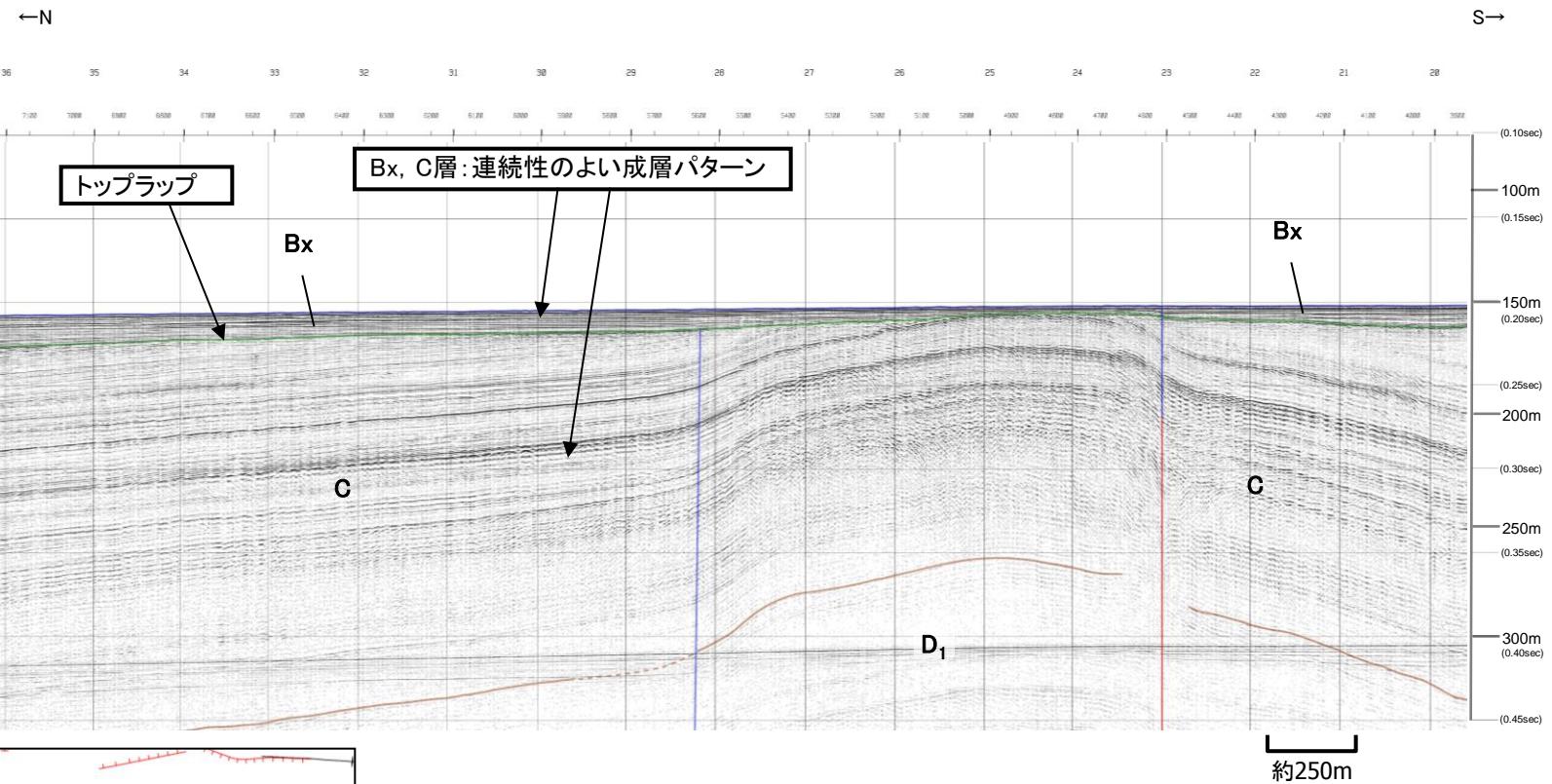
※地質図は採泥調査の結果を反映

柱状採泥調査の結果、放射性炭素同位体法( $C^{14}$ )により上部更新統が複数の地点で認められたことから、本海域にBx層(中部～上部更新統)が分布していることが確認された。

No.36BM



GC-JBM

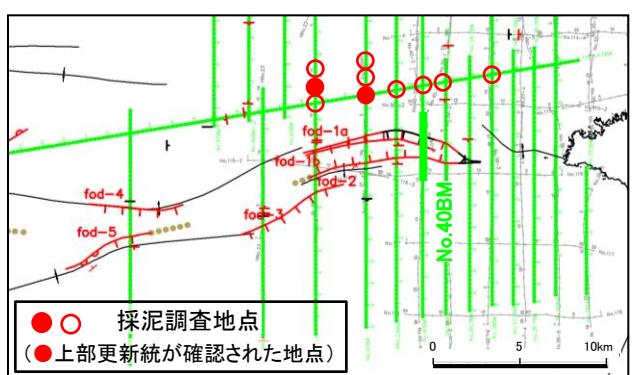
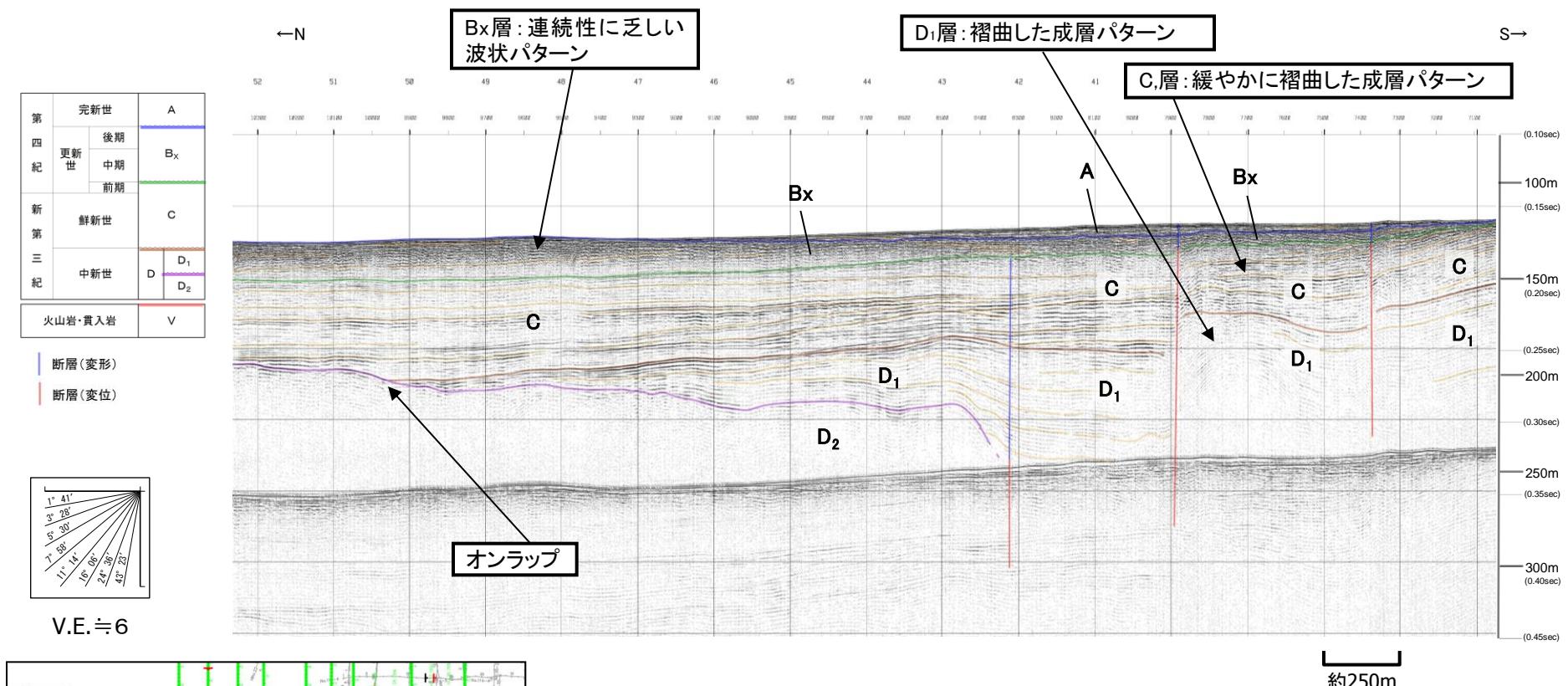


5. 敷地周辺海域の地質層序 (2) 大田沖  
音波探査記録例: その3

第226回審査会合  
資料3 P221 再掲

177

No.40BM

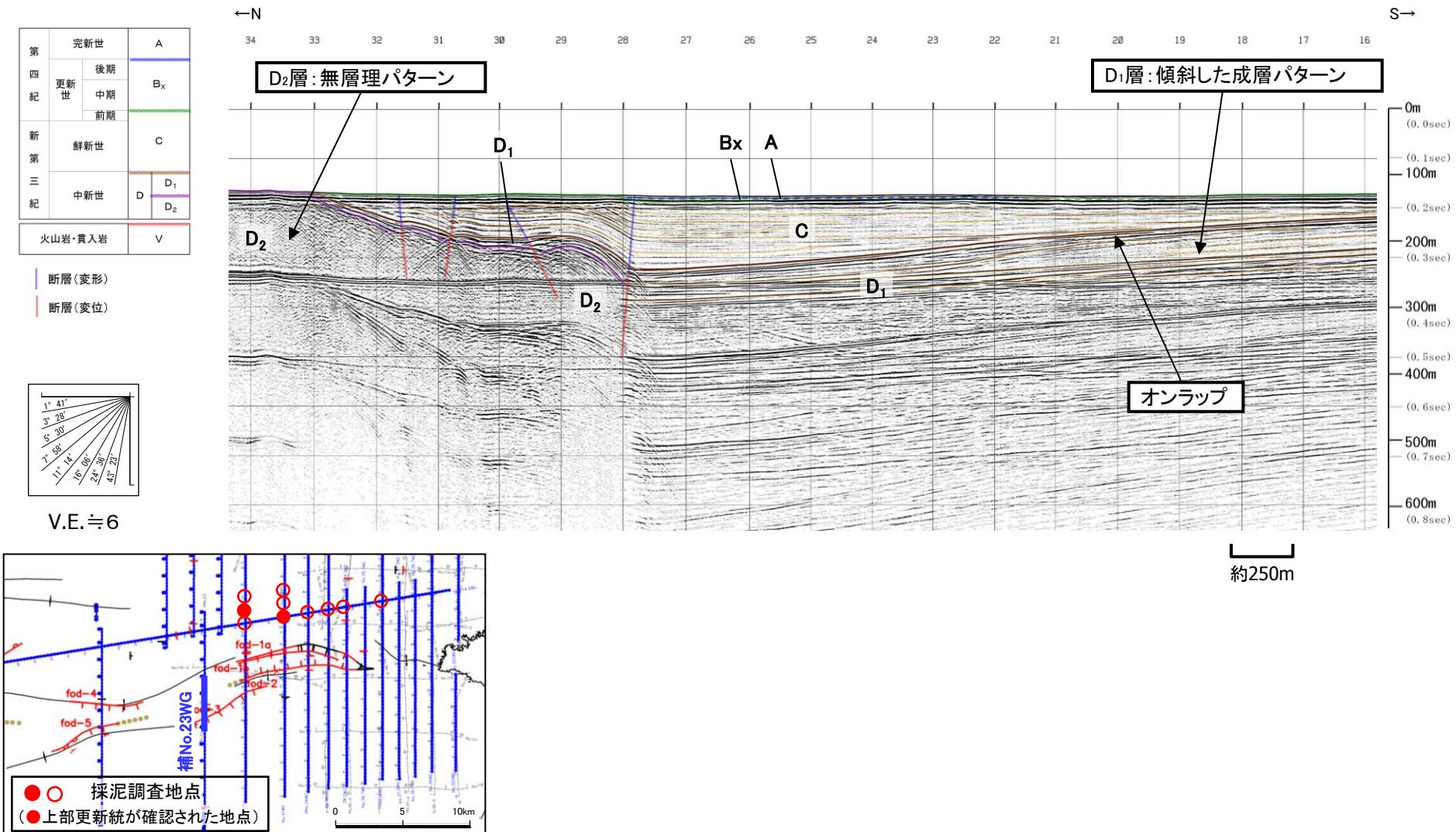


5. 敷地周辺海域の地質層序 (2) 大田沖  
音波探査記録例: その4

第226回審査会合  
資料3 P222 再掲

178

補No.23WG



## 5. 敷地周辺海域の地質層序 (2) 大田沖

## まとめ

| 調査区域<br>文献名<br>地質時代 |              | 海 域                 |                  |        |                                  |      |                |      |                |                                                                                                                |                |                   |                    |     | 調査区域<br>文献名<br>地質時代          |                                 |                                                                      |                 |                              |                   |                              |    |
|---------------------|--------------|---------------------|------------------|--------|----------------------------------|------|----------------|------|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|-------------------|--------------------|-----|------------------------------|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------|-----------------|------------------------------|-------------------|------------------------------|----|
|                     |              | 陸域の地質               |                  | 敷地周辺   |                                  | 敷地前面 |                | 敷地周辺 |                | 大田沖 <sup>*1</sup>                                                                                              |                | 鳥取沖 <sup>*2</sup> |                    | 鳥取沖 |                              | 隱岐海峡                            |                                                                      | 大社              |                              | 日御崎               |                              |    |
|                     |              | 敷地周辺                |                  | 中海     | 宍道湖                              | 古浦沖  | 敷地前面           |      | 中国電力㈱          |                                                                                                                | 中国電力㈱          |                   | 中国電力㈱              |     | 山本ほか<br>(1989) <sup>*4</sup> | 玉木ほか<br>(1982) <sup>*3,*4</sup> | 水路部<br>(1993a) <sup>*4</sup>                                         |                 | 水路部<br>(1991b) <sup>*4</sup> |                   | 水路部<br>(1992a) <sup>*4</sup> |    |
| 第<br>四<br>紀         | 完新世          |                     | 沖積低地堆積物<br>砂丘堆積物 |        | I_N                              | I_S  | I_K<br>II_K    | A    |                | A                                                                                                              | A              | Q <sub>1</sub>    |                    | I_T | I_H                          | I_M                             | 完新世                                                                  |                 | 第<br>四<br>紀                  |                   |                              |    |
|                     | 更新世          | 後期                  | 段丘堆積物            |        | II_N                             | II_S | III_K          | B    |                | B <sub>1E</sub><br>B <sub>1W</sub><br>B <sub>2E</sub><br>B <sub>2W</sub><br>B <sub>3E</sub><br>B <sub>3W</sub> | B <sub>x</sub> | Q                 |                    | B   | B <sub>x</sub>               | B                               | B <sub>1</sub><br>B <sub>2</sub><br>B <sub>3</sub><br>B <sub>4</sub> | Tt <sub>2</sub> | II_T, III_T, IV_T            | II_H, III_H, IV_H | II_M                         | 後期 |
|                     |              | 中期                  |                  |        |                                  |      |                |      |                |                                                                                                                |                |                   |                    |     |                              |                                 | V_T, VI_T                                                            | V_H, VI_H       |                              |                   |                              |    |
|                     |              | 前期                  |                  |        |                                  |      |                |      |                |                                                                                                                |                |                   |                    |     |                              |                                 | Tt <sub>1</sub>                                                      | P               | VII_T                        | VII_H             | 中期                           |    |
|                     | 新<br>第三<br>紀 |                     | 鮮新世              |        | 松江層<br>古江層<br>牛切層<br>成相寺層<br>古浦層 |      | C              |      | C              |                                                                                                                | C              |                   | Hm <sub>2a,b</sub> |     | VIII_T                       |                                 | VIII_H                                                               |                 | III_M                        | 更新世               |                              |    |
|                     |              |                     |                  |        | D                                |      | D <sub>1</sub> |      | T              |                                                                                                                | D              |                   | D <sub>1</sub>     |     | M <sub>1</sub>               |                                 | IX_T                                                                 |                 | IV_M                         | 新<br>第三<br>紀      |                              |    |
|                     |              |                     |                  |        |                                  |      | D <sub>2</sub> |      | D <sub>2</sub> |                                                                                                                | D <sub>2</sub> |                   | D <sub>2</sub>     |     | 音響基盤<br>(At)                 |                                 | M <sub>2</sub>                                                       |                 | X_T                          | X_H               | V_M                          |    |
|                     |              |                     |                  |        | VI_N                             |      | VI_S           |      | D <sub>2</sub> |                                                                                                                | D <sub>2</sub> |                   | D <sub>2</sub>     |     | 香住沖層<br>(Ka)                 |                                 | IX_H                                                                 |                 | IX_H                         |                   |                              |    |
|                     |              |                     |                  |        |                                  |      | D <sub>2</sub> |      | D <sub>2</sub> |                                                                                                                | D <sub>2</sub> |                   | D <sub>2</sub>     |     | 音響基盤<br>(At)                 |                                 | X_H                                                                  |                 | V_M                          |                   |                              |    |
| 火山岩・貫入岩             |              | 大根島玄武岩              |                  | VII_N  |                                  |      | V              |      |                |                                                                                                                |                |                   |                    |     |                              |                                 |                                                                      |                 | 火山岩・貫入岩                      |                   |                              |    |
|                     |              | 和久羅山安山岩<br>新第三紀貫入岩類 |                  | VIII_N | VIII_S                           |      |                |      |                |                                                                                                                |                |                   |                    |     |                              |                                 |                                                                      |                 |                              |                   |                              |    |

\*1:島根県中部沖の海域を示す。

\*2:兵庫県新温泉町沖から島根県松江市美保関町東方沖にかけての海域を示す。

\*3:玉木ほか(1982)の地質時代は、山本ほか(1989)を参照した。

\*4:整合・不整合関係は記載されていない。

—— : 整合

~~~~~ : 不整合

太田沖の地層は、上位からA層、B<sub>x</sub>層、C層ならびにD層(D<sub>1</sub>層及びD<sub>2</sub>層)に区分される。A層は完新統に、B<sub>x</sub>層は中部～上部更新統に、C層は鮮新統～下部更新統に、D層は中新統と判断される。

## 1. 敷地周辺海域の地質・地質構造

### 2. 敷地前面海域の断層活動性評価

- (1) F-III断層, F-IV断層及びF-V断層
- (2) FK-1断層
- (3) K-4撓曲, K-6撓曲及びK-7撓曲
- (4) F-I断層
- (5) F-II断層
- (6) F-VI断層
- (7) K-5撓曲
- (8) F-①断層及びF-②断層

### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価

- (1) 鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層
- (2) 大田沖断層
- (3) F57断層
- (4) K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層
- (5) 隠岐北西方の断層
- (6) 見島付近の断層
- (7) 見島北方沖の断層
- (8) 地蔵崎北東沖の断層

### 4. 敷地前面海域の地質層序

### 5. 敷地周辺海域の地質層序

- (1) 鳥取沖
- (2) 大田沖
- (3) その他海域

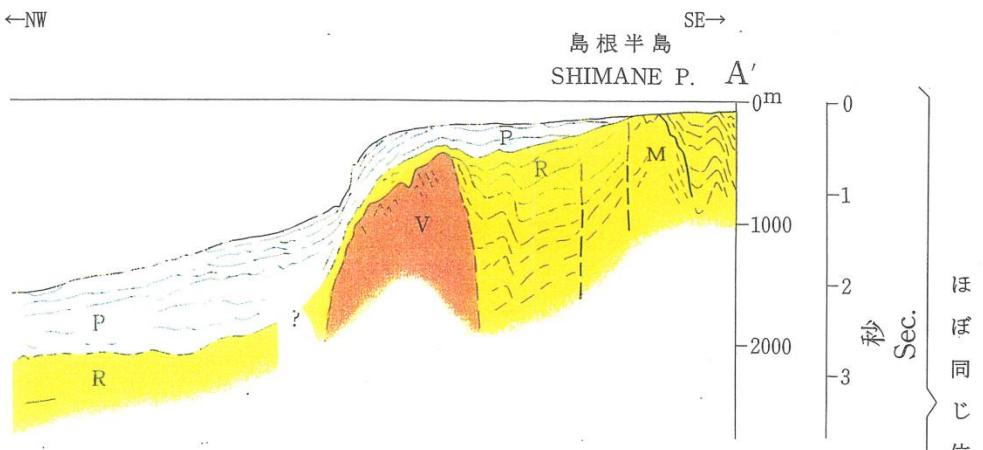
## 海底地質(既存文献との対比:その他海域①)



| 地質時代 | 両側区域   | 区域の地質                         | 南 島 域           |                 |          | 両側区域 |
|------|--------|-------------------------------|-----------------|-----------------|----------|------|
|      |        |                               | 敷地周辺            | 敷地周辺            | 申請者による解釈 |      |
| 第四紀  | 完新世    | 冲積低地堆積物<br>砂丘堆積物              | A               | A               | Q        |      |
|      | 後期     |                               | B <sub>1w</sub> | B <sub>1w</sub> |          |      |
|      | 更新世 中期 | 段丘堆積物                         | B <sub>2z</sub> | B <sub>2z</sub> |          |      |
|      | 前期     |                               | B <sub>2w</sub> | B <sub>2w</sub> |          |      |
| 新第三紀 | 鮮新世    |                               | C               | C               | T        |      |
|      | 中新世    | 松江層<br>古江層<br>成相層<br>古山層      | D <sub>1</sub>  | D <sub>1</sub>  | T        |      |
|      |        |                               | D <sub>2</sub>  | D <sub>2</sub>  |          |      |
| 火山岩類 |        | 大根島玄武岩<br>和久瀬山安山岩<br>新第三紀貫入岩類 | V               |                 |          |      |

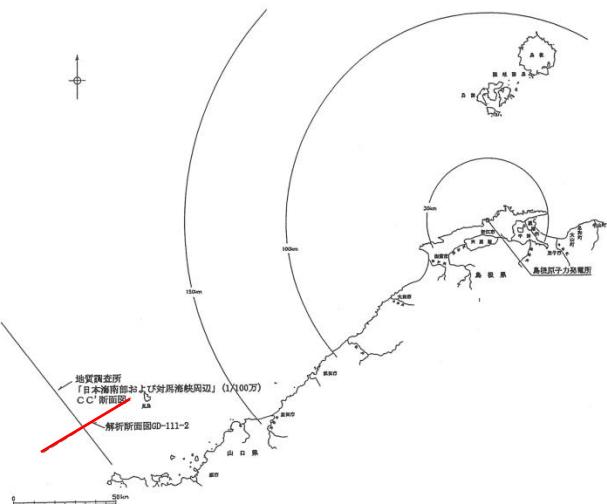
備考: 1):T層には火山岩類が含まれている可能性がある。2):整合・不整合関係は記載されていない。3):火山岩類については記載されていない。  
4):『島根半島底質地質図』の地質時代は、『島取沖海底地質図』を参照した。

地質調査所「日本海南部および対馬海峡周辺」(1/100万) A-A' 断面図



再解析結果と他機関(地質調査所)の地質断面図を比較すると、当社の層序区分のQ/T境界は地質調査所のP/R境界に対比され、Q層は中部更新統～完新統、T層は中新統～下部更新統と判断される。

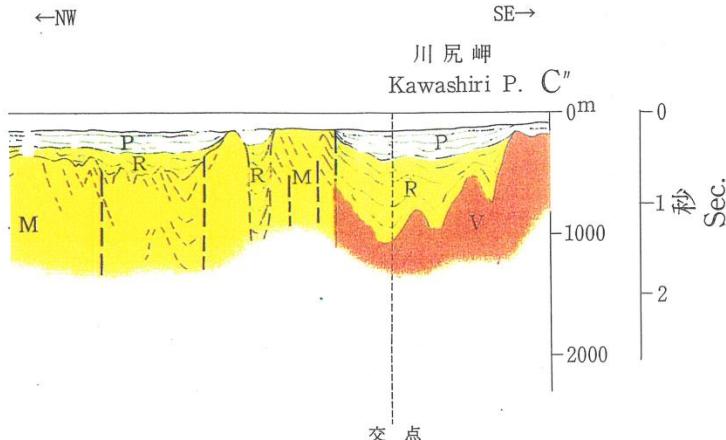
## 海底地質(既存文献との対比:その他海域②)



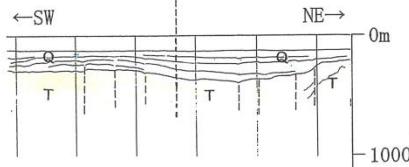
| 調査区域<br>資料名<br>地質時代                         | 陸域の地質                            |   | 海 域                                       |   |   |   |                        | 調査区域<br>資料名<br>地質時代             |
|---|----------------------------------|---|---|---|---|---|------------------------|---------------------------------|
|   | 敷地周辺                             | 敷地周辺  | 申請者による解釈                                  |   | 鳥取沖   | 隱岐海峡                                      | 日本海南部                  |                                 |
|   | 申請者<br>音波探査記録                    | 地質調査所<br>音波探査記録 <sup>1)</sup>   | 申請者及び<br>海上保安庁水路部<br>音波探査記録 <sup>2)</sup> | 鳥取沖<br>海底地質図<br>(1/20万) <sup>3), 4)</sup>                                     | 隱岐海峡<br>海底地質図<br>(1/20万) <sup>3), 0</sup>   | 日本海南部<br>海底地質図<br>(1/100万)                |                        |                                 |
| 第<br>四<br>紀<br>完新世<br>後期<br>更新世<br>中期<br>前期 | 沖積低地堆積物<br>砂丘堆積物                 | A<br><br>B <sub>1E</sub><br>B <sub>2E</sub><br>B <sub>3E</sub><br>B <sub>4W</sub> | Q   | A<br><br>B <sub>1</sub><br>B <sub>2</sub><br>B <sub>3</sub><br>B <sub>4</sub> | Q <sub>1</sub><br><br>T <sub>12</sub><br>Q <sub>2</sub>   | P<br><br>R                                | 完新世<br>後期<br>中期<br>前前期 | 第<br>四<br>紀<br>更新世<br>中期<br>前前期 |
| 新<br>第<br>三<br>紀<br>鮮新世<br>中中新世             | 松江層<br>古江層<br>牛切層<br>成相寺層<br>吉前層 | C<br><br>D<br>D <sub>1</sub><br>D <sub>2</sub>                                    | T   | C<br><br>D<br>D <sub>1</sub><br>D <sub>2</sub>                                | T <sub>1</sub><br>H <sub>2a,b</sub><br>H <sub>3</sub><br>番住冲層<br>(K <sub>a</sub> )<br>音響基盤<br>(A <sub>1</sub> ) | M <sub>1</sub><br><br>M<br>M <sub>2</sub> | 鮮新世<br>中中新世            | 新<br>第<br>三<br>紀<br>中中新世        |
| 火山岩類  | 大根島玄武岩<br>久羅山安山岩<br>新第三紀貫入岩類     | V   |   |   |   | V <sub>I</sub>                            | 火山岩類                   |                                 |

1): 不整合  
2): 下層には火山岩類が含まれている可能性がある。  
3): 整合・不整合関係は記載されていない。  
4): 火山岩類については記載されていない。

地質調査所「日本海南部および対馬海峡周辺」(1/100万) C C' 断面図



解析断面図 GD-111-2[エアガン]



再解析結果と他機関(地質調査所)の地質断面図を比較すると、当社の層序区分のQ／T境界は地質調査所のP／R境界に対比され、Q層は中部更新統～完新統、T層は中新統～下部更新統と判断される。

# 5. 敷地周辺海域の地質層序 (3)その他海域 まとめ

第95回審査会合  
資料3-2 P129 加筆・修正

183

| 調査区域<br>文献名<br>地質時代 | 陸域の地質                 | 海 域   |                                  |                              |                |                    |   |                   |                                    |                             |  |                          |                          | 調査区域<br>文献名<br>地質時代 |      |                       |  |
|---------------------|-----------------------|-------|----------------------------------|------------------------------|----------------|--------------------|---|-------------------|------------------------------------|-----------------------------|--|--------------------------|--------------------------|---------------------|------|-----------------------|--|
|                     | 敷地周辺                  | 中海    | 宍道湖                              | 古浦沖                          | 敷地前面           | 敷地周辺               | 大田沖 <sup>*1</sup>   | 鳥取沖 <sup>*2</sup> | 鳥取沖                                | 隱岐海峡                        | 大社   | 日御崎                      | 美保関                      |                     |      |                       |  |
|                     | 中国電力㈱                 | 中国電力㈱ | 中国電力㈱                            | 中国電力㈱                        | 中国電力㈱          | 中国電力㈱              | 中国電力㈱   | 中国電力㈱             | 山本ほか(1989) <sup>*4</sup>           | 玉木ほか(1982) <sup>*3,*4</sup> | 水路部(1993a) <sup>*4</sup>   | 水路部(1991b) <sup>*4</sup> | 水路部(1992a) <sup>*4</sup> |                     |      |                       |  |
| 第<br>四<br>紀         | 完新世                   |       | 冲積低地堆積物<br>砂丘堆積物                 | I_N                          | I_S            | I_K<br>II_K        | A   | A                 | A                                  | Q <sub>1</sub>              | I_T  | I_H                      | I_M                      | 完新世                 |      | 第<br>四<br>紀           |  |
|                     | 後期<br>更新世<br>中期<br>前期 | 段丘堆積物 | II_N                             | II_S                         | III_K          | B                  | B <sub>1F</sub><br>B <sub>1W</sub><br>B <sub>2W</sub><br>B <sub>2E</sub><br>B <sub>3W</sub> | Q                 | B                                  | B <sub>x</sub>              | B <sub>1</sub><br>B <sub>2</sub><br>B <sub>3</sub><br>B <sub>4</sub> | Tt <sub>2</sub>          | II_T, III_T, IV_T        | II_H, III_H, IV_H   | II_M | 後期<br>更新世<br>中期<br>前期 |  |
|                     |                       |       | C                                | C                            | C              | Tt <sub>1</sub>    | P   | V_T, VI_T         | V <sub>1H</sub> , VI <sub>1H</sub> | VII_T                       | VII_H  | III_M                    |                          |                     |      |                       |  |
|                     |                       |       | D                                | D <sub>1</sub>               | D              | Hm <sub>2a,b</sub> | M <sub>1</sub>  | IX_T              | IX <sub>11</sub>                   | VIII_T                      | VIII_H   | 鮮新世                      | 新<br>第<br>三<br>紀         |                     |      |                       |  |
|                     |                       |       | D <sub>2</sub>                   | D <sub>2</sub>               | D <sub>2</sub> | Hm <sub>1</sub>    | 香住沖層(Ka)  | X_T               | X <sub>11</sub>                    | IX <sub>11</sub>            | IV_M   |                          |                          |                     |      |                       |  |
|                     | 新<br>第<br>三<br>紀      | 鮮新世   | III_N<br>IV_N<br>V_N<br>VI_N     | III_S<br>IV_S<br>V_S<br>VI_S | D <sub>2</sub> | T                  | 音響基盤(At)  | M <sub>2</sub>    | V <sub>M</sub>                     | V <sub>11</sub>             | V <sub>M</sub>   |                          |                          |                     |      |                       |  |
|                     |                       |       | 松江層<br>古江層<br>牛切層<br>成相寺層<br>古浦層 | IV_N<br>V_N<br>VI_N          | V              |                    |   |                   |                                    |                             |  |                          |                          |                     |      |                       |  |
|                     |                       |       | 大根島玄武岩                           | VII_N                        |                |                    |   |                   |                                    |                             |  |                          |                          |                     |      |                       |  |
|                     |                       |       | 和久羅山安山岩<br>新第三紀貫入岩類              | VIII_N                       | VIII_S         |                    |   |                   |                                    |                             |  |                          |                          |                     |      |                       |  |
|                     |                       |       |                                  |                              |                |                    |   |                   |                                    |                             |  |                          |                          |                     |      |                       |  |
|                     |                       |       |                                  |                              |                |                    |   |                   |                                    |                             |  |                          |                          |                     |      |                       |  |
| 火山岩・貫入岩             |                       |       |                                  |                              |                |                    |   |                   |                                    |                             |  |                          |                          | 火山岩・貫入岩             |      |                       |  |

\*1:島根県中部沖の海域を示す。

\*2:兵庫県新温泉町沖から島根県松江市美保関町東方沖にかけての海域を示す。

\*3:玉木ほか(1982)の地質時代は、山本ほか(1989)を参照した。

\*4:整合・不整合関係は記載されていない。

：整合

~~~~~：不整合

その他海域の地層は、上位からQ層及びT層に区分され、Q層は中部更新統～完新統、T層は中新統～下部更新統と判断される。

# 参考：音波探査仕様(中国電力実施)

| 調査機関                | 中国電力株式会社              |                                 |                                                                     |                                 |                                                                     |                                 |                                                                     |                                                                         |                                                                     |                                                                            |
|---------------------|-----------------------|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 調査海域                | 敷地前面海域                |                                 |                                                                     |                                 | 敷地前面及び周辺海域                                                          |                                 |                                                                     |                                                                         | 鳥取沖                                                                 | 美保湾                                                                        |
| 調査年                 | 1981                  | 2007                            |                                                                     | 2010                            |                                                                     | 2014                            |                                                                     |                                                                         | 1999                                                                | 1998                                                                       |
| 調査の種類               | シングルチャンネル<br>(アナログ方式) | マルチチャンネル<br>ショートタイプ<br>(デジタル方式) | マルチチャンネル<br>ショートタイプ<br>(デジタル方式)                                     | マルチチャンネル<br>ショートタイプ<br>(デジタル方式) | マルチチャンネル<br>ショートタイプ<br>(デジタル方式)                                     | マルチチャンネル<br>ショートタイプ<br>(デジタル方式) | マルチチャンネル<br>ショートタイプ<br>(デジタル方式)                                     | マルチチャンネル<br>(デジタル方式)                                                    | シングルチャンネル<br>(アナログ方式)                                               | マルチチャンネル<br>(デジタル方式)                                                       |
| 発振器                 | スパーカー                 | ブーマー<br>(ジオパルス)                 | ウォーターガン                                                             | ブーマー<br>(AA300)                 | ウォーターガン                                                             | ブーマー<br>(AA300)                 | ウォーターガン                                                             | エアガン                                                                    | ウォーターガン                                                             | エアガン<br>(G1ガソ)                                                             |
| 発振音源出力              | 700J                  | 280J                            | 容量:15in <sup>3</sup><br>空気圧力:<br>130kg/cm <sup>2</sup><br>(約4,000J) | 300J                            | 容量:15in <sup>3</sup><br>空気圧力:<br>130kg/cm <sup>2</sup><br>(約4,000J) | 300J                            | 容量:15in <sup>3</sup><br>空気圧力:<br>130kg/cm <sup>2</sup><br>(約4,000J) | 容量:(300)in <sup>3</sup><br>空気圧力:<br>120kg/cm <sup>2</sup><br>(約60,000J) | 容量:15in <sup>3</sup><br>空気圧力:<br>130kg/cm <sup>2</sup><br>(約3,500J) | 容量:(45+105)in <sup>3</sup><br>空気圧力:<br>130kg/cm <sup>2</sup><br>(約17,000J) |
| 発振音の周波数<br>(一般的)    | 100～1000Hz            | 400～1,400Hz                     | 50～250Hz                                                            | 400～1,400Hz                     | 50～250Hz                                                            | 400～1,400Hz                     | 50～250Hz                                                            | 数Hz～128Hz                                                               | 50～250Hz                                                            | 数Hz～128Hz                                                                  |
| 発振間隔                | 1.6sec                | 1.25m                           | 2.5m                                                                | 1.25m                           | 2.5m                                                                | 1.25m                           | 2.5m                                                                | 12.5m                                                                   | 1.6sec                                                              | 12.5m                                                                      |
| 受振器                 | 1ch<br>受振点間隔:<br>2.5m | 12ch<br>受振点間隔:<br>2.5m          | 12ch<br>受振点間隔:<br>2.5m                                              | 16ch<br>受振点間隔:<br>2.5m          | 16ch<br>受振点間隔:2.5m                                                  | 16ch<br>受振点間隔:2.5m              | 16ch<br>受振点間隔:2.5m                                                  | 48ch<br>受振点間隔:<br>12.5m                                                 | 1ch<br>受振点間隔:<br>12.5m                                              | 48ch<br>(一部24ch)<br>受振点間隔:12.5m                                            |
| ケーブル長               | —                     | 約30m                            | 約30m                                                                | 約40m                            | 約40m                                                                | 約40m                            | 約40m                                                                | 約600m                                                                   | —                                                                   | 約300～600m                                                                  |
| データ収録時の<br>周波数レンジ   | 150～700Hz             | out～3kHz                        | out～1.5kHz                                                          | out～3kHz                        | out～1.5kHz                                                          | out～3kHz                        | out～1.5kHz                                                          | out～400Hz                                                               | 50～500Hz                                                            | off                                                                        |
| 収録時間長               | 0.533sec              | 0.4sec                          | 1.0sec                                                              | 0.4sec                          | 1.0sec                                                              | 0.6sec                          | 1.0sec                                                              | 4.0sec                                                                  | 0.533sec                                                            | 3.0sec                                                                     |
| 収録時<br>サンプリングレート    | —                     | 0.1msec                         | 0.167msec                                                           | 0.1msec                         | 0.1msec                                                             | 0.1msec                         | 0.1msec                                                             | 1.0msec                                                                 | —                                                                   | 1.0msec                                                                    |
| データ処理時<br>サンプリングレート | —                     | 0.1msec                         | 0.5msec                                                             | 0.1msec                         | 0.5msec                                                             | 0.1msec                         | 0.5msec                                                             | 1.0msec                                                                 | —                                                                   | 1.0msec                                                                    |

# 参考：音波探査仕様(他機関実施)

|                     |                          |                                                                     |                                                                              |                                                                              |                       |                        |                                                                                      |                       |                       |                                                                                           |                       |                              |
|---------------------|--------------------------|---------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|------------------------------|
| 調査機関                | 原子力安全保安院                 |                                                                     | 地質調査所                                                                        |                                                                              |                       |                        |                                                                                      |                       |                       |                                                                                           |                       |                              |
| 調査海域                | 敷地前面海域<br>及び美保関沖         |                                                                     | 島根・鳥取沖                                                                       |                                                                              | 隠岐海峡                  |                        |                                                                                      |                       |                       |                                                                                           | 見島沖・見島北方・響灘           |                              |
| 調査年                 | 2008                     |                                                                     | 1986                                                                         |                                                                              | 1977                  |                        |                                                                                      | 1978                  |                       |                                                                                           | 1985                  |                              |
| 調査の種類               | マルチチャンネル<br>(デジタル方式)     | マルチチャンネル<br>(デジタル方式)                                                | シングルチャンネル<br>(アナログ方式)                                                        | シングルチャンネル<br>(アナログ方式)                                                        | シングルチャンネル<br>(アナログ方式) | シングルチャンネル<br>(アナログ方式)  | シングルチャンネル<br>(アナログ方式)                                                                | シングルチャンネル<br>(アナログ方式) | シングルチャンネル<br>(アナログ方式) | シングルチャンネル<br>(アナログ方式)                                                                     | シングルチャンネル<br>(アナログ方式) | シングルチャンネル<br>(アナログ方式)        |
| 発振器                 | ブーマー                     | ウォーターガン                                                             | エアガン                                                                         | サブボトムプロ<br>ファイラー<br>(3.5kHz)                                                 | エアガン                  | スパークー                  | サブボトムプロ<br>ファイラー<br>(3.5kHz)                                                         | エアガン                  | スパークー                 | サブボトムプロ<br>ファイラー<br>(3.5kHz)                                                              | エアガン                  | サブボトムプロ<br>ファイラー<br>(3.5kHz) |
| 発振音源出力              | 300J                     | 容量:15in <sup>3</sup><br>空気圧力:<br>130kg/cm <sup>2</sup><br>(約3,500J) | 容量:<br>120in <sup>3</sup> ×2<br>空気圧力:<br>115kg/cm <sup>2</sup><br>(約80,000J) | 容量:<br>120in <sup>3</sup> ×2<br>空気圧力:<br>115kg/cm <sup>2</sup><br>(約80,000J) | 10,000J               |                        | 容量:40in <sup>3</sup> ×2<br>(波形整形器付き)<br>空気圧力:<br>105kg/cm <sup>2</sup><br>(約24,000J) | 10,000J               |                       | 容量:<br>120in <sup>3</sup> ×2<br>(波形整形器付き)<br>空気圧力:<br>105kg/cm <sup>2</sup><br>(約72,000J) |                       |                              |
| 発振音の周波数<br>(一般的)    | 50~10,000Hz              | 50~2,500Hz                                                          | 数Hz~128Hz                                                                    |                                                                              | 数Hz~128Hz             | 100~1000Hz             |                                                                                      | 数Hz~128Hz             | 100~1000Hz            |                                                                                           | 数Hz~128Hz             |                              |
| 発振間隔                | 1.6~1.8m                 | 9.375m                                                              | 8sec                                                                         |                                                                              | 8sec                  | —                      |                                                                                      | 4sec                  | 2.26sec               |                                                                                           | 6sec                  |                              |
| 受振器                 | 18ch<br>受振点間隔:<br>3.125m | 48ch<br>受振点間隔:<br>6.25m                                             | 1ch                                                                          | 1ch                                                                          | 1ch                   | 1ch                    | 1ch                                                                                  | 1ch                   | 1ch                   | 1ch                                                                                       | 1ch                   | 1ch                          |
| ケーブル長               | 約56m                     | 約300m                                                               | —                                                                            |                                                                              | —                     | —                      |                                                                                      | —                     | —                     |                                                                                           | —                     |                              |
| データ収録時の<br>周波数レンジ   | 3.8~3,400Hz              | 3.8~1,700Hz                                                         | 40~125Hz<br>(20~98Hz)                                                        |                                                                              | 40~125Hz<br>(20~98Hz) | 100~300Hz<br>150~350Hz |                                                                                      | 31~125Hz              | 60~160Hz              |                                                                                           | 10~125Hz<br>20~200Hz  |                              |
| 収録時間長               | 0.5sec                   | 2.0sec                                                              | 2.0sec<br>4.0sec                                                             | 700m                                                                         | 2.0sec<br>4.0sec      | 1.067sec               | 700m                                                                                 | 2.0sec                | 2.0sec<br>1.067sec    | 700m                                                                                      | 2.0sec                | 700m                         |
| 収録時<br>サンプリングレート    | 0.125msec                | 0.25msec                                                            | —                                                                            |                                                                              | —                     | —                      |                                                                                      | —                     | —                     |                                                                                           | —                     |                              |
| データ処理時<br>サンプリングレート | -                        | -                                                                   | —                                                                            |                                                                              | —                     | —                      |                                                                                      | —                     | —                     |                                                                                           | —                     |                              |

参考:音波探査仕様(他機関実施)

# 参考文献

- (1)伊藤康人・荒戸裕之(1999):九州西方ー山陰・北陸海域日本海南部における鮮新世以降の応力場変遷, 地質ニュース 第541号
- (2)鹿野和彦・山内靖喜・高安克己・松浦浩久・豊遙秋(1994):松江地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅), 地質調査所
- (3)多井義郎(1973):いわゆる宍道褶曲帯について, 地質学論集 第9号
- (4) Pineda-Velasco.I・Kitagawa.H・Nguyen.T.-T・Kobayashi.K・Nakamura.E (2018) : Production of High-Sr Andesite and Dacite Magmas by Melting of Subducting Oceanic Lithosphere at Propagating Slab Tears, Journal of Geophysical Research Solid Earth. 2018, Vol.123, No.5
- (5)鹿野和彦・吉田史郎(1985):境港地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅), 地質調査所
- (6)鎌田浩毅(1999):西南日本弧と琉球弧の会合部に見られる6Maと2Maの広域テクトニクス転換の重要性, 月刊地球 Vol.21 No.10
- (7)地質調査総合センター編(2013):日本重力CD-ROM, 第2版, 数値地質図, 地質調査総合センター
- (8)活断層研究会編(1991):[新編]日本の活断層一分布図と資料 東京大学出版会
- (9)玉木賢策・本座栄一・湯浅真人・西村清和・村上文敏(1981):日本海中部海域広域海底地質図(100万分の1), 海洋地質図, 15号, 地質調査所
- (10)玉木賢策・湯浅真人・村上文敏(1982):隠岐海峡海底地質図(20万分の1)及び同説明書, 海洋地質図, 20号, 地質調査所
- (11)脇田浩二・岡村行信・栗田泰夫(1992):日本地質構造図 1:300万, 日本地質アトラス(第2版), 地質調査所編 朝倉書店
- (12)海上保安庁水路部(1978):大陸棚の海の基本図(20万分の1), 海底地質構造図「隠岐海峡」
- (13)海上保安庁水路部(1991):沿岸の海の基本図(5万分の1)海底地形図・海底地質構造図及び調査報告「日御崎」
- (14)海上保安庁水路部(1992):沿岸の海の基本図(5万分の1)海底地形図・海底地質構造図及び調査報告「美保関」
- (15)徳山英一・本座栄一・木村政昭・倉本真一・芦寿一郎・岡村行信・荒戸裕之・伊藤康人・徐垣・日野亮太・野原壯・阿部寛信・坂井眞一・向山健二郎(2001):日本周辺海域中新世最末期以降の構造発達史, 海洋調査技術 13, 1
- (16)国土交通省・内閣府・文部科学省(2014):日本海における大規模地震に関する調査検討会 報告書
- (17)海上保安庁水路部(1993):沿岸の海の基本図(5万分の1)海底地形図・海底地質構造図及び調査報告「大社」
- (18)海上保安庁水路部(1991):沿岸の海の基本図(5万分の1)海底地形図・海底地質構造図及び調査報告「赤崎」
- (19)海上保安庁水路部(1990):沿岸の海の基本図(5万分の1)海底地形図・海底地質構造図及び調査報告「隠岐南部」
- (20)日本水路協会(2008):海底地形デジタルデータM013Ver2.0「隠岐」

# 参考文献

- (21)本座栄一・玉木賢策・湯浅真人・村上文敏・石橋壽一・上嶋正人(1979):日本海南部および対馬海峡周辺広域海底地質図(100万分の1), 海洋地質図, 13号, 地質調査所
- (22)山本博文・上嶋正人・岸本清行(1989):鳥取沖海底地質図(20万分の1)及び同説明書, 海洋地質図, 35号, 地質調査所
- (23)海上保安庁水路部(1980):沿岸の海の基本図(20万分の1)海底地質構造図「三番瀬」
- (24)海上保安庁水路部(1976):沿岸の海の基本図(20万分の1)海底地質構造図「鳥取沖」
- (25)海上保安庁水路部(1980):沿岸の海の基本図(20万分の1)海底地質構造図「島後堆」
- (26)海上保安庁水路部(1978):沿岸の海の基本図(20万分の1)海底地質構造図「見島北方」
- (27)海上保安庁水路部(1978):沿岸の海の基本図(20万分の1)海底地質構造図「見島沖」
- (28)海上保安庁水路部(1987):沿岸の海の基本図(5万分の1)海底地形図・海底地質構造図及び調査報告「隠岐北部」
- (29)海上保安庁水路部(1993):沿岸の海の基本図(5万分の1)海底地形図・海底地質構造図及び調査報告「余部埼」
- (30)海上保安庁水路部(1992):沿岸の海の基本図(5万分の1)海底地形図・海底地質構造図及び調査報告「鳥取」
- (31)海上保安庁水路部(1995):沿岸の海の基本図(5万分の1)海底地形図・海底地質構造図及び調査報告「江津」
- (32)海上保安庁水路部(1996):沿岸の海の基本図(5万分の1)海底地形図・海底地質構造図及び調査報告「浜田」
- (33)海上保安庁水路部(1995):沿岸の海の基本図(5万分の1)海底地形図・海底地質構造図及び調査報告「須佐」
- (34)活断層研究会編(1991):[新編]日本の活断層一分布図と資料, 東京大学出版会
- (35)海上保安庁水路部(1980):大陸棚の海の基本図(20万分の1), 海底地質構造図「島後堆」
- (36)玉木賢策・湯浅真人・村上文敏(1982):隠岐海峡海底地質図(20万分の1)及び同説明書, 海洋地質図, 20号, 地質調査所
- (37)酒井哲弥, 斎藤文紀, 増田富士雄(1995):シーケンス層序学入門, 地質学論集
- (38)田中隆・小草欽治(1981):山陰沖における中期中新世以降の構造運動, 地質学雑誌 第87巻
- (39)Martinson, D. G・N. G. Pisias・J. D. Hays・J. Imbrie・T. C. Moore ・N. J. Shackleton(1987):  
Age Dating and the Orbital Theory of the Ice Ages – Development of a High-Resolution-0 to 300,000-Year  
Chronostratigraphy, Quaternary Research, 27(1)
- (40)町田洋・新井房夫(2011):新編日本の火山灰アトラス(第2刷), 東京大学出版会
- (41)林正久・三浦清(1986):三瓶雲南軽石層の鉱物特性と分布の広域性, 山陰地域研究(自然環境) 第2号